

Acronis

acronis.com

Acronis True Image OEM



目次

はじめに	7
Acronis True Image OEM とは	7
システム要件とサポートされるメディア	7
最小システム要件	7
サポートされるオペレーティング システム	8
サポートされるファイル システム	8
サポートされているインターネット接続タイプ	9
サポートされるストレージ メディア	9
Acronis True Image OEM のインストールとアンインストール	10
Acronis True Image OEMの有効化	11
アクティブ化されている製品の数が多すぎる問題	11
Acronis True Image OEM のアップグレード	12
ビルトイン ストア	12
Acronis True Image のアドバンスト機能	12
サポートセンターのホームページ	14
はじめに	15
ユーザーインターフェイスの言語	15
システムの保護	15
コンピュータのバックアップ中	15
Acronis ブータブルメディア の作成	17
PCのすべてのデータのバックアップ	17
ファイルのバックアップ	19
ハードディスクドライブのクローン作成	19
ハード ディスク ドライブのクローン作成が必要な理由	19
開始する前に	20
ディスクのクローン作成	20
コンピュータのリカバリ	21
基本的な概念	24
ファイル バックアップとディスク/パーティション イメージの違い	25
完全バックアップ、増分バックアップ、差分バックアップ	26
完全バックアップ	26
増分バックアップ	27
差分バックアップ	28
Changed Block Tracker (CBT)	29
バックアップの保存場所の決定	30

バックアップ用の新しいディスクを準備する	31
FTP接続	31
認証設定	32
Acronis Nonstop Backup	33
Nonstop Backupの制限	33
動作	33
保持ルール	34
Acronis ノンストップバックアップのデータストレージ	34
Nonstop Backup - FAQ	35
バックアップファイルの命名	36
Windowsとの統合	36
ウィザード	37
バックアップ、リカバリ、およびクローン作成に関するFAQ	38
データのバックアップ	41
ディスクとパーティションのバックアップ	41
ファイルやフォルダのバックアップ	43
バックアップ オプション	44
スケジュール設定	45
バックアップ スキーム	48
バックアップ処理の通知	54
イメージ作成モード	56
バックアップ処理前後に実行するコマンド	56
バックアップの分割	57
バックアップのベリファイ オプション	58
バックアップの予備コピー	59
エラー処理	59
バックアップ用のファイル レベルのセキュリティ設定	60
コンピュータのシャットダウン	61
バックアップ処理のパフォーマンス	61
ラップトップ電源の設定	63
バックアップの操作	64
バックアップ処理メニュー	64
バックアップアクティビティと統計	65
リスト内でのバックアップの並べ替え	66
バックアップのベリファイ	67
バックアップの保存先の分散	67
既存のバックアップをリストに追加する	68

バックアップとバックアップバージョンのクリーンアップ	68
データの復元	71
ディスクとパーティションのリカバリ	71
クラッシュ後のシステムの復元	71
パーティションとディスクのリカバリ	82
ダイナミック/GPTディスクおよびボリュームの復元について	84
BIOSまたはUEFI BIOSでの起動順の並べ替え	88
ファイルとフォルダのリカバリ	89
バックアップの内容の検索	90
リカバリ オプション	91
ディスクリカバリモード	91
リカバリの前後に実行するコマンド	91
ベリファイオプション	92
コンピュータの再起動	92
ファイルリカバリオプション	93
ファイル上書きオプション	93
リカバリ処理のパフォーマンス	94
リカバリ処理の通知	94
保護	97
[保護] ダッシュボード	97
Active Protection	97
ランサムウェア対策保護	97
検疫内のファイルの管理	98
ディスクのクローン作成と移行	99
ディスクのクローン作成ユーティリティ	99
ディスクのクローン作成ウィザード	100
手動パーティション操作	101
クローン作成からの項目の除外	103
HDDからSSDへのシステムの移行	105
SSD のサイズ	105
選択する移行モード	105
Acronis True Image OEM が SSD を認識しない場合の処理	105
バックアップとリカバリを使用した SSD への移行	107
ツール	109
Acronis メディアビルダー	109
Acronis ブータブルメディア の作成	110
Acronis ブータブルメディア 起動パラメータ	111

既存の.wimイメージへのドライバの追加	113
.wim ファイルからの .iso ファイルの作成	114
必要なときにブータブルメディアを確実に使用できるようにする	115
ブータブルメディアからの起動時におけるビデオモードの選択	119
Acronis Startup Recovery Manager	120
追加情報	121
新しいハードディスクの追加	122
ハードディスクの選択	122
初期化方法の選択	123
新しいパーティションの作成	124
セキュリティ ツールおよびプライバシー ツール	127
Acronis DriveCleanser	127
バックアップイメージのマウント	133
イメージのマウント方法	133
イメージのアンマウント	134
.vhd (x) ファイルの使用方法	134
.vhd (x) ファイルの使用方法	135
制限事項と追加情報	135
Acronis バックアップの変換	135
バックアップ設定のインポートとエクスポート	136
トラブルシューティング	138
特に頻繁に発生する問題の解決	138
Acronis システムレポート	138
Acronis Smart Error Reporting	140
インターネットに接続できる場合	140
インターネットに接続できない場合	140
クラッシュダンプの収集方法	140
用語集	142
索引	145

著作権情報

© Acronis International GmbH, 2003-2022.All rights reserved.

ユーザーズ ガイドに掲載されているすべての商標や著作権は、それぞれ各社に所有権があります。

著作権者の明示的許可なく本書を修正したものを配布することは禁じられています。

著作権者の事前の許可がない限り、商用目的で書籍の体裁をとる作品または派生的作品を販売させることは禁じられています。

本書は「現状のまま」使用されることを前提としており、商品性の黙示の保証および特定目的適合性または非違反性の保証など、すべての明示的もしくは黙示的条件、表示および保証を一切行いません。ただし、この免責条項が法的に無効とされる場合はこの限りではありません。

本ソフトウェアまたはサービスにサードパーティのコードが付属している場合があります。サードパーティのライセンス条項の詳細については、ルート インストール ディレクトリにある license.txt ファイルをご参照ください。ソフトウェアまたはサービスで使用されているサードパーティコードおよび関連ライセンス条件の最新の一覧については <https://kb.acronis.com/content/7696> (英語) をご参照ください

Acronis の特許取得済みの技術

この製品で使用されている技術は、以下の番号の 1 つ以上の米国特許によって保護されています。

7,047,380号、7,246,211号、7,275,139号、7,281,104号、7,318,135号、7,353,355号、7,366,859号、7,383,327号、7,475,282号、7,603,533号、7,636,824号、7,650,473号、7,721,138号、7,779,221号、7,831,789号、7,836,053号、7,886,120号、7,895,403号、7,934,064号、7,937,612号、7,941,510号、7,949,635号、7,953,948号、7,979,690号、8,005,797号、8,051,044号、8,069,320号、8,073,815号、8,074,035号、8,074,276号、8,145,607号、8,180,984号、8,225,133号、8,261,035号、8,296,264号、8,312,259号、8,347,137号、8,484,427号、8,645,748号、8,732,121号、8,850,060号、8,856,927号、8,996,830号、9,213,697号、9,400,886号、9,424,678号、9,436,558号、9,471,441号、9,501,234号、および出願中特許。

はじめに

Acronis True Image OEM とは

Acronis True Image OEM は、すべての情報を安全に守るための完全なサイバープロテクションソリューションです。文書、写真、電子メール、選択したパーティション、さらにはディスクドライブ全体をもバックアップすることができます。バックアップ対象には、オペレーティングシステム、アプリケーション、設定、その他すべてのデータが含まれます。その主な利点として、データ保護とセキュリティの機能があります。

バックアップがあれば、データの損失、重要なファイルやフォルダの誤削除、ハードディスクの完全クラッシュなどの障害や災害が発生した場合にコンピュータシステムをリカバリできます。

主な機能:

- Acronis ブータブルメディア
- ハードディスクのクローン作成
- セキュリティ ツールおよびプライバシー ツール

コンピュータを保護する方法については、「[システムの保護](#)」を参照してください。

システム要件とサポートされるメディア

最小システム要件

Acronis True Image OEM を実行するには次のハードウェアが必要です。

- OEM デバイス
- Intel CORE 2 Duo (2GHz) プロセッサまたは同等品
CPU が SSE 命令をサポートしている必要あり。
- 2 GB の RAM
- システム ハードディスク上に 7 GB の空き領域
- ブータブルメディア作成用の CD-RW/DVD-RW ドライブまたは USB ドライブ
 - Linux の場合、約 660 MB の空き領域が必要。
 - Windows の場合、約 700 MB の空き領域が必要。
- 1024 x 768 の画面解像度
- マウスまたはその他のポインティング デバイス (推奨)

警告

バックアップとリカバリが成功しても、仮想マシンでのインストールが保証されるわけではありません。

その他の要件

- 製品のアクティベーションと保護アップデートのダウンロードにはインターネット接続が必要です。
- Acronis True Image OEM を実行するための管理者権限が必要になります。

サポートされるオペレーティングシステム

Acronis True Image OEM は、次のオペレーティングシステムでテスト済みです。

- Windows 11
- Windows 10
- Windows 8.1
- Windows 8
- Windows 7 SP1 (全エディション)
- Windows Home Server 2011

注意

- ベータビルドはサポートされていません。 <https://kb.acronis.com/content/60589> を参照してください。
- Windows Embedded、IoT エディション、Windows 10 LTSC、Windows 10 LTSC、および S モードの Windows 10 はサポートされていません。
- Acronis True Image OEM を Windows 7、Windows 8、および Windows 8.1 で使用するには、Microsoft からの次のセキュリティ更新が必要になります: KB4474419 と KB4490628。 <https://kb.acronis.com/content/69302> を参照してください。

Acronis True Image OEM では、Intel または AMD ベースの PC オペレーティングシステム (Linux® を含む) を実行するコンピューター上のディスク/パーティションをバックアップして復元するためのブータブル CD-R/DVD-R または USB ドライブを作成することもできます。

その他の Windows オペレーティングシステム上でソフトウェアが動作する可能性があります、保証されません。

警告

復元の成功が保証されるのは、サポートされるオペレーティングシステムの場合のみです。セクタ単位でのバックアップを使用してその他のオペレーティングシステムをバックアップすることもできますが、その場合、復元後に起動できなくなる可能性があります。

サポートされるファイルシステム

- NTFS
- Ext2/Ext3/Ext4
- ReiserFS(3)¹

¹ファイルシステムは、ディスクまたはパーティションのバックアップ/復元処理においてのみサポートされます。

- Linux SWAP¹
- HFS+/HFSX²
- FAT16/32/exFAT³

ファイルシステムがサポート対象外または破損している場合も、Acronis True Image OEM ではデータをセクタ単位でコピーできます。

サポートされているインターネット接続タイプ

以下の表に、製品の機能でサポートされているインターネット接続タイプをまとめます。

	インターネット接続タイプ				
	Windows の Acronis コンソール		Acronis ブータブルメディア		
	Windowsで確立されるすべての接続	プロキシサーバー	イーサネットケーブル	WiFi	プロキシサーバー
製品の有効化	+	-	-	-	-
製品のアップデート	+	- *	-	-	-

サポートされるストレージメディア

- ハードディスクドライブ (HDD)
- ソリッドステートドライブ (SSD)
- ネットワーク上のストレージデバイス
- FTP サーバー

注意

FTP サーバー側がパッシブモードのファイル転送を許可する必要があります。Acronis True Image OEM は、FTP サーバーに直接バックアップするときに、バックアップを 2 GB ずつのサイズのファイルに分割します。

- CD-R/RW、DVD-R/RW、DVD+R (2 層ディスクの DVD+R を含む)、DVD+RW、DVD-RAM、BD-R、BD-RE
- USB 1.1/2.0/3.0、USB-C、eSATA、FireWire (IEEE-1394)、SCSI、および PC カードストレージデバイス

¹ファイルシステムは、ディスクまたはパーティションのバックアップ/復元処理においてのみサポートされます。

²ディスクの復元、パーティションの復元、クローン作成の操作はサポートされますが、サイズ変更はできません。

³ディスクの復元、パーティションの復元、クローン作成の操作はサポートされますが、サイズ変更はできません。

ダイナミックディスクを操作する場合の制限事項

- ダイナミック ボリュームをダイナミック ボリュームとしてリカバリするときに、手動でサイズを変更することはできません。
- ディスクのクローン作成処理は、ダイナミック ディスクではサポートされていません。

バックアップ元のコンピュータのファイアウォール設定では、ポート 20 および 21 が TCP プロトコルと UDP プロトコル用に開いており、機能するようになっておく必要があります。Windows の **ルーティングとリモート アクセス** サービスは無効にする必要があります。

Acronis True Image OEM のインストールとアンインストール

Acronis True Image OEM をインストールするには、次のようにします。

1. セットアップ ファイルを実行します。
2. インストールの種類を選択してください。
 - **[インストール]** をクリックすると、デフォルトのインストールが開始します。
 - **[カスタムインストール]** をクリックすると、必要なコンポーネントを選択できます。Acronis True Image OEM がシステムパーティションにインストールされます（通常は C ドライブ）。
3. インストールが完了したら、**[アプリケーションを開始]** をクリックします。
4. Acronis True Image OEM および Bonjour の使用許諾契約の条件を読んで同意します。
Bonjour ソフトウェアは、NAS デバイスのアドバンスドサポートとしてコンピュータにインストールされます。ソフトウェアは、いつでもアンインストールできます。
5. **[サインイン]** タブで、ご使用のアカウントの資格情報を入力し、**[サインイン]** をクリックします。
6. アカウントを登録していない場合は、**[アカウントの作成]** タブに移動し、登録フォームに入力して、**[アカウントの作成]** をクリックします。

注意

64桁のプロダクトキーをお持ちの場合は、この手順をスキップできます。

7. プロダクト キーを入力して、**[アクティブ化]** をクリックします。16 桁のプロダクト キーを使用して Acronis True Image OEM をアクティブ化するには、インターネット接続が必要です。64 桁のフルプロダクト キーは自動的に取得され、アクティブ化されます。

Acronis True Image OEM のエラーからリカバリする手順は、次のとおりです。

Acronis True Image OEM が動作しなくなったりエラーが発生したりした場合は、ファイルが破損している可能性があります。このような問題に対処するには、まずプログラムを復旧する必要があります。そのためには、Acronis True Image OEM インストーラを再度実行します。インストーラによりコンピューター上の Acronis True Image OEM が検出され、変更するか削除するかの確認を求められます。

Acronis True Image OEM のコンポーネントを追加または削除するには

- Windows 11 をご利用の場合は、[スタート] → [設定] → [アプリ] → Acronis True Image OEM → [変更] の順にクリックします。
- Windows 10 をご利用の場合は、[スタート] → [設定] → [アプリ] → Acronis True Image OEM → [変更] の順にクリックします。
- Windows 8 をご利用の場合は、[設定] アイコンをクリックし、[コントロール パネル] → [プログラムのアンインストール] → [Acronis True Image OEM] → [変更] の順に選択します。
- Windows 7 をご利用の場合は、[スタート] → [コントロール パネル] → [プログラムのアンインストール] → [Acronis True Image OEM] → [変更] の順にクリックします。

インストーラで、[変更] をクリックします。次に、必要なコンポーネントのチェックボックスをオンまたはオフにします。削除を完了するために、コンピューターの再起動が必要になる場合があります。

Acronis True Image OEM を完全にアンインストールするには

- Windows 11 をご利用の場合は、[スタート] → [設定] → [アプリ] → Acronis True Image OEM → [アンインストール] の順にクリックします。
- Windows 10 をご利用の場合は、[スタート] → [設定] → [アプリ] → Acronis True Image OEM → [アンインストール] の順にクリックします。
- Windows 8 をご利用の場合は、[設定] アイコンをクリックし、[コントロール パネル] → [プログラムのアンインストール] → [Acronis True Image OEM] → [アンインストール] の順に選択します。
- Windows 7 をご利用の場合は、[スタート] → [コントロール パネル] → [プログラムのアンインストール] → [Acronis True Image OEM] → [アンインストール] の順にクリックします。

画面の指示に従って操作します。削除を完了するために、コンピューターの再起動が必要になる場合があります。

注意

Acronis True Image OEMの有効化

Acronis True Image OEM を使用するには、インターネット経由でこれを有効化する必要があります。有効化しない場合、製品の全機能の利用有効期間は 30 日です。この期間にアクティブ化しないと、リカバリ以外のすべての機能が利用できなくなります。コンピューターを初めてインターネットに接続し、ログイン名とパスワードを使用して Acronis True Image OEM にログインすると、製品が自動的にアクティブ化されます。

アクティブ化されている製品の数が多すぎる問題

「有効化されている製品の数が多すぎます」という問題には、以下の原因が考えられます。

- **Acronis True Image OEM がインストールされているコンピューターの数が最大数を超過している。**
たとえば、コンピューター 1 台分のライセンスまたはシリアルナンバーを所有するユーザーが、2 台目のコンピューターに Acronis True Image OEM をインストールする場合などです。

解決策：

- 新しいシリアルナンバーを入力します。所有していない場合、Acronis ビルトインストアで購入できます。
 - 製品がすでにアクティブ化されているコンピュータから新しいコンピュータにライセンスを移動します。そのためには、ライセンスの移動元のコンピュータを選択します。選択したコンピュータで Acronis True Image OEM が無効化されることに注意してください。
- **Windows を再インストールするか、コンピューターのハードウェアを変更する。**
- 例えば、ご使用のコンピュータのマザーボードまたはプロセッサをアップグレードしたとします。この場合、ご使用のコンピューターは新しいコンピューターと認識されるため、Acronis True Image OEM は無効化されます。

解決策：

ご使用のコンピューターで Acronis True Image OEM を再有効化するには、リストからそのコンピューターを古い名前で選択します。

Acronis True Image OEM のアップグレード

Acronis True Image OEM を Acronis Cyber Protect Home Office にアップグレードすることができません。

以前のバージョンの Acronis True Image OEM で作成されたバックアップは、Acronis Cyber Protect Home Office の新しいバージョンとの完全な互換性があります。アップグレード後、すべてのバックアップがバックアップリストに自動的に追加されます。

製品をアップグレードするたびに、新たにブータブルメディアを作成することを強くお勧めします。

製品版を購入するには、次のようにします。

1. Acronis True Image OEM を開始します。
2. サイドバーの **[アカウント]** をクリックし、**[アップグレード]** をクリックします。ビルトインストアが開きます。
3. 購入するライセンスを選択し、**[今すぐ購入]** をクリックします。
4. 支払い情報を指定します。

ビルトインストア

Acronis True Image OEM には、アプリ内ストアがあります。

アプリ内ストアにアクセスするには、**[アカウント]** タブに移動して、**[アップグレード]** をクリックします。アプリ内ストアが開き、利用可能な購入オプションがすべて表示されます。

Acronis True Image のアドバンスト機能

ご使用の製品エディションでは、Acronis True Image のアドバンスト機能を使用できません。ご使用のエディションを Acronis Cyber Protect Home Office にアップグレードすると、この機能を使用できます。アップグレード後、次の機能を使用できます。

- **オンラインバックアップ**

オンラインバックアップを使用すると、ファイルやディスクを Acronis Cloud に保存できます。ご使用のコンピュータが紛失や盗難に遭ったり、または破壊されたりしても、データは保護され、必要に応じてデータを新しいデバイスに完全復元できます。
- **ファイルバックアップ**

パーティションおよびディスク全体をバックアップすることなく、ローカルストレージと Acronis Cloud に特定のファイルやフォルダの両方をバックアップできます。
- **クラウドアーカイブ**

データのアーカイブを使用することで、サイズの大きいファイルや使用頻度の低いファイルを Acronis Cloud に移動できます。この方法を実行するたびに、選択したフォルダ内のデータが解析されて、Acronis Cloud へのアップロード対象となる推奨のファイルが示されます。アーカイブするファイルやフォルダを選択できます。アップロードが完了すると、ローカルにコピーされたファイルは削除されます。アーカイブしたファイルを後で開いたり変更したりする場合は、ファイルをローカルストレージデバイスにダウンロードしたり、Acronis Cloud でアクセスや管理を実行したりできます。
- **ローカルアーカイブ**

古いファイル、大きなファイル、使用頻度の低いファイルをアーカイブする際、Acronis Cloud が唯一の保存先というわけではありません。NASなどのローカルストレージ、外付けハードドライブ、またはUSBフラッシュドライブも選択できます。ローカルアーカイブは Acronis アーカイブ内に置かれます。これには、File Explorer の [お気に入り] からクラウドアーカイブとともにアクセスできます。
- **複数デバイスのデータ保護**

家族間のデータ保護は、クロスプラットフォーム統合ソリューションであり、同じ Acronis アカウントで共有するすべてのコンピューター、スマートフォン、およびタブレットの保護ステータスを追跡および制御することができます。これらのデバイスのユーザーは同じアカウントにサインインする必要があります。通常は家族の全員がユーザーになります。通常、家族の全員がこの機能を使用できますが、家族の中には技術的な経験をお持ちの方がいることも多くなっています。そのため、その方が家族のデータを保護するのに適任と言えます。複数のデバイスの保護状況の追跡および制御には、ウェブベースのオンラインダッシュボードを使用します。これはインターネットに接続しているコンピュータであればアクセスが可能です。
- **データの同期**

すべてのコンピューターで同じデータ（ドキュメント、写真、ビデオなど）を保持できます。いつでもどこでも簡単にデータを利用できます。ファイルを電子メールで自分に送ったり、常に USB ドライブを携帯する必要はなくなります。

必要なだけ同期を作成でき、さまざまなバージョンの同期ファイルを Acronis Cloud に保存できます。これにより、必要なときにいつでも前のファイルのバージョンに戻すことができます。また、アプリケーションをインストールせずに、ウェブブラウザを使用して Cloud にアクセスすることもできます。
- **Acronis Survival Kit**

障害発生時にコンピューターをリカバリするために必要な 2 つの重要なコンポーネントとして、システムディスクのバックアップと Acronis ブータブルメディアがあります。Acronis Survival Kit は、この両方のコンポーネントが保存されている外付けハードディスクドライブです。これにより、コンピューターをリカバリするために必要なすべてのデータを 1 つのデバイスに保存できます。

- Acronis Universal Restore
Acronis Universal Restore を使用すると、異なるハードウェア上にブータブルシステムのクローンを作成することができます。元のバックアップを作成したシステムとは異なるプロセッサ、マザーボード、または大容量記憶装置を搭載したコンピュータにシステムディスクをリカバリする場合は、このユーティリティを使用します。たとえば、壊れたマザーボードを交換した後や、システムをあるコンピュータから別のコンピュータに移行するときなどに役に立ちます。
- Acronis Mobile
Acronis Mobile を使用すると、Acronis Cloud またはクラウドストレージにモバイルデータがバックアップされるため、データを損失または破損した場合にも復元することができます。Acronis Mobile は、iOS (iPhone、iPad、iPod) や Android (スマートフォンやタブレット) のオペレーティングシステムが動作するすべてのモバイルデバイスにインストールすることができます。
- Acronis Secure Zone
Acronis Secure Zone は、コンピューター上に作成できる、バックアップ保存用の安全な専用パーティションです。
- システムのクリーンアップ
システム クリーンアップ ウィザードを使用して、ユーザー名、パスワードなどの個人情報を含む、コンピュータ操作に関するすべての履歴を安全に削除することができます。

サポートセンターのホームページ

Acronis True Image OEM に関してご質問がある場合は、ベンダの公式サポート情報を参照してください。

はじめに

ユーザーインターフェースの言語

使用を開始する前に、Acronis True Image OEM ユーザーインターフェースで希望する言語を選択します。デフォルトでは、Windowsの表示言語に従って設定されます。

ユーザーインターフェースの言語を変更するには、次の手順を実行します。

1. Acronis True Image OEM を開始します。
2. **[設定]** セクションで、リストの中からご希望の言語を選択します。

システムの保護

1. コンピュータをバックアップします。
2. Acronis ブータブルメディアを作成します。

また、「必要なときにブータブルメディアを確実に使用できるようにする」で説明したとおりに、ブータブルメディアをテストすることをお勧めします。

コンピュータのバックアップ中

コンピュータをバックアップするタイミング

システムでの重要なイベントの後は毎回新しいバックアップバージョンを作成します。

イベントの例:

- 新しいコンピュータを購入した。
- コンピュータに Windows を再インストールした。
- 新しいコンピュータで、すべてのシステム設定（例: 時刻、日付、言語）を構成し、必要なプログラムをすべてインストールした。
- 重要なシステム アップデート。

注意

正常な状態のディスクを保存するため、バックアップの前にウイルスをスキャンすることを勧めます。このためには、ウイルス対策ソフトウェアを使用してください。この操作には長時間かかる場合があることに注意してください。

コンピュータのバックアップを作成する方法

システムを保護するには、次の2種類の方法があります。

- **PC全体のバックアップ（推奨）**

Acronis True Image OEM は、内蔵ハードドライブすべてをディスクモードでバックアップします。バックアップ対象は、オペレーティングシステム、インストールされているプログラム、システムの設定、写真、音楽、ドキュメントなどの個人データすべてです。

• システムディスクのバックアップ

システムパーティションまたはシステムドライブ全体をバックアップすることができます。詳細については、「[ディスクとパーティションのバックアップ](#)」を参照してください。

システム保護のための主要な方法としてノンストップバックアップを使うことはおすすめしません。このテクノロジーの主な目的が、頻繁に変更されるファイルを保護することであるためです。システムの安全のため、ほかのスケジュールをご使用ください。「カスタムスキームの例」(52ページ)の例を参照してください。ノンストップバックアップの機能については、「Acronis Nonstop Backup」(33ページ)を参照してください。

コンピューターをバックアップするには、次の手順を実行します。

1. Acronis True Image OEM を開始します。
2. サイドバーで **[バックアップ]** をクリックします。
今回が最初のバックアップの場合、バックアップ設定画面が表示されます。既に一覧表示されているバックアップがある場合は、**[バックアップの追加]** をクリックします。
3. **[バックアップ ソース]** アイコンをクリックし、**[コンピュータ全体]** を選択します。
システムディスクのみをバックアップする場合は、**[ディスクとパーティション]** をクリックし、システムパーティション (通常はC:) とシステム予約パーティション (存在する場合) を選択します。
4. **[バックアップの保存先]** アイコンをクリックし、バックアップの保存場所を選択します (以下の推奨事項を参照してください)。
5. **[今すぐバックアップ]** をクリックします。

以上により、バックアップの一覧に新しいバックアップボックスが表示されます。今後、新しいバージョンのバックアップを作成するには、リストからバックアップボックスを選択して、**[今すぐバックアップ]** をクリックします。

必要なバックアップ バージョンの数

ほとんどの場合、PC全体のコンテンツまたはシステムディスクの**バックアップバージョン**は2~3個、最大で4~6個必要です (バックアップを作成するタイミングについては、上記の情報を参照してください)。自動クリーンアップルールを使用すると、バックアップバージョンの数を制御できます。詳細については、「[カスタムスキーム](#)」を参照してください。

最初のバックアップバージョン (完全バックアップバージョン) が最も重要であることに留意してください。このバージョンは、ディスクに保存されているすべてのデータを含むため、最も大きいバックアップバージョンです。以降のバックアップバージョン (増分バックアップバージョンおよび差分バックアップバージョン) は、異なるスキームで整理することができます。これらのバージョンには、データの変更のみが含まれています。これが、増分バックアップバージョンおよび差分バックアップバージョンには完全バックアップバージョンが必要であり、完全バックアップバージョンが非常に重要である理由です。

デフォルトでは、ディスクのバックアップは増分スキームを使用して作成されます。ほとんどの場合、このスキームが最適です。

注意

詳しい知識があるユーザー向け: 2～3個の完全バックアップバージョンを作成し、異なるストレージデバイスに保存することをおすすめします。この方法で信頼性を大幅に高めることができます。

Acronis ブータブルメディアの作成

Acronis ブータブルメディアとは、CD、DVD、USB フラッシュドライブ、またはその他のリムーバブルメディアで、Windows が起動しなくなったときにそこから Acronis True Image OEM を実行できるものです。Acronis メディアビルダー を使用してブート可能なメディアを作成できます。

Acronis ブータブルメディアを作成するには、以下の手順に従います。

1. CD/DVD を挿入するか USB ドライブ (USB フラッシュドライブ、または HDD/SSD 外付けドライブ) を接続します。
2. Acronis True Image OEM を開始します。
3. サイドバーで **[ツール]** をクリックし、**[ブータブルメディアビルダ]** をクリックします。
4. 最初の手順では、**[シンプル]** を選択します。
5. ブータブルメディアの作成に使用するデバイスを選択します。
6. **[実行]** をクリックします。

Acronis ブータブルメディアを使用するには、以下の手順に従います。

Acronis ブータブルメディアは、Windows を起動できないときにコンピューターをリカバリするために使用します。

1. ブータブルメディアをコンピューターに接続します (CD/DVD を挿入します。または、USB ドライブを接続します)。
2. Acronis ブータブルメディアが最初の起動デバイスになるように、BIOS で起動順を並べ替えます。詳細については、「[BIOS での起動順の並べ替え](#)」を参照してください。
3. ブータブルメディアからコンピューターを起動して、**[Acronis True Image OEM]** を選択します。Acronis True Image OEM が読み込まれたら、これを使用してコンピューターを復元できます。

詳細については、「[Acronis メディアビルダー](#)」を参照してください。

PCのすべてのデータのバックアップ

注意

ご使用のエディションでは一部の機能を使用できない場合があります。

PC全体のバックアップについて

PC全体のバックアップは、コンピューター上のすべてのコンテンツをバックアップする最も簡単な方法です。どのデータを保護する必要があるかわからない場合には、このオプションを選択することをおすすめします。システムパーティションのみをバックアップする場合、詳細については「[ディスクとパーティションのバックアップ](#)」を参照してください。

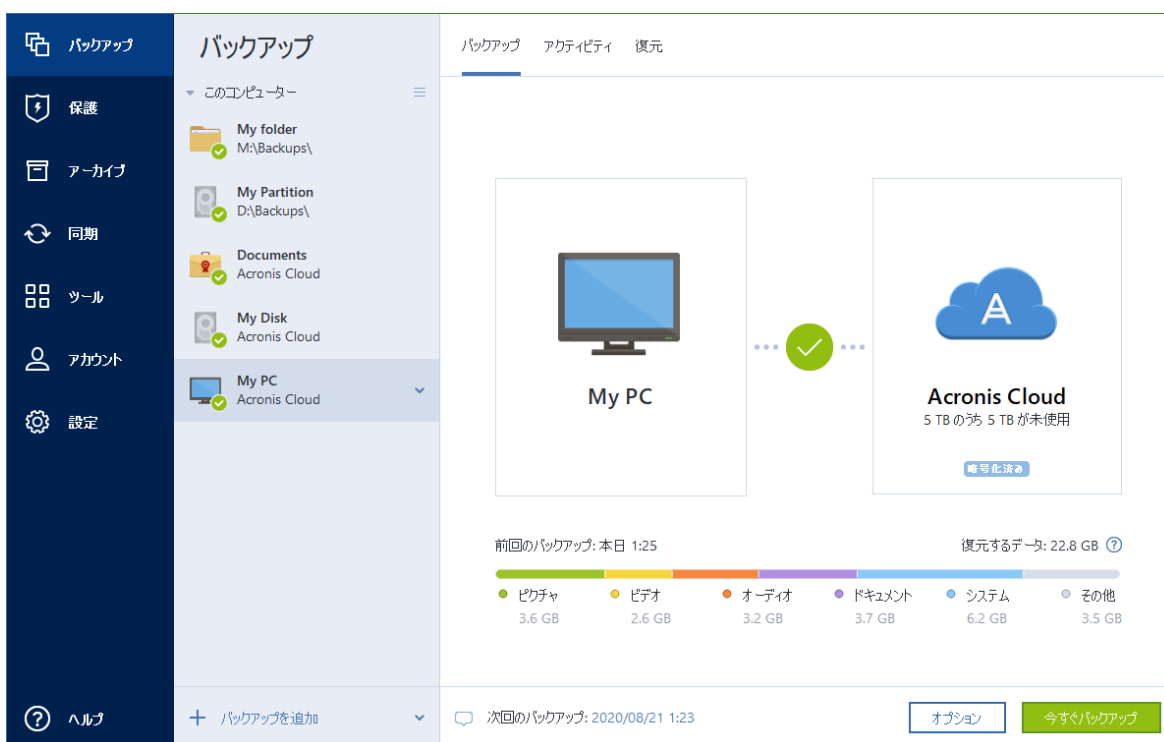
バックアップタイプとして [コンピュータ全体] を選択すると、Acronis True Image OEM はディスクモードで内部のハードディスクドライブをすべてバックアップします。バックアップ対象は、オペレーティングシステム、インストールされているプログラム、システムの設定、写真、音楽、ドキュメントなどの個人データすべてです。

PC全体のバックアップからの復元も簡単です。必要な操作は、データを戻す時点の選択だけです。Acronis True Image OEM はバックアップからすべてのデータを元の場所に復元します。具体的なディスクやパーティションを選択して復元することはできません。また、デフォルトの保存先を変更することもできません。こうした制限を避ける必要がある場合は、通常のディスクレベルのバックアップ方法でデータをバックアップすることをおすすめします。詳細については、「[ディスクとパーティションのバックアップ](#)」を参照してください。

PC全体のバックアップにダイナミックディスクが含まれている場合、データをパーティションモードで復元します。つまり、復元対象のパーティションを選択したり、復元先を変更したりできます。詳細については、「[ダイナミック/GPTディスクおよびボリュームのリカバリについて](#)」を参照してください。

コンピュータ全体のバックアップを作成するには、次の手順を実行します。

1. Acronis True Image OEM を開始します。
2. サイドバーで [バックアップ] をクリックします。
3. バックアップリストの下部にあるプラス記号をクリックします。
4. [バックアップ ソース] アイコンをクリックし、[コンピュータ全体] を選択します。
5. [バックアップの保存先] アイコンをクリックし、バックアップの保存先を選択します。



6. (オプションの手順) バックアップのオプションを設定するには、[オプション] をクリックします。詳細については、「[バックアップオプション](#)」を参照してください。
7. [今すぐバックアップ] をクリックします。

ファイルのバックアップ

文書、写真、音楽のファイル、ビデオのファイルなどのファイルを保護するために、そのファイルを含むパーティション全体をバックアップする必要はありません。具体的なファイルとフォルダをバックアップして、以下のストレージタイプに保存することができます。

- **ローカルまたはネットワーク ストレージ**

時間がかからず、簡単です。ほとんど変更されないファイルの保護に使用します。

ファイルやフォルダをバックアップする手順は、次のとおりです。

1. Acronis True Image OEM を開始します。
2. サイドバーで **[バックアップ]** をクリックします。
3. **[バックアップ ソース]** アイコンをクリックし、**[ファイルとフォルダ]** を選択します。
4. 表示されたウィンドウで、バックアップするファイルやフォルダの横にあるチェック ボックスをオンにし、**[OK]** をクリックします。
5. **[バックアップの保存先]** アイコンをクリックし、バックアップの保存先を選択します。
 - **外付けドライブ:** 外付けドライブがコンピュータに接続されている場合は、リストからそのドライブを選択できます。
 - **NAS:** 検出されたNASデバイスのリストからNASを選択します。NAS が1つしかない場合、Acronis True Image OEM はデフォルトでその NAS をバックアップの保存先として使用するように提案します。
 - **参照:** フォルダ ツリーから保存先を選択します。
6. **[今すぐバックアップ]** をクリックします。

詳細については、「[ファイルやフォルダのバックアップ](#)」を参照してください。

ハードディスクドライブのクローン作成

ハード ディスク ドライブのクローン作成が必要な理由

ハード ディスク ドライブの空き領域が不足してデータを保存できない場合は、容量の大きい新しいハード ディスク ドライブを購入し、すべてのデータをその新しいドライブに転送することが必要になる可能性があります。通常のコピー処理では、新しいハード ディスク ドライブを古いハード ディスク ドライブとまったく同じように使用することはできません。たとえば、File Explorerを開いて、すべてのファイルとフォルダを新しいハードディスクドライブにコピーしても、Windowsは新しいハードディスクドライブから起動しません。ディスクのクローン作成ユーティリティでは、すべてのデータを複製し、Windowsを新しいハードディスクドライブでブータブルにすることができます。



開始する前に

転送先（新しい）ドライブをコンピュータに取り付けてから、転送元ドライブを別の場所（外付けのUSBエンクロージャなど）に取り付けることをお勧めします。これは特にラップトップコンピュータの場合に重要です。

注意

古いハードディスクドライブと新しいハードディスクドライブは同じコントローラーモード（IDE、AHCI など）で動作させることをお勧めします。モードが異なる場合、新しいハードドライブからコンピュータを起動できなくなる可能性があります。

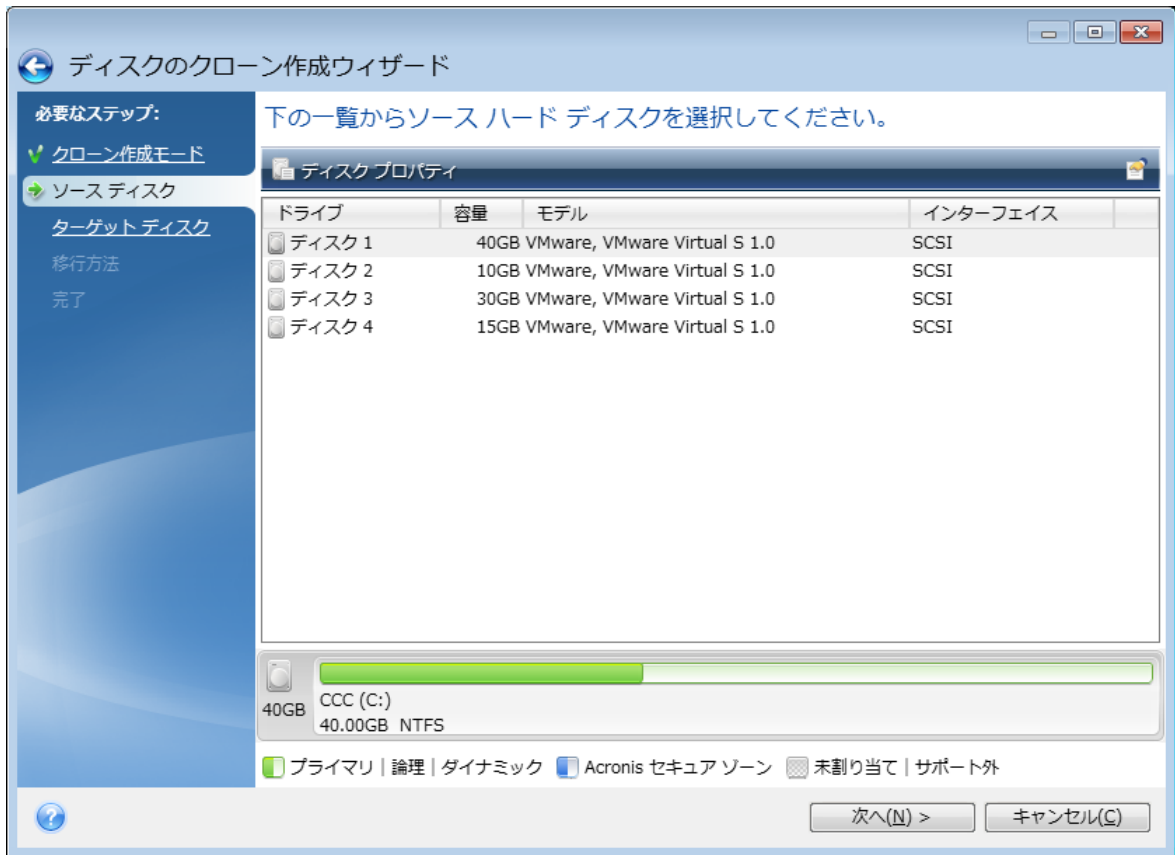
ディスクのクローン作成

1. ツールバーの **[ツール]** をクリックし、**[ディスクのクローン作成]** をクリックします。
2. **[クローン作成モード]** で、転送モードとして **[自動]** を選択することをお勧めします。この場合、パーティションは新しいハードディスクドライブの大きさに比例してサイズが変更されます。**[手動]** モードでは、さらに柔軟に対応できます。手動モードの詳細については、「[ディスクのクローン作成ウィザード](#)」を参照してください。

注意

ディスクが2つ検出されて、一方にパーティションがあり、他方にはない場合は、パーティションのあるディスクが自動的にソース ディスクとして認識され、パーティションのないディスクがターゲット ディスクとして認識されます。これに該当する場合は、以降のステップが省略され、クローン作成の概要画面が表示されます。

3. **[ソース ディスク]** で、クローンを作成するディスクを選択します。



4. [ターゲット ディスク] で、クローン データの保存先ディスクを選択します。

注意

パーティションが作成されていないディスクがある場合は、そのディスクが自動的に移行先と見なされるため、このステップは省略されます。

5. [完了] で、指定した設定がニーズに合っていることを確認してから、[実行] をクリックします。

デフォルトでは、クローン作成処理が完了すると、コンピューターは Acronis True Image OEM により自動的にシャットダウンされます。これにより、マスターとスレーブのジャンパ位置を変更し、1 台のハード ディスクを取り外すことができます。

コンピューターのリカバリ

システムディスクのリカバリは重要な処理です。開始する前に、以下のヘルプトピックにある詳細な説明を参照することをお勧めします。

- 異常停止の原因を特定する
- リカバリの準備
- 同じディスクへのシステムのリカバリ

次の異なる2つのケースを例にあげます。

1. Windows は正しく動作していないが、Acronis True Image OEM は起動できる。
2. Windowsを起動できない（たとえば、コンピュータの電源を入れても画面に表示される内容が通常とは異なる）。

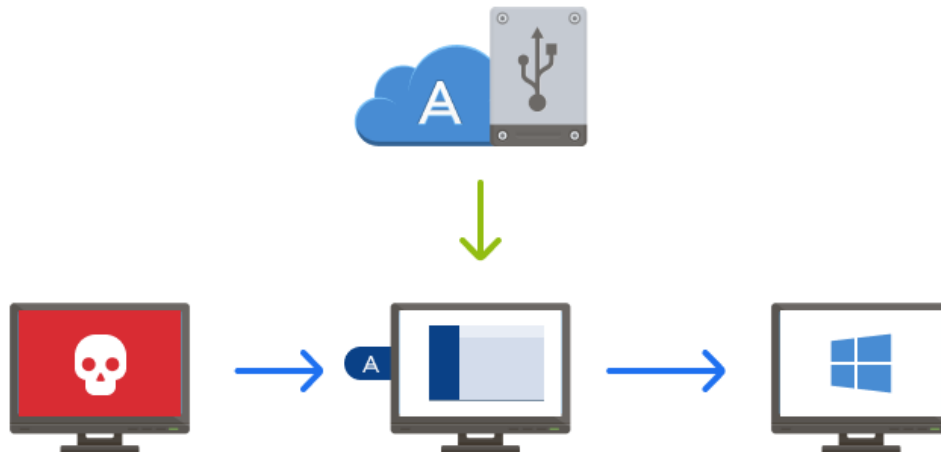
ケース1. Windowsが正しく動作しない場合のコンピュータのリカバリ方法

1. Acronis True Image OEM を開始します。
2. サイドバーで **[バックアップ]** をクリックします。
3. バックアップリストから、システム ディスクが格納されているバックアップを選択します。バックアップされている場所は、ローカルストレージまたはネットワークストレージにあります。
4. 右側のペインで、**[リカバリ]** をクリックします。
5. バックアップの種類に応じて、**[PCをリカバリ]**、または **[ディスクをリカバリ]** をクリックします。
6. 表示されたウィンドウで、バックアップバージョン（特定の日時のデータ状態）を選択します。
7. リカバリするシステムパーティションとシステム予約パーティション（存在する場合）を選択します。
8. **[今すぐリカバリ]** をクリックします。

注意

処理を完了するには、Acronis True Image OEM でシステムを再起動する必要があります。

ケース2. Windowsを起動できない場合のコンピュータのリカバリ方法



1. Acronis ブータブルメディア をコンピュータに接続し、専用のスタンドアロン版の Acronis True Image OEM を実行します。
詳細については、「[手順 2 Acronis ブータブルメディア の作成](#)」と「[BIOS での起動順の並べ替え](#)」を参照してください。
2. [ようこそ] 画面で、**[リカバリ]** の下にある **[マイ ディスク]** を選択します。
3. リカバリに使用するシステム ディスク バックアップを選択します。バックアップを右クリックして、**[リカバリ]** を選択します。

バックアップが表示されない場合には、**[参照]** をクリックし、バックアップのパスを手動で指定します。

4. **[リカバリの方法]** で、**[ディスクまたはパーティション全体をリカバリする]** を選択します。
5. **[リカバリ元]** 画面で、システムパーティション（通常は C）を選択します。システムパーティションは Pri フラグ、Act フラグでも識別できます。システム予約パーティションも選択します（存在する場合）。
6. パーティションの設定をすべてそのままにし、**[完了]** をクリックしてもかまいません。
7. 処理の概要を確認して **[実行]** をクリックします。
8. 処理が終了したら、スタンドアロン版の Acronis True Image OEM を終了し、ブータブルメディアがある場合はそれを取り外して、リカバリされたシステムパーティションから起動します。必要な状態まで Windows をリカバリしたことを確認してから、元の起動順序を復元します。

基本的な概念

ここでは、プログラムの動作のしくみを理解するうえで役立つと思われる、基本的な概念について説明します。

注意

ご使用のエディションでは一部の機能を使用できない場合があります。

バックアップとリカバリ

バックアップとは、元のデータが失われてもそのコピーから**リカバリ**できるように、データのコピーを作成しておくことを指します。

バックアップの主な目的は2つあります。

- 1つは、オペレーティングシステムが破損した場合や起動しない場合に復元するという目的です（災害復旧といいます）。災害からのコンピュータの保護の詳細については、「[システムの保護](#)」を参照してください。
- もう1つは、ファイルやフォルダが誤って削除されたり破損した後に、特定のファイルやフォルダを復元するという目的です。

Acronis True Image OEM は、この最初の目的を達成するために、ディスク（またはパーティション）イメージの作成機能を備え、第2の目的のために、ファイルレベルバックアップ作成機能を備えています。

バックアップ バージョン

バックアップ バージョンは、それぞれのバックアップ処理中に作成された単独または複数のファイルです。作成されるバージョンの数は、バックアップが実行された回数と常に同じになります。つまり、バージョンはそれぞれ特定の時点を表しており、その時点の状態にシステムやデータを復元することができます。

バックアップ バージョンは、完全バックアップ、増分バックアップ、および差分バックアップを表しています。「[完全バックアップ](#)、[増分バックアップ](#)、[差分バックアップ](#)」を参照してください。

バックアップ バージョンは、ファイルバージョンと似ています。ファイルバージョンという考えは、「以前のバージョンのファイル」と呼ばれているWindowsの機能を使用しているユーザーにはよく知られています。この機能を使用すると、ファイルを特定の日時における状態に復元できます。バックアップバージョンを使用すると、同様の方法でデータをリカバリできます。

ディスクのクローン作成

これは、1つのディスクドライブの内容全体を別のディスクドライブにコピーする処理です。たとえば、オペレーティングシステム、アプリケーション、およびデータのクローンを、より容量の多い新しいディスクに作成する場合などに、この機能が必要となる場合があります。このことは2つの方法で行えます。

- ディスクのクローン作成ユーティリティを使用する方法。
- 古いディスクドライブをバックアップし、その後新しいディスクドライブにリカバリする方法。

バックアップ ファイルの形式

Acronis True Image OEM では通常、バックアップデータは独自の TIB 形式で圧縮して保存されます。.tib ファイルのバックアップのデータは、Windows 環境またはリカバリ環境で Acronis True Image OEM を使用した場合にのみ復元できます。

Acronis Nonstop Backupでは、データおよびメタデータ用に特殊な隠しストレージが使用されています。バックアップ データは圧縮され、約 1 GB の複数のファイルに分割されます。また、これらのファイルには独自の形式が採用されており、保存されたデータは、Acronis True Image OEM のみを使用して復元できます。

バックアップのベリファイ

バックアップのベリファイ機能を使用すれば、データをリカバリできるかどうかを確認できます。バックアップされるデータブロックにはチェックサム値が追加されます。バックアップベリファイの実行時に、Acronis True Image OEM はバックアップファイルを開いてチェックサム値を再計算し、保存されているチェックサム値と比較します。比較した値がすべて一致していれば、そのバックアップファイルは破損していません。

スケジュール設定

作成したバックアップを実際に役立てるには、可能な限り最新のバックアップを作成しておく必要があります。バックアップを自動的かつ定期的に実行するには、バックアップのスケジュールを作成します。

バックアップの削除

不要になったバックアップとバックアップバージョンを削除する場合は、Acronis True Image OEM に用意されているツールを使用してください。詳細については、「[バックアップとバックアップバージョンの削除](#)」を参照してください。

Acronis True Image OEM は、バックアップに関する情報をメタデータ情報データベースに保存します。そのため、不要なバックアップファイルをFile Explorerで削除しても、バックアップに関する情報はデータベースから削除されません。その結果、既に存在していないバックアップに対してもプログラムが処理を実行しようとして、エラーが発生します。

ファイルバックアップとディスク/パーティションイメージの違い

ファイルとフォルダをバックアップする場合、ファイルとフォルダ ツリーのみが圧縮されて保存されません。

ディスク/パーティションのバックアップは、ファイルとフォルダのバックアップとは異なります。Acronis True Image OEM では、ディスクまたはパーティションの正確なスナップショットが保存されます。この処理は「ディスク イメージの作成」または「ディスク バックアップの作成」と呼ばれ、作成されたバックアップは一般的に「ディスク/パーティション イメージ」または「ディスク/パーティション バックアップ」と呼ばれます。

ディスク/パーティション バックアップに含まれるもの

ディスク/パーティションのバックアップには、ディスクまたはパーティションに保存されているすべてのデータが含まれます。

1. マスター ブート レコード (MBR) があるハードディスクのゼロトラック (MBR ディスク バックアップのみに適用)。
2. 以下を含む、1 つ以上のパーティション
 - a. ブート コード。
 - b. サービス ファイル、ファイル アロケーション テーブル (FAT) 、およびパーティション ブート レコードを含むファイルシステム メタ データ。
 - c. オペレーティング システム (システム ファイル、レジストリ、ドライバ) 、ユーザー データ、およびソフトウェア アプリケーションを含むファイルシステム データ。
3. システム予約済みパーティション (存在する場合) 。
4. EFI システム パーティション (存在する場合) (GPT ディスク バックアップにのみ適用) 。

ディスク バックアップから除外されるもの

イメージファイルのサイズを減らしてイメージの作成速度を速めるため、Acronis True Image OEM では、データが含まれているハードディスクセクタのみがデフォルトで保存されます。

Acronis True Image OEM では、次のファイルがディスクバックアップから除外されます。

- pagefile.sys
- hiberfil.sys (コンピュータが休止状態に移行するときに RAM の内容を保持するファイル)

このデフォルトの方法は、セクタ単位モードをオンにすることで、変更できます。この場合、Acronis True Image OEM では、含まれるデータだけではなく、すべてのハードディスクセクタがコピーされます。

完全バックアップ、増分バックアップ、差分バックアップ

Acronis True Image OEM では、完全、増分、差分の 3 つのバックアップメソッドが提供されます。

注意

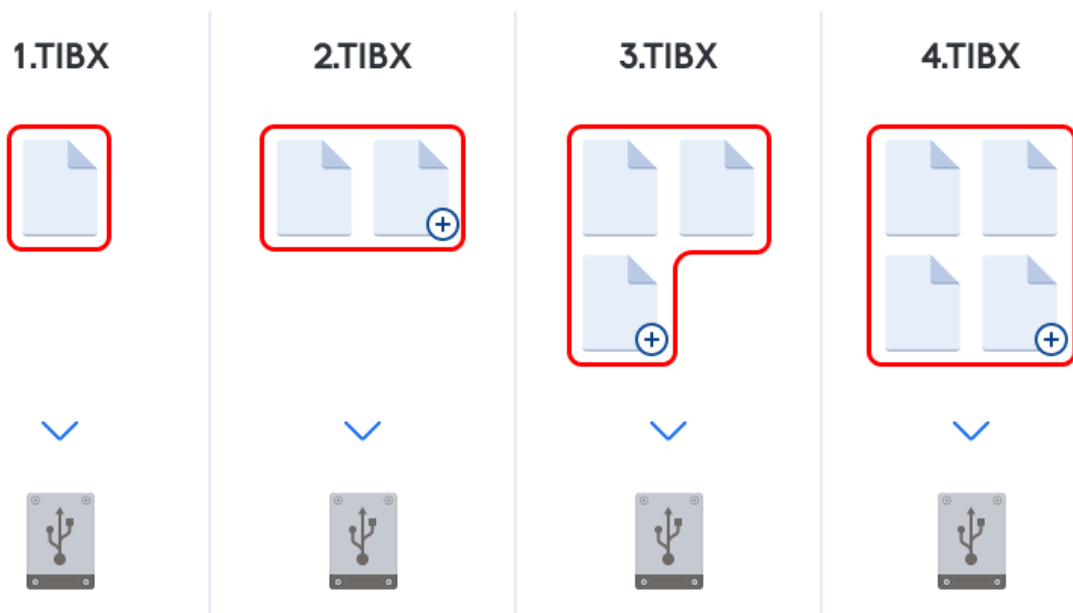
ご使用のエディションでは一部の機能を使用できない場合があります。

完全バックアップ

完全バックアップ処理 (別名「完全バックアップ バージョン」) の結果には、バックアップ作成時のすべてのデータが含まれます。

例: 毎日、ドキュメントの 1 ページを書き、完全バックアップを使用してバックアップします。Acronis True Image OEM は、バックアップを実行するたびにドキュメント全体を保存します。

1.tibx、2.tibx、3.tibx、4.tibx — 完全バックアップバージョンのファイル。



追加情報

完全バックアップバージョンは、増分バックアップや差分バックアップの基になるデータとなります。スタンドアロンのバックアップとしても使用できます。スタンドアロンの完全バックアップは、システムを最初の状態に戻すことが多い場合や、複数のバックアップバージョンを管理することが望ましくない場合に最適なソリューションです。

復元: 上の例では、4.tibx ファイルから作業全体を復元するには、1つのバックアップバージョン (4.tib) だけが必要になります。

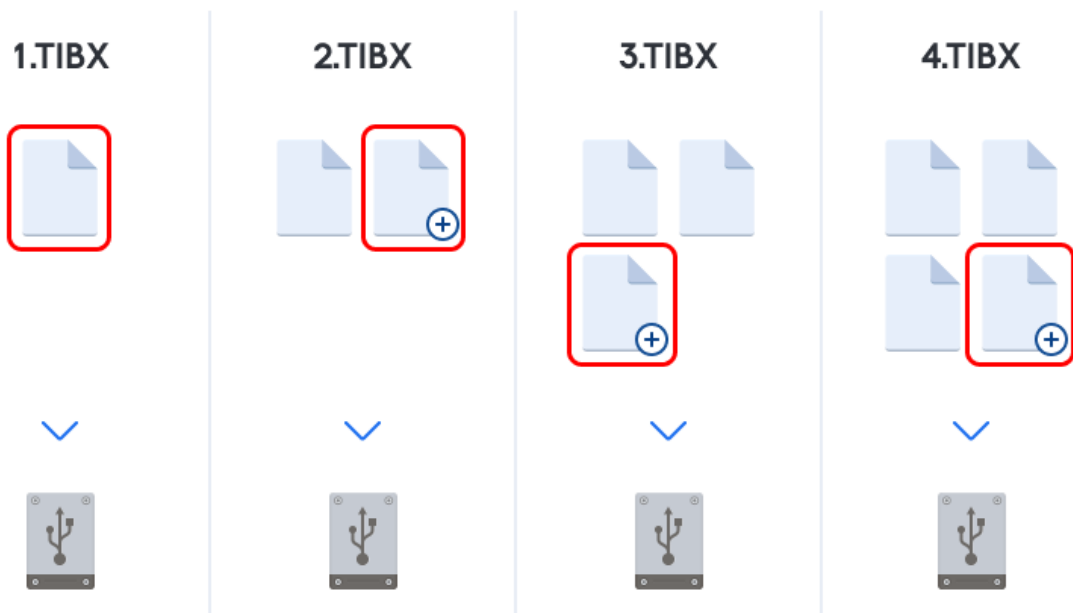
増分バックアップ

増分バックアップ処理（別名「増分バックアップバージョン」）の結果には、前回のバックアップ以降に変更されたファイルのみが含まれます。

例: 毎日、ドキュメントの1ページを書き、増分バックアップを使用してバックアップします。Acronis True Image OEM は、バックアップを実行するたびに新しいページを保存します。

注意: 作成する最初のバックアップバージョンは必ず完全バックアップである必要があります。

- 1.tibx — 完全バックアップバージョンのファイル。
- 2.tibx、3.tibx、4.tibx — 増分バックアップバージョンのファイル。



追加情報

増分バックアップは、頻繁なバックアップと特定の時点に戻す機能が必要な場合に非常に便利です。一般に、増分バックアップバージョンは完全バージョンや差分バージョンに比べてかなり小さくなります。一方、増分バージョンでは、リカバリの実行時にプログラムでの処理が増加します。

復元: 上の例で 4.tibx ファイルから作業全体を復元するには、すべてのバックアップバージョン (1.tibx、2.tibx、3.tibx、4.tibx) が必要になります。そのため、1つの増分バックアップバージョンを失ったり、破損したりすると、それ以降のすべての増分バックアップバージョンが使用できなくなります。

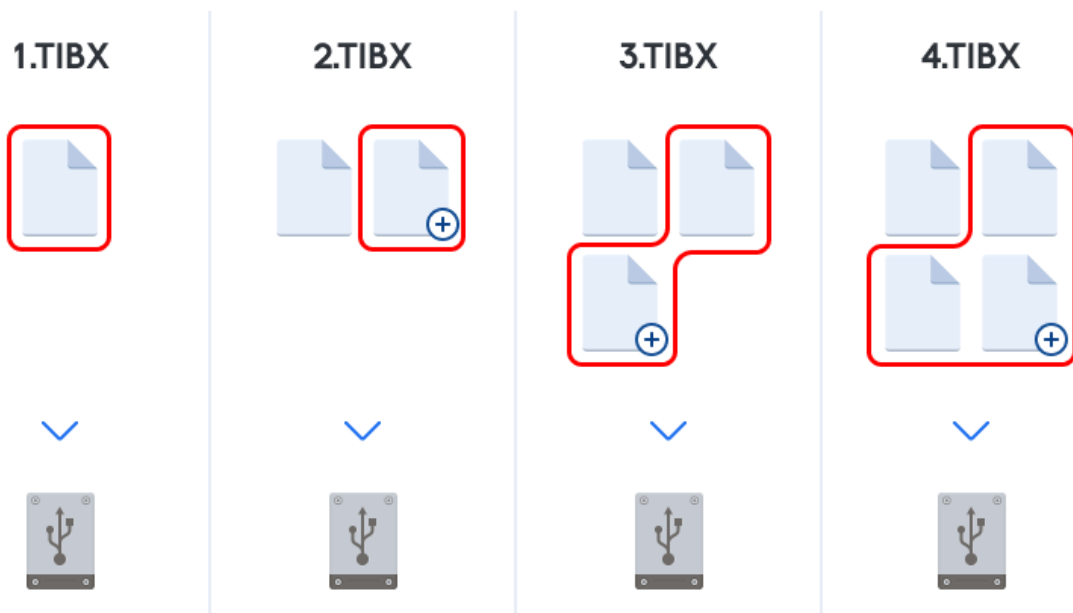
差分バックアップ

差分バックアップ処理（別名「差分バックアップバージョン」）の結果には、前回の完全バックアップ以降に変更されたファイルのみが含まれます。

例: 毎日、ドキュメントの 1 ページを書き、差分バックアップを使用してバックアップします。Acronis True Image OEM は、完全バックアップバージョンに保存された最初のページ以外のドキュメント全体を保存します。

注意: 作成する最初のバックアップバージョンは必ず完全バックアップである必要があります。

- 1.tibx — 完全バックアップバージョンのファイル。
- 2.tibx、3.tibx、4.tibx — 差分バックアップバージョンのファイル。



追加情報

差分バックアップは、前述の2つの方法の中間的な方法です。完全バックアップよりもかかる時間と領域は少ないですが、増分バックアップよりは多くなります。差分バックアップバージョンからデータをリカバリする場合、Acronis True Image OEMには差分バージョンと最後の完全バージョンのみが必要です。そのため、差分バージョンからのリカバリは、増分バージョンからのリカバリより単純で、信頼性が高くなります。

復元: 上の例で4.tibxファイルから作業全体を復元するには、2つのバックアップバージョン(1.tibxおよび4.tibx)が必要になります。

目的のバックアップ方法を選択するには、通常、カスタムバックアップスキームを設定する必要があります。詳細については、「[カスタムスキーム](#)」を参照してください。

注意

ディスクを最適化した後に、増分バックアップ、または差分バックアップを作成すると、通常に比べかなり大きなサイズになります。これは、ディスクの最適化プログラムによってディスク上のファイルの位置が変更され、バックアップにこれらの変更が反映されるためです。このため、ディスク最適化後に、完全バックアップを再度作成することをお勧めします。

Changed Block Tracker (CBT)

CBTテクノロジーにより、ローカル増分または差分のディスクレベルのバックアップバージョンを作成する場合にバックアップ処理を迅速に行うことができます。ディスクコンテンツに対する変更は、ブロックレベルで継続的に追跡されます。バックアップが開始されたら、それらの変更をバックアップにすぐに保存することができます。

バックアップの保存場所の決定

Acronis True Image OEM では、さまざまなストレージデバイスがサポートされています。詳細については、「サポートされるストレージメディア」(9ページ) をご参照ください。

次の表にデータバックアップの保存先の候補を示します。

	HDD*	SSD*	USB フラッシュドライブ	NASやNDASなどのファイルサーバー	ネットワーク共有	SMB	FTP	DVD	メモリカード
MBRパーティションまたはディスク全体 (HDD、SSD)	+	+	+	+	+	+	+	+	+
GPT/ダイナミックボリュームまたはディスク	+	+	+	+	+	+	+	+	+
ファイルとフォルダ	+	+	+	+	+	+	+	+	+

* 内蔵または外付け。

ローカルハードドライブへのバックアップは最もシンプルなオプションですが、データのセキュリティを強化するためにオフサイトにバックアップを保存することをおすすめします。

推奨されるストレージメディア:

1. 外付けドライブ

デスクトップPCで外付けのUSBハードドライブを使用する場合には、短いケーブルを使用してドライブを背面のコネクタに接続することをおすすめします。

2. NASやNDASなどのホームファイルサーバー

Windows の場合とブータブルメディアからの起動の場合の両方について、選択したバックアップストレージが Acronis True Image OEM によって検出されるかどうかを確認してください。

NDAS対応のストレージデバイスにアクセスするには、多くの場合NDASデバイスID (20文字) と書き込みキー (5文字) を指定する必要があります。書き込みキーを使用すると、NDAS対応のデバイスを書き込みモード (バックアップの保存など) で使用できます。通常、デバイス ID と書き込みキーは NDAS デバイスの底面のステッカーまたはエンクロージャの内側に記載されています。ステッカーが見つからない場合は、NDAS デバイスの製造元に問い合わせることでこの情報を入手してください。

3. ネットワーク共有

「[認証の設定](#)」も参照してください。「[認証の設定](#)」も参照してください。

4. FTPサーバー

「**FTP接続**」も参照してください。

5. 光学ディスク (CD、DVD、BD)

DVD-R、DVD+R などの空の光学ディスクは非常に価格が安いいため、最も低コストなバックアップソリューションではありますが、時間は一番かかります。

ディスクが4枚以上になる場合はディスクの入れ替えが頻繁になるため、DVD 以外の方法でバックアップすることを強くおすすめします。DVDへのバックアップ以外に方法がない場合、すべてのDVDをハードディスク上のフォルダにコピーし、そのフォルダから復元することをおすすめします。

バックアップ用の新しいディスクを準備する

新しい内蔵または外付けのハードドライブは Acronis True Image OEM で認識されない場合があります。この場合、オペレーティングシステムのツールを使用してディスクステータスを **[オンライン]** にして、ディスクを初期化します。

ディスクステータスを [オンライン] に変更する手順は、次のとおりです。

1. **[ディスクの管理]** を開きます。これを行うには、**[コントロール パネル]** → **[システムとセキュリティ]** → **[管理ツール]** の順に選択します。**[コンピューターの管理]** を選択して **[ディスクの管理]** をクリックします。
2. **[オフライン]** と表示されているディスクを見つけます。ディスクを右クリックして、**[オンライン]** をクリックします。
3. ディスクステータスが **[オンライン]** に変更されます。その後、ディスクを初期化することができます。

ディスクを初期化する手順は、次のとおりです。

1. **[ディスクの管理]** を開きます。これを行うには、**[コントロール パネル]** → **[システムとセキュリティ]** → **[管理ツール]** の順に選択します。**[コンピューターの管理]** を選択して **[ディスクの管理]** をクリックします。
2. **[初期化されていません]** と表示されているディスクを見つけます。ディスクを右クリックして、**[ディスクの初期化]** をクリックします。
3. ディスクのパーティションテーブル (MBRまたはGPT) を選択して、**[OK]** をクリックします。
4. (オプションの手順) ディスクにボリュームを作成するには、ディスクを右クリックし、**[新しいシンプル ボリューム]** をクリックして、ウィザードの手順に従って新しいボリュームを設定します。ボリュームをもう1つ作成するには、この手順を繰り返します。

FTP接続

Acronis True Image OEM を使用すれば、FTP サーバーにバックアップを保存できます。

新しいFTP接続を作成するには、バックアップストレージの選択時に **[FTP接続]** をクリックし、開いたウィンドウに次の情報を入力します。

- FTPサーバーへのパス (例: my.server.com)
- ポート

- ユーザー名
- パスワード

設定を確認するには、**[接続のテスト]** ボタンをクリックします。コンピュータで、指定したFTPサーバーに対する接続が試行されます。テスト接続が確立された場合、**[接続]** ボタンをクリックして、FTP接続を追加します。

作成したFTP接続は、フォルダツリーに表示されます。接続を選択し、使用するバックアップストレージを参照します。

注意

単に FTP サーバーのルートフォルダを開いても、ユーザーのホームディレクトリに移動することはありません。

注意

FTPサーバーから直接復元するデータの場合、バックアップはそれぞれが2 GB以下のファイルで構成される必要があります。

注意

このため、Acronis True Image OEM は、FTP サーバーに直接バックアップするときにバックアップを2 GB ずつのサイズのファイルに分割します。バックアップを後でFTPサーバーに転送するためにハードディスクにバックアップする場合は、バックアップオプションでファイルサイズを設定することでバックアップを2 GBずつのファイルに分割することができます。

注意

FTPサーバー側がパッシブモードのファイル転送を許可している必要があります。

注意

バックアップ元のコンピュータのファイアウォール設定では、ポート20および21がTCPプロトコルとUDPプロトコル用に開いており、機能するようになっていることが必要です。Windows の**ルーティングとリモート アクセス** サービスは無効にする必要があります。

認証設定

ネットワーク上のコンピュータに接続する場合、通常、ネットワーク共有にアクセスするために必要なログイン情報を入力する必要があります。たとえば、バックアップストレージを選択する際にこの操作が必要になることがあります。ネットワーク上のコンピュータの名前を選択すると、**[認証設定]** ウィンドウが自動的に表示されます。

必要に応じて、ユーザー名とパスワードを指定し、**[接続のテスト]** をクリックします。テストが成功した場合は、**[接続]** をクリックします。

トラブルシューティング

バックアップストレージとして使用する予定のネットワーク共有を作成する場合は、以下の条件のうち少なくとも1つを満たしていることを確認してください。

- 共有フォルダが置かれているコンピュータのWindowsアカウントにパスワードが設定されている。
- Windowsのパスワード保護共有が無効になっている。
たとえば、Windows 7では、[コントロール パネル] → [ネットワークとインターネット] → [ネットワークと共有センター] → [共有の詳細設定] → [パスワード保護の共有を無効にする] でこの設定を確認できます。

これらの条件のいずれも満たしていない場合は、共有フォルダに接続できません。

Acronis Nonstop Backup

注意

ご使用のエディションでは一部の機能を使用できない場合があります。

Acronis Nonstop Backupを利用すると、ディスクとファイルを簡単に保護することができます。ディスク全体や個々のファイル、別のバージョンをリカバリすることができます。

Acronis Nonstop Backupの主要な目的はデータ（ファイル、フォルダ、連絡先など）の継続的な保護ですが、パーティションの保護に使用することもできます。パーティション全体の保護を選択すると、イメージリカバリ手順を使用して、パーティション全体をリカバリできるようになります。

システムを保護するための主要な手段として、ノンストップバックアップを使用することはおすすめしません。システムの安全のため、ほかのスケジュールをご使用ください。例と詳細については、「[カスタムスキームの例](#)」を参照してください。

Nonstop Backupの制限

- ノンストップバックアップを1つのみ作成できます。
- Windowsライブラリ（ドキュメント、ミュージックなど）は、ディスクレベルのノンストップバックアップでのみ保護されます。
- 外付けハードドライブに保存されているデータを保護することはできません。

動作

Acronis Nonstop Backupを起動すると、保護対象として選択されているデータの、最初の完全バックアップが実行されます。その後、Acronis Nonstop Backupによって、保護対象のファイル（開いているファイルを含む）が継続的にチェックされます。変更が検出されると、変更されたデータがバックアップされます。増分バックアップ処理の最短間隔は5分です。この機能によって、指定した時間の状態にシステムをリカバリすることが可能になります。

Acronis Nonstop Backupでは、ディスク上のファイルの変更が確認されますが、メモリ内は確認されません。例えば、Wordでの作業中に長時間保存していない場合、Word文書内の現在の変更内容はバックアップされません。

このバックアップ頻度ではストレージはすぐにいっぱいになると思われるかも知れません。ですが、Acronis True Image OEMは「デルタ」と呼ばれるもののみをバックアップするため、その心配はありません。これは、変更があったファイルのファイル全体ではなく、古いバージョンと新しいバージョン

の相違点のみがバックアップされることを意味します。たとえば、Microsoft Outlook または Windows メールを使用している場合、pst ファイルのサイズが非常に大きい場合があります。また、電子メールを受信または送信するたびにファイルの内容が変わります。変更があるたびに pst ファイル全体をバックアップするとストレージスペースを消費しすぎるため、Acronis True Image OEM は最初にバックアップしたファイルと共に、変更された部分のみをバックアップします。

保持ルール

ローカルバックアップ

Acronis Nonstop Backupでは、過去 24 時間分のバックアップがすべて保持されます。それよりも古いバックアップは日単位で統合され、過去30日分が保持されます。また、週単位のバックアップは、Nonstop Backupデータの保存先に空きがある限り保持されます。

統合は、深夜 0 時から午前 1 時の間に毎日実行されます。最初の統合は、ノンストップバックアップを開始した後、少なくとも 24 時間経ってから実行されます。たとえば、ノンストップバックアップを 7 月 12 日の午前 10 時にオンにしたと仮定します。この場合、最初の統合は、7 月 14 日の深夜 0 時から午前 1 時の間に実行されます。これ以降、データの統合は、毎日同じ時刻に実行されます。午前 00:00 から 01:00 の間にコンピュータの電源が入っていない場合は、コンピュータを起動したときに統合が開始されます。ノンストップバックアップを一時的に無効にした場合は、次に有効したときに統合を開始します。

他のすべてのバージョンは自動的に削除されます。保持ルールはあらかじめ設定されており、変更することはできません。

Acronis ノンストップバックアップのデータストレージ

Acronis ノンストップバックアップのデータストレージは、ローカルハードディスクドライブ（内蔵と外付けの両方）に作成できます。

多くの場合、ノンストップバックアップのデータストレージには外付けのハードディスクを使用するのが最も良い方法です。（USB 3.0 を含む）USB、eSATA、FireWire、および SCSI のいずれかのインターフェイスを持つ外付けディスクを使用できます。

NASをストレージとして使用することもできますが、SMBプロトコルを使用したアクセスが必須になるという制限があります。ストレージに使用する NAS 共有がローカル ディスクとしてマップされるかどうかは問われません。共有にログインが必要な場合は、正確なユーザー名とパスワードを指定する必要があります。詳細については、「[認証設定](#)」を参照してください。Acronis True Image OEM では認証情報が記憶され、共有に対するその後の接続ではログインは必要ありません。

外付けハードディスクまたは NAS を使用できない場合は、ノンストップバックアップを内蔵ディスク（ダイナミック ディスクを含む）に保存することができます。保護されるパーティションは、ノンストップバックアップのストレージとしては使用できないことに留意してください。

Acronis True Image OEM は、Acronis ノンストップバックアップのデータストレージを作成する前に、選択した保存先に十分な空き領域があるかどうか確認します。保護するデータ量に 1.2 が乗算され、この乗算の計算結果の値と使用可能な容量が比較されます。保存先の空き容量がこの条件を満たした場合に、そのロケーションをノンストップバックアップデータの保存先として使用します。

Nonstop Backup - FAQ

Acronis Nonstop Backupが一時停止するのはなぜですか？ - これは、Acronis Nonstop Backupの設計上の動作です。システムの負荷が重大レベルに達すると、Acronis Nonstop Backupは Windows からオーバーロードアラームを受信して自動的に一時停止します。これは、他のアプリケーションによる Windows の負荷を軽減する役割を果たします。過負荷は、多くのリソースを必要とするアプリケーションを実行することにより発生する場合があります（ウイルス対策ソフトウェアによるシステム完全スキャンの実行など）。

このような場合、ノンストップバックアップは自動的に一時停止し、ユーザーが再起動することはできません。一時停止の後、Acronis Nonstop Backupでは、1 時間後にシステムの負荷が軽減されてから再起動を試行します。

Acronis Nonstop Backupの自動再起動は 6 回試行されます。つまり、最初の自動再起動の後、Acronis Nonstop Backupは 1 時間ごとに 5 回再起動を試行します。

試行が 6 回失敗したら、Acronis Nonstop Backupは次の設定日まで待機します。翌日、自動再起動の回数が自動的にリセットされます。中断されない場合は、Acronis Nonstop Backupは 1 日に 6 回再起動を試行します。

再起動試行回数は、次のいずれかを実行することでリセットできます。

- Acronis Nonstop Backupサービスの再起動
- コンピュータの再起動

Acronis Nonstop Backupサービスを再起動しても、再起動の試行回数が 0 にリセットされるだけです。システムが依然として過負荷の状態にある場合、Acronis Nonstop Backupは再び一時停止になります。Acronis Nonstop Backupサービスの再起動については、<https://kb.acronis.com/content/14708> を参照してください。

コンピュータを再起動すると、負荷および再起動回数がりセットされます。システムが再度過負荷状態になると、Acronis Nonstop Backupは一時停止します。

Acronis Nonstop Backupを実行するときに CPU の負荷が高くなる場合があります。どうしてですか？ - これは、Acronis Nonstop Backupの想定内の動作です。Acronis Nonstop Backupの一時停止中に大量の保護対象データが変更された場合、一時停止から再起動するときに発生することがあります。

たとえば、システムパーティションを保護するために使用している Acronis Nonstop Backupを手動で一時停止してから新しいアプリケーションをインストールするとします。この場合、Acronis Nonstop Backupを再起動したとき、しばらく CPU に負荷がかかります。ただし、処理 (afcdpsrv.exe) は正常に戻ります。

これは、データが継続的に保護されていることを確認するために、Acronis Nonstop Backupが、バックアップされたデータを一時的に一時停止中に変更されたデータと比較してチェックする必要があるためです。変更されたデータが大量にある場合、処理にしばらく時間がかかり、CPU の負荷が高くなる場合があります。チェックが終了し、変更されたデータがすべてバックアップされた後、Acronis Nonstop Backupは正常に戻ります。

Acronis Nonstop Backupストレージは、ローカルハードディスクの FAT32 パーティションでも利用できますか? - はい、FAT32 と NTFS パーティションはストレージに使用できます。

Acronis Nonstop Backupストレージは、ネットワーク共有や NAS で設定できますか? - はい、Acronis Nonstop Backupは、ネットワーク共有、マップされたドライブ、NAS、その他のネットワーク接続デバイスをサポートします。ただし、制限事項として、これらは SMB プロトコルを使用する必要があります。

バックアップファイルの命名

TIB バックアップファイル名には次の属性があります。

- バックアップ名
- バックアップ方法 (full、inc、diff: 完全、増分、差分)
- バックアップチェーン¹番号 (b#形式)
- バックアップバージョン²番号 (s# 形式)
- ボリューム番号 (v#形式)

たとえば、バックアップを複数のファイルに分割するとこの属性は変更されます。詳細については、「[バックアップの分割](#)」を参照してください。

たとえば、バックアップ名は次のようになります。

1. my_documents_full_b1_s1_v1.tib
2. my_documents_full_b2_s1_v1.tib
3. my_documents_inc_b2_s2_v1.tib
4. my_documents_inc_b2_s3_v1.tib

新たにバックアップを作成しているときに、既に同じ名前前のファイルが存在する場合、プログラムによって古いファイルは削除されず、新しいファイルに「-number」サフィックスが追加されて、my_documents_inc_b2_s2_v1-2.tib のようになります。

Windowsとの統合

注意

ご使用のエディションでは一部の機能を使用できない場合があります。

インストール時に Acronis True Image OEM は Windows と緊密に統合されます。この統合により、コンピュータの能力を最大限に引き出すことができます。

Acronis True Image OEM は以下のコンポーネントを統合します。

¹最初の完全バックアップバージョンと、後続の 1 つまたは複数の増分または差分バックアップバージョンから構成される、最低 2 つのバックアップバージョンからなる一連のバックアップバージョンです。バックアップバージョンチェーンは、次の完全バックアップバージョン（存在する場合）まで続きます。

²単一のバックアップ操作の結果。物理的には、特定の日にバックアップされたデータのコピーを含む単独または一連のファイルです。Acronis True Image OEM によって作成されるバックアップバージョンファイルの拡張子は .tibx です。バックアップバージョンの統合による TIBX ファイルもバックアップバージョンと呼ばれます。

- Windows の **[スタート]** メニューに表示される Acronis のアイテム
- タスクバーの Acronis True Image OEM ボタン
- ショートカットメニューコマンド

Windows の **[スタート]** メニュー

[スタート] メニューに、Acronis コマンド、ツール、およびユーティリティが表示されます。これらを使用して Acronis True Image OEM 機能にアクセスできます。アプリケーションを起動する必要はありません。

タスクバーの Acronis True Image OEM ボタン

Windows タスクバーの Acronis True Image OEM ボタンにより、Acronis True Image OEM の処理の進行状況と結果を表示することができます。

トレイ通知センター

Acronis True Image OEM が開いているときは、操作のステータスが表示されます。ただしバックアップなどの操作には時間がかかる可能性があるため、結果を知るために Acronis True Image OEM を開いたままにしておく必要はありません。

トレイ通知センターには最近の通知が一か所に表示され、Acronis True Image OEM を開かなくても、必要なときに重要な操作ステータスを確認できます。Acronis トレイ通知センターに表示される通知は、バックアップ操作の結果情報や、Acronis True Image OEM からのその他の重要通知です。トレイ通知センターは最小化され、トレイの Acronis True Image OEM の下で非表示になります。

ショートカットメニューコマンド

ショートカットメニューコマンドにアクセスするには、File Explorer を開いて、選択したアイテムを右クリックし、Acronis True Image OEM をポイントしてコマンドを選択します。

- 新しいファイルレベルのバックアップを作成するには、**[新しいファイルのバックアップ]** を選択します。
- 新しいディスクレベルのバックアップを作成するには、**[新しいディスクのバックアップ]** を選択します。
- ディスクレベルのバックアップ (.tibファイル) をマウントするには、**[マウント]** を選択します。
- バックアップ (.tibファイル) をベリファイするには、**[ベリファイ]** を選択します。

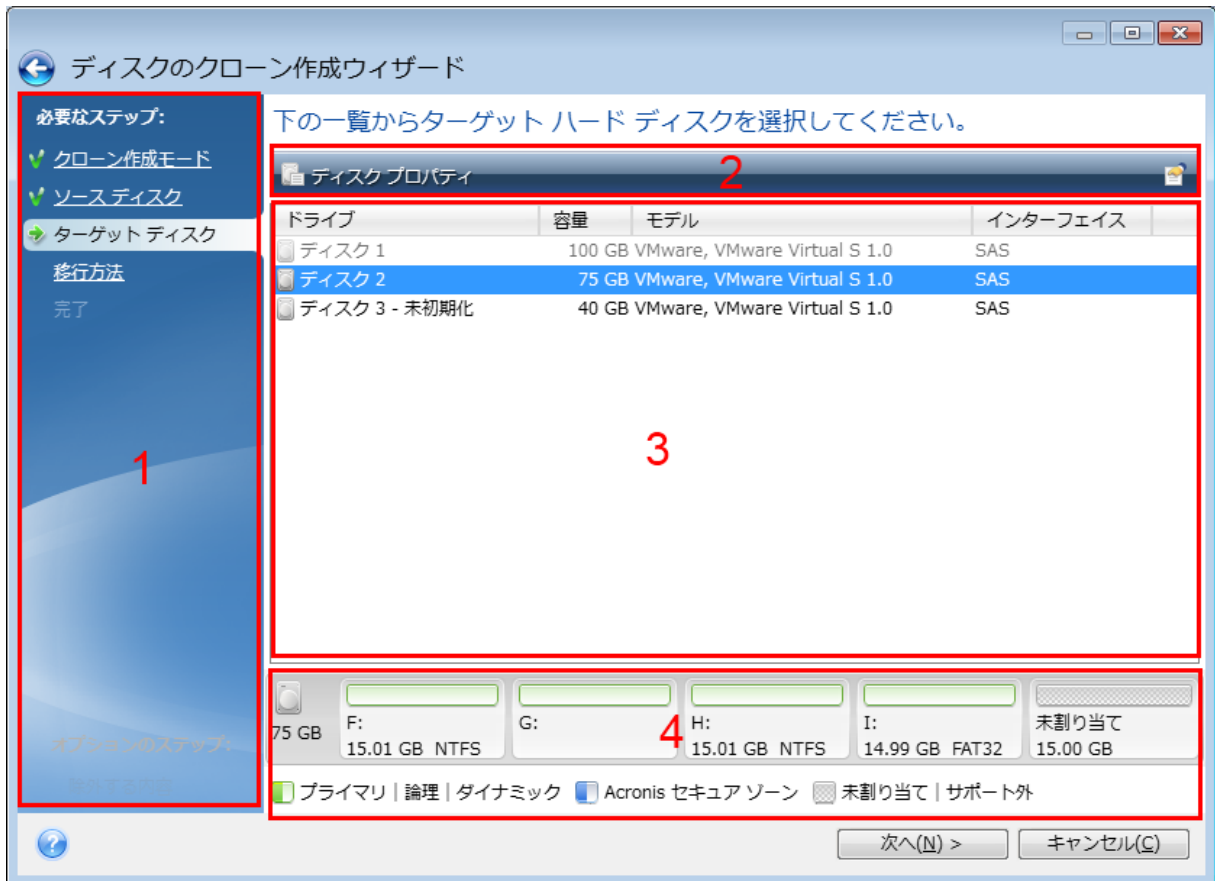
File Explorerでのファイルレベルの復元

1. File Explorerで、復元するデータが含まれているバックアップファイル (.tibファイル) をダブルクリックします。
2. ファイルおよびフォルダを、通常のディスクの場合と同様に、コンピュータ上の任意の場所にコピーまたはドラッグします。

ウィザード

利用可能な Acronis True Image OEM ツールおよびユーティリティを使用する際、ほとんどの場合ウィザードが表示されるので、指示に従って処理を進めることが可能です。

たとえば、次のスクリーンショットをご覧ください。



ウィザード ウィンドウは、通常、次の領域で構成されています。

1. 処理を完了するうえで必要なステップのリスト。完了したステップの横には緑のチェックマークが表示されます。緑の矢印は現在処理中のステップを示します。すべてのステップが完了すると、[完了] ステップで概要画面が表示されます。概要を確認し、[実行] をクリックして処理を開始します。
2. 領域 3 で選択するオブジェクトを管理するためのボタンが表示されたツールバー。
たとえば、次のようになります。
 - [詳細]: 選択したバックアップに関する詳細な情報を提供するウィンドウが表示されます。
 - [プロパティ]: 選択した項目のプロパティウィンドウが表示されます。
 - [新しいパーティションの作成]: 新しいパーティションの設定を行えるウィンドウが表示されます。
 - [項目]: 表示する表の列とその表示順序を選択できます。
3. 項目を選択し、設定を変更する主要領域。
4. 領域 3 で選択する項目についての追加情報が表示される領域。

バックアップ、リカバリ、およびクローン作成に関する FAQ

- 150 GB のシステムパーティションがありますが、このパーティションで使用されている領域は 80 GB のみです。Acronis True Image OEM にはバックアップには何が含まれますか？ - デフォルト

で、Acronis True Image OEM には、データを含むハードディスクセクタのみをコピーするため、バックアップには 80 GB のみが含まれます。セクタ単位モードを選択することもできます。このようなバックアップモードが必要なのは特殊な場合のみです。詳細については、「[イメージ作成モード](#)」を参照してください。セクタ単位モードのバックアップの作成中には、プログラムによって使用済みと未使用の両方のハードディスクセクタがコピーされるため、通常バックアップファイルは非常に大きくなります。

- **システムディスクのバックアップにドライバ、ドキュメント、画像などが含まれますか？** - はい、システムディスクのバックアップにはドライバが含まれ、さらにマイドキュメントフォルダのデフォルトのロケーションを変えていない場合、マイドキュメントフォルダとそのサブフォルダの内容も含まれます。PCに搭載されたハードディスクが1台のみの場合、このバックアップに、オペレーティングシステム、アプリケーション、およびデータのすべてが含まれます。
- **ノートブックに搭載されている古いハードディスクドライブがほとんどいっぱいになりました。容量の大きなHDDを新しく購入しました。Windows、プログラム、およびデータを新しいディスクに転送するにはどうすればよいですか？** - 古いハードディスクのクローンを新しいハードディスク上に作成するか、古いハードディスクをバックアップして、そのバックアップを新しいハードディスクにリカバリします。通常は、古いハードディスクのパーティションレイアウトに応じて最適な方法が決まります。
- **古いシステムのハードディスクをSSDに移行したいと思います。Acronis True Image OEMを使用してこの操作を実行できますか？** - はい、Acronis True Image OEM にはその機能があります。詳細については、「[HDD から SSD へのシステムの移行](#)」を参照してください。
- **システムを新しいディスクに移行するための最適な方法は何ですか？クローン作成またはバックアップとリカバリのどちらですか？** - バックアップと復元による方法の方が柔軟性があります。クローン作成を使用する場合でも、古いハードディスクのバックアップを作成することを強くお勧めします。それによって、クローン作成中に元のハードディスクに問題が発生した場合でも、データは安全に守られます。たとえば、ユーザーが間違ったディスクをターゲットとして選択し、そのためにシステムディスクが消去されることがあります。また、複数のバックアップを作成することで冗長性を持たせたりセキュリティを強化したりすることができます。
- **パーティションまたはディスク全体のどちらをバックアップすればよいですか？** - ほとんどの場合、ディスク全体をバックアップする方がまっさらです。ただし、場合によってはパーティションのバックアップが推奨されることもあります。たとえば、1つのハードディスクに、システム（ドライブ文字 C）とデータ（ドライブ文字 D）という2つのパーティションがあるとします。システムパーティションのマイドキュメントフォルダとサブフォルダには仕事用のドキュメントが保存されています。データパーティションにはビデオ、画像、音楽のファイルが保存されています。システムパーティションのみをバックアップする場合は、ディスク全体をバックアップする必要はありません。この場合、パーティションバックアップで十分です。さらに、（システムファイルではなく）データのみをバックアップする場合は、ファイルバックアップを作成できます。ただし、バックアップストレージに十分な領域がある場合は、ディスク全体のバックアップを少なくとも1つ作成することをお勧めします。
- **Acronis True Image OEM は RAID をサポートしますか？** - Acronis True Image OEM は、一般的なハードウェア RAID アレイをすべてサポートします。ダイナミックディスクでのソフトウェア RAID 構成もサポートされています。Acronis ブータブルメディアは、一般的なハードウェア RAID コントローラーのほとんどをサポートしています。標準的な Acronis ブータブルメディアで RAID が1つの

ボリュームとして認識されない場合、メディアに適切なドライバがありません。その場合は WinPE ベースのメディアを作成して、必要なドライバをそこに追加することができます（詳細モード）。

データのバックアップ

ディスクとパーティションのバックアップ

注意

ご使用のエディションでは一部の機能を使用できない場合があります。

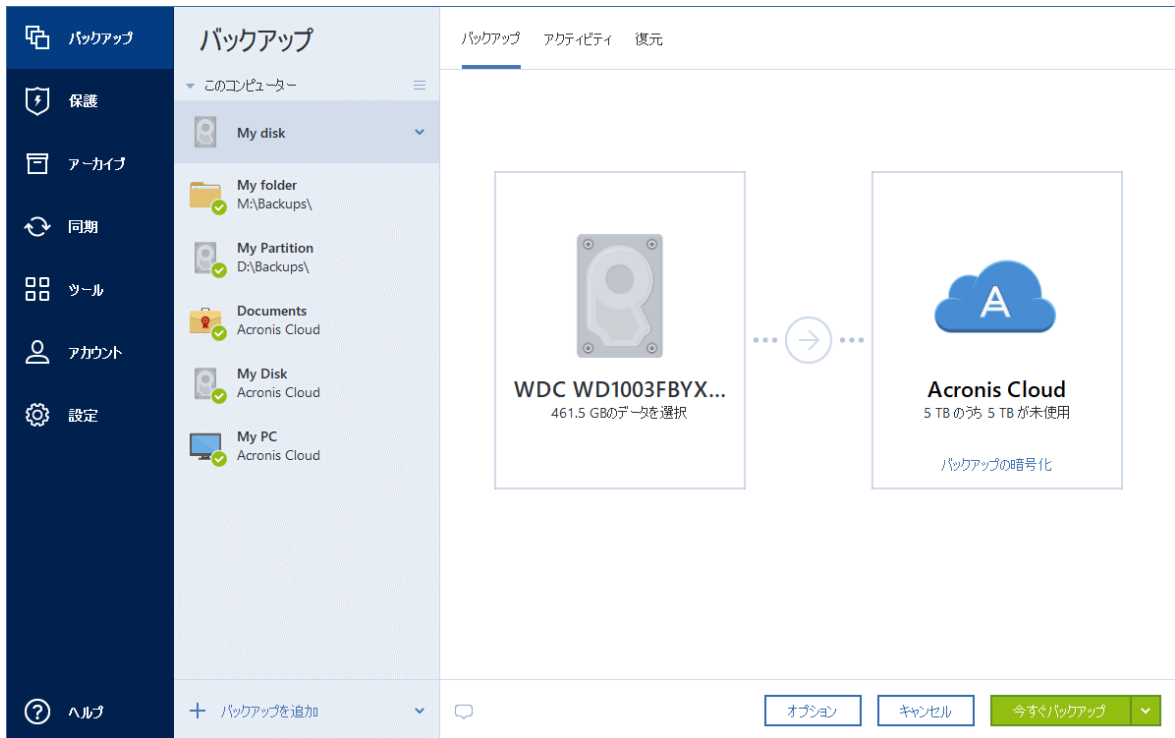
ファイルのバックアップとは対照的に、ディスクやパーティションのバックアップには、ディスクやパーティションに保存されているすべてのデータが含まれます。この種類のバックアップは通常、システムディスク全体のシステムパーティションの正確なコピーを作成するために使用されます。このバックアップを行うと、Windowsが正しく動作しなかったり起動しない場合にコンピュータを復元することが可能になります。

パーティションまたはディスクをバックアップするには、次の手順を実行します。

1. Acronis True Image OEM を開始します。
2. サイドバーで **[バックアップ]** をクリックします。
3. **[バックアップの追加]** をクリックします。
4. (オプション) バックアップの名前を変更するには、バックアップ名の横にある矢印をクリックし、**[名前の変更]** をクリックして、新しい名前を入力します。
5. **[バックアップ対象]** 領域をクリックし、**[ディスクとパーティション]** を選択します。
6. 表示されたウィンドウで、バックアップするディスクやパーティションの横にあるチェックボックスをオンにし、**[OK]** をクリックします。
非表示のパーティションを表示するには、**[パーティションの完全な一覧]** をクリックします。

注意

ダイナミック ディスクをバックアップするには、パーティション モードのみを使用できます。



7. **[バックアップの保存先]** 領域をクリックし、バックアップの保存先を選択します。

- Acronis アカウントをお持ちでない場合は、**[アカウントの作成]** をクリックして E メールアドレスとパスワードを入力し、**[アカウントの作成]** ボタンをクリックします。詳細については、「Acronis アカウント」を参照してください。
- **外付けドライブ**: 外付けドライブがコンピュータに接続されている場合は、リストからそのドライブを選択できます。
- **NAS**: 検出されたNASデバイスのリストからNASを選択します。NAS が1つしかない場合、Acronis True Image OEM はデフォルトでその NAS をバックアップの保存先として使用するよう提案します。
- **参照**: フォルダ ツリーから保存先を選択します。

注意

システム パーティションのバックアップをダイナミック ディスクに保存することは避けるようにしてください。システム パーティションは Linux 環境でリカバリされるからです。Linux と Windows では、ダイナミック ディスクの動作が異なります。その結果、リカバリ中に問題が発生する可能性があります。

8. (オプションの手順) バックアップのオプションを設定するには、**[オプション]** をクリックします。詳細については、「[バックアップオプション](#)」を参照してください。
9. (オプションの手順) **[コメントを追加]** アイコンをクリックして、バックアップバージョンにコメントを入力します。バックアップのコメントは、データをリカバリするときなど、あとで必要なバージョンを検索するときに役立ちます。
10. 次のいずれかを実行します。

- バックアップを直ちに実行するには、**[今すぐバックアップ]** をクリックします。
- 後でバックアップを実行する、またはスケジュールに基づいてバックアップを実行するには、**[今すぐバックアップ]** ボタンの右側にある矢印をクリックし、**[後で実行]** をクリックします。

注意

オンラインバックアップの開始後、Acronis True Image OEM を閉じることができます。バックアッププロセスはバックグラウンドモードで続行されます。バックアップを一時停止した場合、コンピュータの電源をオフにした場合、またはインターネット接続を切断した場合は、**[今すぐバックアップ]** をクリックするか、インターネット接続を復元するとバックアップが再開されます。バックアップを中断しても、データが2回アップロードされることはありません。

ファイルやフォルダのバックアップ

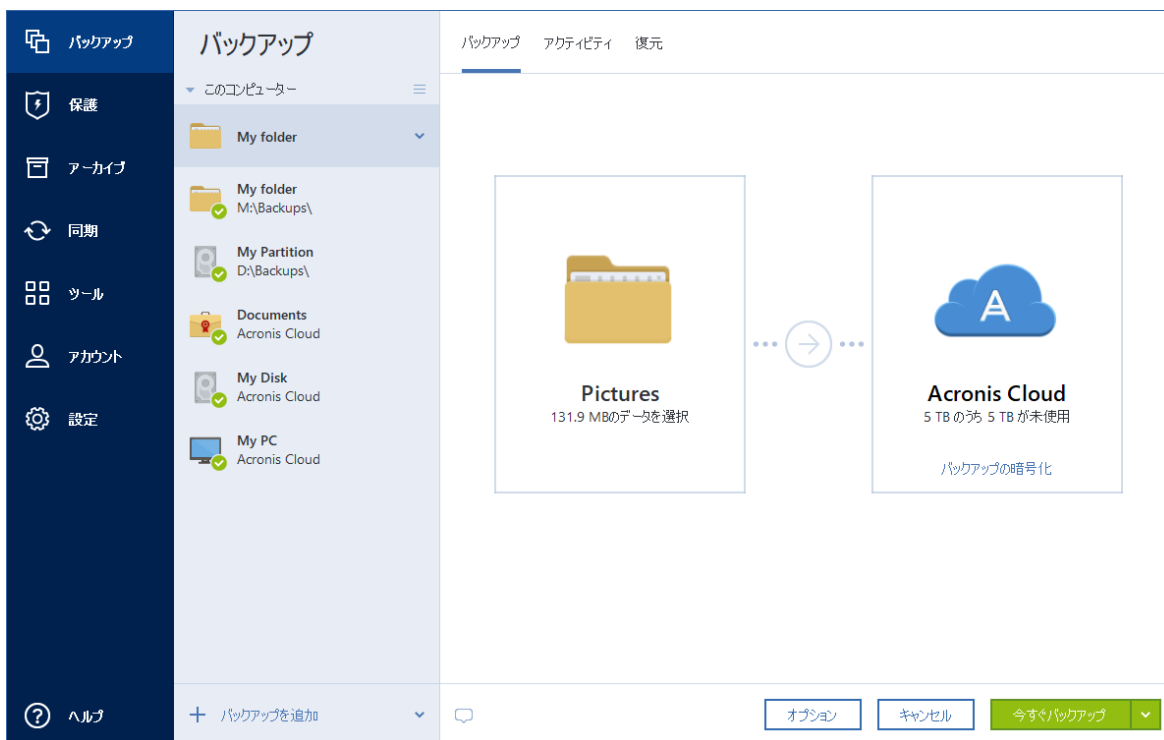
注意

ご使用のエディションでは一部の機能を使用できない場合があります。

ドキュメント、写真、音楽のファイル、ビデオのファイルなどのファイルを保護するために、ファイルを含むパーティション全体をバックアップする必要はありません。特定のファイルやフォルダをバックアップできます。

ファイルやフォルダをバックアップする手順は、次のとおりです。

1. Acronis True Image OEM を開始します。
2. サイドバーで **[バックアップ]** をクリックします。
3. **[バックアップの追加]** をクリックします。
4. (オプション) バックアップの名前を変更するには、バックアップ名の横にある矢印をクリックし、**[名前の変更]** をクリックして、新しい名前を入力します。
5. **[バックアップ対象]** 領域をクリックし、**[ファイルとフォルダ]** を選択します。
6. 表示されたウィンドウで、バックアップするファイルやフォルダの横にあるチェック ボックスをオンにし、**[OK]** をクリックします。



7. **[バックアップの保存先]** 領域をクリックし、バックアップの保存先を選択します。
 - **外付けドライブ:** 外付けドライブがコンピュータに接続されている場合は、リストからそのドライブを選択できます。
 - **NAS:** 検出されたNASデバイスのリストからNASを選択します。NASが1つしかない場合、Acronis True Image OEM はデフォルトでそのNASをバックアップの保存先として使用するよう提案します。
 - **参照:** フォルダ ツリーから保存先を選択します。
8. (オプションの手順) バックアップのオプションを設定するには、**[オプション]** をクリックします。詳細については、「**バックアップオプション**」を参照してください。
9. (オプションの手順) **[コメントを追加]** アイコンをクリックして、バックアップバージョンにコメントを入力します。バックアップのコメントは、データをリカバリするときなど、あとで必要なバージョンを検索するときに役立ちます。
10. 次のいずれかを実行します。
 - バックアップを直ちに実行するには、**[今すぐバックアップ]** をクリックします。
 - 後でバックアップを実行する、またはスケジュールに基づいてバックアップを実行するには、**[今すぐバックアップ]** ボタンの右側にある下向きの矢印をクリックし、**[後で実行]** をクリックします。

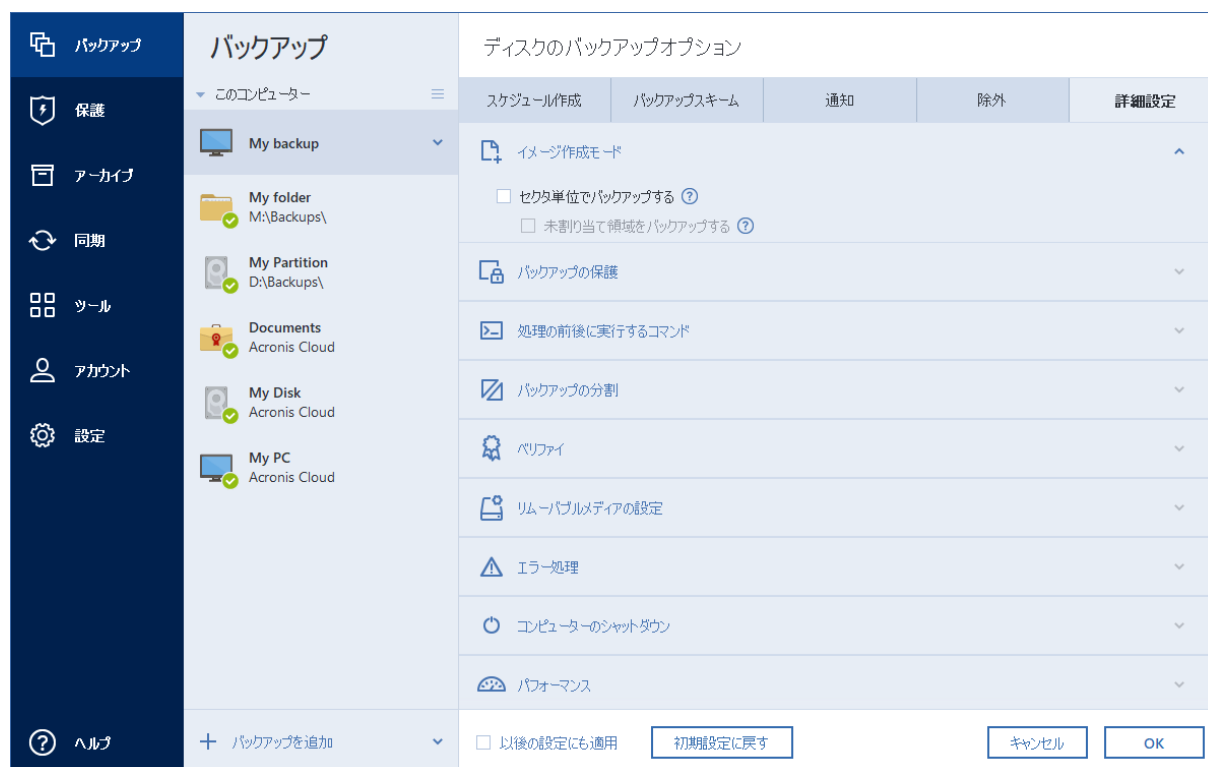
さらに、<https://goo.gl/i4J1AN> のビデオ解説 (英語) をご覧ください。

バックアップ オプション

バックアップを作成するときに、追加オプションを変更して、バックアップ処理を微調整することができます。オプションのウィンドウを開くには、バックアップのソースまたはターゲットを選択してから**[オプション]** をクリックします。

バックアップの種類（ディスクレベルバックアップ、ファイルレベルバックアップ、オンラインバックアップ、ノンストップバックアップ）によりオプションは完全に独立しているため、オプションを個別に設定する必要があります。

アプリケーションをインストールすると、すべてのオプションは初期値に設定されます。これらのオプションは、現在のバックアップ処理のためだけに変更することも、今後のすべてのバックアップ向けに変更することも可能です。**[デフォルトとして保存する]** チェックボックスをオンにすると、変更した設定が今後のバックアップ作業すべてにデフォルトで適用されます。



製品の初回インストール後に変更したオプションをすべてリセットする場合は、**[初期設定にリセット]** ボタンをクリックします。これにより現在のバックアップの設定のみがリセットされることに注意してください。今後のすべてのバックアップでの設定をリセットするには、**[初期設定にリセット]** をクリックし、**[設定をデフォルトとして保存する]** のチェックボックスをオンにしてから、**[OK]** をクリックします。

さらに、<https://goo.gl/bKZyaG> のビデオ解説（英語）をご覧ください。

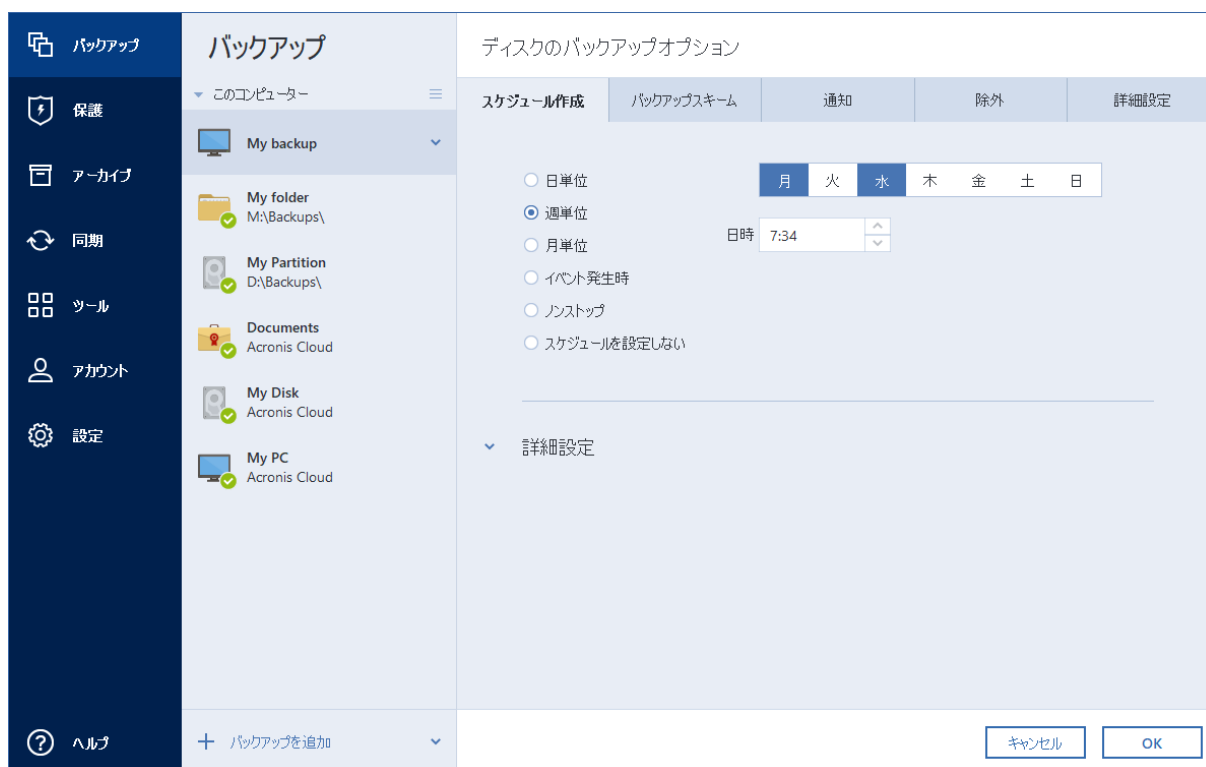
スケジュール設定

注意

ご使用のエディションでは一部の機能を使用できない場合があります。

場所: **[オプション]** > **[スケジュール]**

[スケジュール] タブを使用すると、バックアップを指定し、スケジュール設定をベリファイできます。



バックアップの定期的な作成またはベリファイのスケジュールを指定することができます。

- **[日単位]**: 処理は1日1回以上実行されます。
- **[週単位]**: 処理は1週間に1回、または1週間に複数回、指定した曜日に実行されます。
- **[月単位]**: 処理は1か月に1回、または1か月に複数回、指定した日に実行されます。
- **[イベント発生時]**: 処理はイベントの発生時に実行されます。
- **[ノンストップ]**: 処理は5分おきに実行されます。
- **[スケジュールを設定しない]**: 現在の処理に対してスケジューラがオフになります。この場合、バックアップやベリファイはそれぞれ、メイン ウィンドウで **[今すぐバックアップ]** または **[ベリファイ]** をクリックした場合にのみ実行されます。

詳細設定

[詳細設定] をクリックすると、バックアップおよびベリファイの次の追加設定を指定できます。

- **[コンピュータがロックされたか、スクリーンセーバーが実行中にのみバックアップする]**: スケジュールされた処理の実行を、コンピューターが使用中でない状態（スクリーンセーバーが表示される、またはコンピューターがロックされている状態）になるまで延期する場合には、このチェックボックスをオンにします。ベリファイのスケジュールの場合、チェックボックスが **[コンピュータのアイドル時にのみベリファイを実行する]** に変化します。
- **[スリープ/休止状態のコンピュータを起動]**: スリープ/休止状態のコンピューターを起動して、スケジュールされた処理を実行する場合には、このチェックボックスをオンにします。
- **[コンピュータをスリープ/休止状態にしない]**: 長時間のバックアップで、コンピューターがスリープモードや休止モードに入ったためにバックアップが中断しないようにするには、このチェックボックスをオンにします。

- **[実行されなかった処理をシステム起動後の指定時間に実行 (分単位)]**: スケジュールされた時刻にコンピューターの電源がオフになっていて処理が実行されなかった場合に、次のシステム起動時に未実行の処理を実行させる場合には、このチェックボックスをオンにします。

さらに、システムを起動して一定時間後にバックアップを開始するために、時間遅延を設定できます。たとえば、システム起動の 20 分後にバックアップを開始するには、該当するボックスに「20」と入力します。

- **[外部デバイスが接続された場合に未実行の処理を実行する]** (USB フラッシュドライブへのバックアップまたは USB フラッシュドライブにあるバックアップのベリファイをスケジュール設定している場合のオプション): スケジュールされた時刻に USB フラッシュドライブが接続されていなかった場合に、USB フラッシュドライブの接続時に未実行の処理を実行する場合には、このチェックボックスをオンにします。

日単位のバックアップのパラメータ

日単位のバックアップの作成または検証では、次のパラメータを設定することができます。

- **[毎]** - ドロップダウンリストから日ごとの処理の間隔を選択します (例: 2 時間ごと)。
- **[1 日に一度]** - 1 日に 1 回、指定した時刻に処理が実行されます。
- **[一日二回]** - 1 日に 2 回処理が実行されます。それぞれの処理について時刻を選択します。

[詳細設定] の説明については、「[スケジュール設定](#)」を参照してください。

週単位のバックアップのパラメータ

週単位のバックアップの作成または検証では、次のパラメータを設定することができます。

- **[曜日]** - 処理を実行する曜日を選択します。
- **[時刻]** - 処理の開始時刻を選択します。

[詳細設定] の説明については、「[スケジュール設定](#)」を参照してください。

月単位のバックアップのパラメータ

月単位のバックアップの作成または検証では、次のパラメータを設定することができます。

- **[毎]** - ドロップダウンリストから週の番号と曜日を選択します。たとえば、**[毎月第 1 月曜日]** を選択すると、処理は毎月第 1 月曜日に実行されます。
- **[月の指定日]** - バックアップの日付を選択します。たとえば、月の 10 日と最終日に処理を実行できます。
- **[時刻]** - 処理の開始時刻を選択します。

[詳細設定] の説明については、「[スケジュール設定](#)」を参照してください。

イベント発生時の実行パラメータ

イベント発生時のバックアップの作成または検証では、次のパラメータを設定することができます。

- **[1 日 1 回のみ]**: 当日そのイベントが最初に発生したときのみ処理を実行する場合は、このチェックボックスをオンにします。

- イベントにより実行するバックアップの作成または検証を指定します。
 - **[外部デバイスが接続されている場合]**: 以前にバックアップの宛先として使用したのと同じデバイス (USB フラッシュドライブまたは外部 HDD) がコンピューターに接続されるたびに処理が開始されます。Windowsは外部デバイスとして認識することに注意してください。
 - **[ユーザー ログオン]**: 現在のユーザーがオペレーティングシステムにログオンするたびに処理が開始されます。
 - **[ユーザー ログオフ]**: 現在のユーザーがオペレーティングシステムからログオフするたびに処理が開始されます。
 - **[システム シャットダウンまたは再起動]**: コンピューターのシャットダウン時または再起動時に毎回処理が開始されます。
 - **[システム起動時に遅延 (分単位)]**: オペレーティングシステムが起動するたびに、指定した遅延後に処理が開始されます。

[詳細設定]の説明については、「[スケジュール設定](#)」を参照してください。

バックアップ スキーム

場所: **[オプション]** > **[バックアップスキーム]**

バックアップスキームとスケジューラを使用して、バックアップ戦略を設定できます。このスキームを使用することで、バックアップストレージ領域の使用を最適化し、データストレージの信頼性を向上させ、使用しなくなったバックアップバージョンを自動的に削除することができます。

注意

オンラインバックアップの場合、バックアップスキームはデフォルトで設定されており、変更できません。最初は完全バックアップが作成され、その後は増分バックアップが作成されます。

バックアップスキームでは、以下のパラメータを定義します。

- バックアップバージョン作成の際に使用する**バックアップ方法** (完全、差分、増分)
- 別の方法で作成したバックアップバージョンのシーケンス
- バージョンのクリーンアップルール



Acronis True Image OEM で選択可能なバックアップスキームは次のとおりです。

- **単一バージョンスキーム** - 最小限のバックアップストレージを使用する場合にこのスキームを選択します。
- **バージョンチェンスキーム** - 多くの場合に最適なスキームです。
- **増分スキーム** - 5つの増分バージョンが作成されるごとに完全バージョンを作成する場合に選択します。これはデフォルトのスキームです。
- **差分スキーム** - 最初の完全バックアップの後で差分バックアップのみを作成する場合に選択します。
- **カスタムスキーム** - バックアップスキームを手動で設定する場合に選択します。

既存のバックアップのバックアップスキームは簡単に変更できます。バックアップスキームを変更してもバックアップチェーンの整合性には影響しないため、以前の任意のバックアップバージョンからデータをリカバリすることができます。

注意

DVD/BDなどの光学メディアにバックアップするときは、バックアップスキームを変更できません。この場合、Acronis True Image OEMはデフォルトで完全バックアップのみのカスタムスキームを使用します。これは、プログラムが光学メディアに保存されたバックアップを統合できないためです。

単一バージョン スキーム

このバックアップスキームは、ディスクバックアップとファイルバックアップで同一です（スケジューラ設定は除く）。

このスキームでは完全なバックアップバージョンが作成されます。このバージョンは、指定したスケジュール時間や手動バックアップの実行時に上書きされます。この処理では、新しいバージョンが作成された後に古いバージョンが削除されます。

注意

一番最初のファイルは補助的な用途のために継続的に使用され、これには実際のデータが保存されません。これを削除しないでください。

ディスクバックアップのバックアップスケジュール設定: 月単位。

ファイルバックアップのバックアップスケジュール設定: 日単位。

結果: 単一で最新の完全バックアップバージョンが作成されます。

必要なストレージ領域: 最小

バージョンチェンスキーム

注意

ご使用のエディションでは一部の機能を使用できない場合があります。

このバックアップスキームは、ディスクバックアップとファイルバックアップで異なります。

ディスクバックアップのバージョンチェーン

最初に完全バックアップバージョンが作成されます。このバージョンは、手動で削除されるまで保存されます。これ以降、指定のスケジュールに従って（または手動バックアップの実行時に）、1つの完全バックアップバージョンと、5つの差分バックアップバージョンが作成されます。続いて、同じく1つの完全バックアップバージョンと、5つの差分バックアップバージョンが再作成され、これが繰り返されます。作成したバージョンは6ヵ月間保存されます。この期間が経過すると、（最初の完全バージョン以外の）最も古いバックアップバージョンを削除してもよいかが分析されます。この結果は、バージョンの最小限の数（8）およびバージョンチェーンの一貫性によって変わります。同じバックアップ方法で新しいバージョンが作成されると、最も古いバージョンが1つずつ削除されます（たとえば最も古い差分バージョンは、最新の差分バージョンの作成後に削除されます）。まず最も古い差分バージョンが削除され、次に最も古い完全バージョンが削除されます。

バックアップスケジュール設定: 月単位。

結果: 直近の6ヵ月間のバックアップバージョンが月単位で保持されます（最初の完全バックアップバージョンを含む。このバージョンは、さらに長期間保管可能）。

必要なストレージ領域: バージョンの数とサイズによって異なります。

ファイルバックアップのバージョンチェーン

指定のスケジュールに従って（または手動バックアップの実行時に）、1つの完全バックアップバージョンと、6つの増分バックアップバージョンが作成されます。続いて、同じく1つの完全バックアップバージョンと、6つの増分バックアップバージョンが再作成され、これが繰り返されます。作成したバージョンは1ヵ月間保存されます。この期間が経過すると、最も古いバックアップバージョンを削除

してよいかが分析されます。この結果は、バージョンチェーンの一貫性によって変わります。一貫性を維持するために、新しい類似のバージョンチェーンの作成後に、最も古い1つの完全バックアップバージョンと6つの増分バックアップバージョンが、チェーンごとに削除されます。

バックアップスケジュール設定: 日単位。

結果: 直近の1ヵ月間の、毎日のバックアップバージョンが保持されます。

必要なストレージ領域: バージョンの数とサイズによって異なります。

カスタム スキーム

注意

ご使用のエディションでは一部の機能を使用できない場合があります。

Acronis True Image OEM を使用して、独自のバックアップスキームを作成することもできます。事前定義されたバックアップスキームに基づいてスキームを作成することもできます。事前定義されたスキームを選択して自身の要件に合わせて変更し、その変更後のスキームを新しいものとして保存します。

注意

既存の事前定義されたバックアップスキームは、上書きできません。

自動クリーンアップをオンにする

- **[古いバージョンのクリーンアップルール]** - 使用しなくなったバックアップバージョンを自動的に削除するには、以下のクリーンアップルールのうちの1つを設定します。
 - **[次の期間が経過したバージョンを削除する [定義した期間]]** (完全バックアップの場合のみ使用可能) - バックアップバージョンの保存期間を限定する場合は、このオプションを選択します。指定した期間を超過したバージョンは、すべて自動的に削除されます。
 - **[次の期間が経過したバージョン チェーンを削除する [定義した期間]]** (増分バックアップと差分バックアップでのみ使用可能) - バックアップバージョンチェーンの保存期間を限定する場合は、このオプションを選択します。最も古いバージョンチェーンは、指定した期間をそのチェーンの最新のバックアップバージョンが超過した場合にのみ削除されます。
 - **[最大 [n] つの最新バージョンを保存する]** (完全バックアップの場合のみ使用可能) - バックアップバージョンの最大数を制限する場合は、このオプションを選択します。バージョン数が指定値を超えると、最も古いバックアップバージョンが自動的に削除されます。
 - **[最大 [n] つの最新のバージョンチェーンを保存する]** (増分バックアップと差分バックアップでのみ使用可能) - バックアップバージョンチェーンの最大数を制限する場合は、このオプションを選択します。バージョンチェーン数が指定値を超えると、最も古いバックアップバージョンチェーンが自動的に削除されます。
 - **[バックアップを次のサイズ以下に保つ [定義したサイズ]]** (ローカルバックアップには使用不可) - バックアップの最大サイズを制限する場合は、このオプションを選択します。新しいバックアップバージョンが作成された後に、バックアップの合計サイズが、指定した値を超えているかが確認されます。指定した値を超えている場合は、古いバックアップバージョンが削除されます。

- **[バックアップの最初のバージョンは削除しない]** - 初期のデータ状態を維持する場合は、このチェックボックスをオンにします。最初の完全バックアップバージョンが2つ作成されます。最初のバージョンは自動クリーンアップから除外され、手動で削除するまで保存されます。増分または差分バックアップを選択した場合、最初のバックアップチェーンは2番目の完全バックアップバージョンから開始されます。3番目のバックアップバージョンのみが増分または差分バックアップになります。完全メソッドでこのチェックボックスをオンにすると、**[最大 [n] つの最新バージョンを保存する]** チェックボックスが、**[1+[n] つの最新バージョンを保存する]** に変わります。

カスタムバックアップスキームの管理

既存のバックアップスキームに何らかの変更を加えた場合、変更したスキームを新しいものとして保存できます。その場合、そのバックアップスキームに新しい名前を指定する必要があります。

- 既存のカスタムスキームを上書きすることもできます。
- 既存の事前定義されたバックアップスキームは、上書きできません。
- スキーム名には、そのOSでファイル名に使用できるすべての文字（記号）を使用できます。バックアップスキーム名の最大長は、255文字です。
- カスタムバックアップスキームは、最高16個まで作成できます。

カスタムバックアップスキームを作成した後は、バックアップを設定するときに他の既存のバックアップスキームと同様に使用できます。

また、カスタムバックアップスキームを保存しないで使用することもできます。その場合は、作成したときのバックアップでのみ使用され、他のバックアップには使用できません。

カスタムバックアップスキームがなくなっただけの場合は、削除できます。バックアップスキームを削除するには、バックアップスキームのリストで削除するスキームを選択し、**[削除]** をクリックして、**[スキームを削除]** ウィンドウで確認します。

注意

事前定義されたバックアップスキームは、削除できません。

カスタムスキームの例

1. PC全体のバックアップ「2つの完全バックアップ」

事例: コンピューター上のすべてのデータを2つの完全バックアップを使用して保護し、月に1度バックアップをアップデートするようにします。カスタムバックアップスキームを使用して実行する方法について説明します。

1. PC全体のバックアップの設定を開始します。
2. バックアップ対象として **[コンピュータ全体]** が選択されていることを確認します。
3. **[オプション]** をクリックして **[スケジュール]** タブを開き、**[月単位]** をクリックして、日付（たとえば、20日）を指定します。これで、毎月の指定した日付にバックアップバージョンが作成されるようになります。次に、バックアップ処理の開始時刻を指定します。
4. **[バックアップスキーム]** タブを開き、**[増分スキーム]** の代わりに **[カスタムスキーム]** を選択します。

5. **[バックアップの方法]** ボックスで、ドロップダウンリストから **[完全]** を選択します。
6. バージョン数を制限するには、**[最大 [n] つの最新バージョンを保存する]** をクリックして、**2** と入力または選択し、**[OK]** をクリックします。

この場合、プログラムは新しい完全バックアップを毎月20日に作成します。3つ目のバージョンを作成した後は、最も古いバージョンは自動的に削除されます。

7. すべての設定が正しいことを確認して、**[今すぐバックアップ]** をクリックします。初回バックアップをスケジューラで指定した時刻にのみ実行するには、**[今すぐバックアップ]** ボタンの右側にある下向き矢印をクリックして、ドロップダウンリストで **[後で実行]** を選択します。

2. ファイルバックアップ: 日単位の増分バックアップと週単位の完全バックアップ

ケース: 毎日作業するファイルやフォルダがあります。毎日の作業をバックアップする必要があり、データの状態を過去3週間の任意の日に復元できるようにすることを計画します。カスタムバックアップスキームを使用して、これを実行する方法について説明します。

1. ファイルバックアップの設定を開始します。詳細については、「ファイルやフォルダのバックアップ」を参照してください。
2. **[オプション]** をクリックして **[スケジュール]** タブを開き、**[日単位]** をクリックして、バックアップ処理の開始時刻を指定します。たとえば、毎日の作業を午後8時に終了する場合、その時刻または少し後（午後8時5分）を開始時刻に指定します。
3. **[バックアップスキーム]** タブを開き、**[増分スキーム]** の代わりに **[カスタムスキーム]** を選択します。
4. **[バックアップの方法]** ボックスで、ドロップダウンリストから **[増分]** を選択します。
5. **[次のバージョンごとに完全バージョンを作成する: [n] 増分バージョン]** をクリックして、**6** を入力するか、または選択します。

この場合、プログラムは最初に初回の完全バックアップバージョンを作成し（バックアップ処理の設定方法にかかわらず、初回バックアップバージョンは完全バックアップになります）、6つの増分バックアップを日ごとに作成します。その後、1つの完全バックアップと6つの増分バックアップを再度作成します。このように新しい完全バージョンはすべてちょうど1週間の期間で作成されます。

6. バージョンの保存期間を制限するには、**[自動クリーンアップをオンにします]** をクリックします。
7. **[次の期間が経過したバージョン チェーンを削除する [定義した期間]]** をクリックして、**21** を入力するか、または選択して、**[OK]** をクリックします。
8. すべての設定が正しいことを確認して、**[今すぐバックアップ]** をクリックします。初回バックアップをスケジューラで指定した時刻にのみ実行するには、**[今すぐバックアップ]** ボタンの右側にある下向き矢印をクリックして、ドロップダウンリストで **[後で実行]** を選択します。

3. ディスクバックアップ: 完全バージョン2ヵ月ごとと差分バックアップ月2回

ケース: システムパーティションを月2回バックアップし、新しい完全バックアップバージョンを2ヵ月ごとに作成する必要があります。また、バックアップバージョンの保存に使用するディスク領域は、100 GB 以下にします。カスタムバックアップスキームを使用して、これを実行する方法について説明します。

1. ディスク バックアップの設定を開始します。「[ディスクとパーティションのバックアップ](#)」を参照してください。
2. システムパーティション（通常はC:）をバックアップ対象して選択します。
3. **[オプション]** をクリックして **[スケジュール]** タブを開き、**[月単位]** をクリックして、たとえば、毎月1日と15日を指定します。これにより、約2週間ごとにバックアップバージョンが作成されます。次に、バックアップ処理の開始時刻を指定します。
4. **[バックアップスキーム]** タブを開き、**[増分スキーム]** の代わりに **[カスタムスキーム]** を選択します。
5. **[バックアップの方法]** ボックスで、ドロップダウンリストから **[差分]** を選択します。
6. **[次のバージョンごとに完全バージョンを作成する: [n] 差分バージョン]** をクリックして、**3** を入力するか、または選択します。
この場合、プログラムは最初に初回の完全バックアップバージョンを作成し（バックアップ処理の設定方法にかかわらず、初回バックアップバージョンは完全バックアップになります）、3つの差分バージョンを約2週間ごとに作成します。そして再び1つの完全バックアップと3つの差分バックアップを作成します。このように新しい完全バージョンは2 ヶ月ごとに作成されます。
7. バージョンの保存領域を制限するには、**[自動クリーンアップをオンにします]** をクリックします。
8. **[バックアップのサイズを次のサイズ以下に保つ [定義したサイズ]]** をクリックして、**100 GB** を入力するか、または選択して、**[OK]** をクリックします。

注意

バックアップの合計サイズが 100 GB を超えた場合、Acronis True Image OEM は既存のバックアップバージョンをクリーンアップして、残りのバージョンがサイズ制限を満たすようにします。プログラムは、1つの完全バックアップバージョンと3つの差分バックアップバージョンで構成される、最も古いバックアップチェーンを削除します。

9. すべての設定が正しいことを確認して、**[今すぐバックアップ]** をクリックします。初回バックアップをスケジュールで指定した時刻にのみ実行するようにするには、**[今すぐバックアップ]** ボタンの右側にある下向き矢印をクリックして、ドロップダウンリストで **[後で実行]** を選択します。

バックアップ処理の通知

場所: **[オプション]** > **[通知]**

バックアップまたはリカバリの処理には 1 時間以上かかる場合があります。Acronis True Image OEM では、この処理の終了時に E メールで通知を受け取ることができます。また、処理中に発行されたメッセージや、処理完了後の完全な処理ログもプログラムによって送信されます。

デフォルトでは、すべての通知設定が無効になっています。

空きディスク領域のしきい値

バックアップストレージの空き領域が指定のしきい値より少なくなったときに、通知を受け取ることができます。バックアップの開始後、選択したバックアップ保存先の空き領域が指定値よりも既に少ないことが Acronis True Image OEM によって検出された場合には、プログラムで実際のバックアップ処理は開始されず、空き領域が少ない旨の通知メッセージが直ちに表示されます。メッセージには次の3つの

選択肢が示されます。メッセージを無視してバックアップを続行する、バックアップを保存する別の場所を参照する、バックアップをキャンセルする、の中からいずれかを選択します。

バックアップの実行中に空き領域が指定値より少なくなった場合にも、プログラムにより同じメッセージが表示されるため、同様の選択を行う必要があります。

Acronis True Image OEM では、次のストレージデバイスの空き領域をチェックすることができます。ローカルハードドライブ、USB カードと USB ドライブ、ネットワーク共有（SMB）。FTPサーバーと CD/DVDドライブでは、このオプションを有効にすることはできません。

ディスクの空き領域のしきい値を設定するには、次の手順を実行します。

1. **[ディスクの空き領域が不十分なときに通知メッセージを表示する]** チェックボックスをオンにします。
2. **[ディスクの空き領域が次のサイズ未満になったときに通知する]** ボックスにしきい値を入力します。

注意

[エラー処理] 設定で **[処理中にメッセージやダイアログを表示しない（サイレントモード）]** チェックボックスがオンになっている場合、メッセージは表示されません。

電子メールによる通知

1. **[処理状態に関する電子メール通知を送信する]** チェックボックスを選択します。
2. 電子メールを設定します。
 - **[宛先]** フィールドに電子メール アドレスを入力します。複数のアドレスをセミコロンで区切って入力することもできます。
 - **[サーバー設定]** フィールドに送信メールサーバー（SMTP）を入力します。
 - 送信メール サーバーのポート番号を設定します。デフォルトでは、ポートは25に設定されます。
 - メールに必要な暗号化を選択します。
 - 必要に応じて、**[SMTP 認証]** チェック ボックスを選択し、対応するフィールドにユーザー名とパスワードを入力します。
3. 設定が正しいかどうかをチェックするには、**[テスト メッセージを送信する]** ボタンをクリックします。

テストメッセージの送信に失敗した場合

1. **[拡張設定を表示]** をクリックします。
2. 追加の電子メール設定を行います。
 - **[差出人]** フィールドに送信者のメールアドレスを入力します。指定するアドレスが不明な場合は、たとえば、aaa@bbb.com のような標準形式で任意のアドレスを入力します。
 - 必要に応じて、**[件名]** フィールドのメッセージの件名を変更します。
バックアップステータスを簡単にチェックするために、電子メールメッセージの件名に最も重要な情報を追加できます。入力可能なテキストラベルは次のとおりです。
 - %BACKUP_NAME%: バックアップ名
 - %COMPUTER_NAME%: バックアップが開始されたコンピューター名

- %OPERATION_STATUS%: バックアップまたは他の処理の結果
たとえば、次のように入力します: バックアップのステータス %BACKUP_NAME%:
%OPERATION_STATUS% (%COMPUTER_NAME%)

- **[受信メールサーバーにログオンする]** チェックボックスをオンにして、その下に受信メールサーバー (POP3) を入力します。
- 受信メールサーバーのポート番号を設定します。デフォルトでは、ポートは110に設定されません。

3. **[テストメッセージを送信する]** ボタンをもう一度クリックします。

その他の通知設定

- **[処理が正常に完了したら通知を送信する]** - 処理の完了に関する通知を送信するには、このチェックボックスをオンにします。
- **[処理が失敗したら通知を送信する]** - 処理の失敗に関する通知を送信するには、このチェックボックスをオンにします。
- **[ユーザーの操作が必要な場合に通知を送信する]** - 処理メッセージを添付して通知を送信するには、このチェックボックスをオンにします。
- **[完全なログを通知に含める]** - 処理の詳細なログを添付して通知を送信するには、このチェックボックスをオンにします。

注意

特定のバックアップについてのみ電子メール通知を受け取ります。

イメージ作成モード

場所: **[オプション]** > **[詳細]** > **[イメージ作成モード]**

これらのパラメータを使用して、データが含まれるセクタと、パーティションまたはハードディスク全体のコピーを作成できます。たとえば、Acronis True Image OEM がサポートしていないオペレーティングシステムが含まれているパーティションまたはディスクをバックアップする場合に便利なことがあります。このモードでは、より多くの処理時間がかかり、通常より大きいイメージファイルが作成されることに留意してください。

- セクタ単位のイメージを作成するには、**[セクタ単位でバックアップする]** チェックボックスをオンにします。
- ディスクのすべての未割り当ての領域をバックアップに含めるには、**[未割り当て領域をバックアップする]** チェックボックスをオンにします。
このチェックボックスは、**[セクタ単位でバックアップする]** チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。

バックアップ処理前後に実行するコマンド

場所: **[オプション]** > **[詳細]** > **[処理の前後に実行するコマンド]**

バックアップ処理の前後に自動的に実行するコマンド (またはバッチファイル) を指定することができます。

たとえば、バックアップを開始する前に特定のWindowsプロセスを開始/停止することや、バックアップ対象のデータを調べることができます。

コマンド（バッチファイル）を指定する手順は、次のとおりです。

- **[カスタムコマンドを使用する]** チェックボックスをオンにします。
- バックアップ処理の開始前に実行するコマンドを **[処理前に実行するコマンド]** フィールドで選択します。新しいコマンドを作成する、または新しいバッチファイルを選択するには、**[編集]** ボタンをクリックします。
- バックアップ処理の終了後に実行するコマンドを **[処理後に実行するコマンド]** フィールドで選択します。新しいコマンドを作成する、または新しいバッチファイルを選択するには、**[編集]** ボタンをクリックします。

対話式のコマンド、すなわちユーザーの入力を要求するコマンド（例えば **pause**）は実行しないでください。これらのコマンドは、サポートされていません。

バックアップ用ユーザーコマンドの編集

バックアップ処理の前または後に実行するユーザーコマンドを指定することができます。

- **[コマンド]** フィールドにコマンドを入力するか、一覧から選択します。**[...]** をクリックすると、バッチファイルを選択できます。
- **[作業ディレクトリ]** フィールドに、コマンド実行のためのパスを入力するか、入力済みのパスの一覧から選択します。
- **[引数]** フィールドに、コマンド実行引数を入力するか、一覧から選択します。

[コマンドの実行が完了するまで処理を行わない] パラメータを無効にすると（デフォルトでは有効）、コマンド実行と並行してバックアップ処理を実行できます。

[ユーザーコマンドが失敗したら処理を中止する] パラメータを有効にした場合は（デフォルトでは有効）、コマンド実行でエラーが発生すると処理が中止されます。

入力したコマンドをテストするには、**[コマンドのテスト]** ボタンをクリックします。

バックアップの分割

場所: **[オプション]** > **[詳細]** > **[バックアップの分割]**

注意

Acronis True Image OEM では、既存のバックアップを分割することはできません。バックアップの分割は作成時のみ可能です。

サイズの大きいバックアップを、元のバックアップを構成するいくつかのファイルに分割することができます。また、リムーバブルメディアに書き込めるようにバックアップを分割することもできます。

デフォルトの設定は **[自動]** です。この設定では、Acronis True Image OEM は次のように動作します。

ハードディスクにバックアップする場合:

- 選択したディスクに十分な空き領域があり、予想ファイルサイズがファイルシステムの許容範囲内である場合は、1つのバックアップファイルを作成します。
- ストレージディスクに十分な空き領域があっても、予想ファイルサイズがファイルシステムの許容範囲を超える場合、プログラムは自動的にイメージを複数のファイルに分割します。
- ハードディスクに、イメージを保存するだけの十分な空き領域がない場合、プログラムは警告を表示し、問題への対処方法の入力を求めます。空き領域を増やして続行するか、別のディスクを選択することができます。

CD-R/RW、DVD-R/RW、DVD+R/RW、および BD-R/RE にバックアップする場合:

また、ドロップダウンリストからファイルサイズを選択することもできます。バックアップは、指定したサイズの複数のファイルに分割されます。後で CD-R/RW、DVD-R/RW、DVD+R/RW、または BD-R/RE にバックアップを書き込むためにハードディスクにバックアップを保存する場合には、この機能が役立ちます。

注意

CD-R/RW、DVD-R/RW、DVD+R/RW、および BD-R/RE に直接イメージを作成すると、ハードディスクに作成するよりも大幅に時間がかかる場合があります。

バックアップのベリファイ オプション

場所: [オプション] > [詳細] > [ベリファイ]

次のような設定が可能です。

- **[完了するたびにバックアップをバリデートする]** - バックアップの直後にバックアップバージョンの整合性をチェックする場合に選択します。重要なデータやシステムディスクをバックアップする場合はこのオプションを有効にすることをお勧めします。
 - **[最新のバックアップバージョンのみをバリデートする]** - バックアップの最新のスライスをクイックベリファイします。
 - **[バックアップ全体をバリデート]**
- **[スケジュールに従ったバックアップのベリファイ]** - バックアップのベリファイのスケジュールを設定して、バックアップが正常な状態に保たれていることを確認する場合に選択します。
 - **[完了後に最新バージョンのバックアップ]**
 - **[完了時にバックアップ全体]**

デフォルトの設定は次のとおりです。

- **間隔** - 月 1 回。
- **日付** - バックアップが開始された日。
- **時間** - バックアップが開始された時刻 + 15 分。

バックアップのコンテキストメニューから、手動でベリファイの開始を設定することもできます。

これを実行するには、バックアップを右クリックして次から選択します。

- **[すべてのバージョンをバリデート]**
- **最新バージョンのベリファイ**

バックアップの予備コピー

場所: [オプション] > [詳細] > [バックアップの予備コピー]

このオプションはローカルバックアップには使用できません。

バックアップの予備コピーは、通常のバックアップの直後に作成された、独立した完全バックアップバージョンです。データの変更分しか含まれない増分バックアップまたは差分バックアップのバージョンを作成する場合でも、予備コピーには、通常のバックアップとして選択したすべてのデータが含まれます。バックアップの予備コピーは、ファイルシステム、ネットワークドライブ、USB フラッシュドライブなどに保存できます。

注意

予備コピーの保存先として、CD/DVD はサポートされていません。

予備コピーを作成する手順は、次のとおりです。

1. [バックアップの予備コピーを作成する] チェックボックスをオンにします。
2. バックアップ コピーの保存先を指定します。
3. 予備コピーの形式を選択します。これは、Acronis バックアップ (.tib ファイル) として作成することもできますし、選択した場所にソースファイルをそのまま変更せずにコピーすることもできます。
4. (オプションの手順) 予備コピーをパスワードで保護します。
他のバックアップ オプションはすべてソース バックアップから引き継がれます。

エラー処理

Acronis True Image OEM でバックアップの実行中にエラーが発生すると、バックアップ処理が停止され、メッセージが表示されて、エラーへの対応に関するユーザーからの指示を待つ状態になります。エラー処理ポリシーを設定し、この設定ルールに従って Acronis True Image OEM にエラーを処理させることで、バックアップ処理を停止せずに継続させることができます。

注意

このトピックは、バックアップ先がローカルまたはネットワークにある場合に適用されます。

エラー処理ポリシーを設定する手順は、次のとおりです。

1. [バックアップ] ダッシュボード > [オプション] > [詳細] > [エラー対応] の順に選択します。
2. エラー処理ポリシーを設定します。
 - [処理中にメッセージやダイアログを表示しない (サイレントモード)]: この設定を有効にすると、バックアップ処理中のエラーが無視されます。バックアップ処理を制御できない場合に便利です。
 - [不良セクタを無視する]: このオプションは、ディスクとパーティションのバックアップの場合のみ使用できます。このオプションを有効にすると、ハードディスク上に不良セクタがある場合でもバックアップを正常に完了できます。

たとえば次のような場合など、ハードディスクが故障しつつある場合に、このチェックボックスをオンにすることをおすすめします。

- ハードディスクドライブの動作中にかなり大きな異音や摩擦音が発生している場合。
- S.M.A.R.T.システムによってハードディスクドライブの問題が検出され、可能な限り早くドライブをバックアップするよう促された場合。

このチェックボックスをオフのままにした場合、ドライブ上に不良セクタがあると考えられるためにバックアップが失敗することがあります。

- **[バックアップが失敗した場合は再試行する]**: このオプションを指定すると、何らかの理由でバックアップが失敗したときにバックアップが自動的に再試行されます。試行回数および試行間隔を指定できます。バックアップが繰り返しエラーで中断される場合、バックアップは作成されません。

注意

スケジュール設定されたバックアップ処理はすべての試行が完了するまで開始されません。

3. **[OK]** をクリックします。

バックアップ用のファイルレベルのセキュリティ設定

注意

ご使用のエディションでは一部の機能を使用できない場合があります。

場所: **[オプション]** > **[詳細]** > **[ファイルレベルのセキュリティ設定]**

注意

このオプションは、ファイルレベルのバックアップでのみ使用可能です。

バックアップするファイルのセキュリティ設定を次のように指定できます。

- **[バックアップにファイルのセキュリティ設定を保持する]**: このオプションを選択すると、バックアップファイルのすべてのセキュリティプロパティ（グループまたはユーザーに割り当てられる許可）が、将来のリカバリに備えて保存されます。

デフォルトでは、ファイルとフォルダは元の Windows セキュリティ設定（ファイルの **[プロパティ]** -> **[セキュリティ]** で設定される、各ユーザーまたはユーザーグループに与えられる書き込み、読み取り、実行などの許可）と共にバックアップに保存されます。セキュリティで保護されたファイルまたはフォルダをコンピュータ上でリカバリしようとしているユーザーに、アクセス許可が与えられていない場合は、そのファイルの読み取りや変更ができなくなる可能性があります。

このような問題を回避するため、バックアップの際にファイルのセキュリティ設定を保存するのを無効にすることができます。このようにすれば、リカバリされたファイル/フォルダのアクセス許可は常に、リカバリ先のフォルダ（親フォルダ、ルートにリカバリされる場合は親ディスク）から継承されます。

または、ファイルのセキュリティ設定をリカバリ時に無効化できます。これは、ファイルのセキュリティ設定がバックアップに保存されている場合でも可能です。結果は同じになります。

- **[暗号化されたファイルを暗号化解除された状態でバックアップに格納する]** (デフォルト設定は [無効]) : バックアップに暗号化ファイルが含まれており、リカバリ後にそのファイルをすべてのユーザーからアクセス可能にしたい場合は、このオプションをオンにします。オフにすると、ファイル/フォルダを暗号化したユーザーのみがそのファイル/フォルダを読むことができます。暗号化されたファイルを別のコンピュータにリカバリする場合にも、暗号化解除が役立つことがあります。Windows XP 以降のオペレーティングシステムで利用可能な暗号化機能を使用しない場合は、このオプションは無視してください。ファイル/フォルダの暗号化を設定するには、**[プロパティ]** -> **[全般]** -> **[詳細設定]** -> **[内容を暗号化してデータをセキュリティで保護する]** の順に選択します。

コンピュータのシャットダウン

場所: **[オプション]** > **[詳細]** > **[コンピュータのシャットダウン]**

次のようなオプションの設定が可能です。

- **[コンピューターをシャットダウンするときに現在の処理をすべて停止する]** - ディスクバックアップなど、Acronis True Image OEM が長い処理を実行中にコンピューターをオフにしようとする、この処理によりシャットダウンが抑制されます。このチェックボックスをオンにすると、シャットダウンの前に Acronis True Image OEM が自動的に現在の処理をすべて停止します。これには約 2 分かかります。次の Acronis True Image OEM の実行時に、停止したバックアップが再開されます。
- **[バックアップの完了後にコンピュータをシャットダウンする]** - 設定するバックアップ処理に時間がかかることが分かっている場合は、このオプションを選択します。これにより、処理が完了するまで待つ必要がなくなります。プログラムはバックアップを実行し、自動的にコンピュータの電源を切ります。

このオプションは、バックアップのスケジュールを設定する場合にも便利です。たとえば、すべての作業を保存するには、平日の夕方に毎日バックアップを実行できます。バックアップのスケジュールを設定して、チェックボックスをオンにします。この設定の場合、仕事が完了したら、そのままコンピュータから離れることができます。なぜなら、重要なデータがバックアップされ、コンピュータの電源が切られることがわかっているからです。

バックアップ処理のパフォーマンス

ローカルの保存先へバックアップする場合の場所: **[オプション]** > **[詳細]** > **[パフォーマンス]**

圧縮レベル

バックアップの圧縮レベルを次の中から選択することができます。

- **[なし]**: データが圧縮されずにコピーされるため、バックアップファイルのサイズは非常に大きくなります。
- **[通常]**: 推奨されるデータ圧縮レベルです (デフォルトの設定)。
- **[高]**: バックアップファイルが高い圧縮レベルで圧縮されるため、バックアップの作成時間が長くなります。
- **[最大]**: バックアップは最高圧縮レベルで圧縮されるため、バックアップの作成時間が最も長くなります。

注意

最適なデータ圧縮レベルは、バックアップに保存されるファイルの種類によって異なります。たとえば、.jpg、.pdf、.mp3など、既に圧縮されたファイルを含むバックアップでは、最高圧縮レベルで圧縮してもバックアップサイズが大幅に縮小されることはありません。

注意

既存のバックアップの圧縮レベルを設定または変更することはできません。

処理の優先順位

バックアップ処理や復元処理の優先度を変更すると、（優先度の上げ下げによって）バックアップの処理速度を速くしたり遅くしたりできますが、実行中の他のプログラムのパフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性もあります。システムで実行中の処理の優先度に応じて、処理に割り当てられるCPUやシステムリソースの使用量が決定されます。処理の優先度を下げると、他のCPUタスクで使用されるリソースを増やすことができます。バックアップや復元の優先度を上げると、実行中の他の処理からリソースを取得することができ、処理の速度が向上します。優先度変更の効果は、全体的なCPUの使用状況およびその他の要因に応じて異なります。

処理の優先度は、次のいずれかに設定することができます。

- **[低]**（デフォルトで有効）：バックアップ処理や復元処理の速度は低下しますが、他のプログラムのパフォーマンスは向上します。
- **[通常]**：バックアップ処理や復元処理に他の処理と同じ優先度が割り当てられます。
- **[高]**：バックアップ処理や復元処理の速度は向上しますが、他のプログラムのパフォーマンスは低下します。このオプションを選択すると、Acronis True Image OEM による CPU 使用率が 100% になる場合があるので注意してください。

データのアップロード速度

ネットワークドライブまたはFTPにデータをバックアップする場合、Acronis True Image OEM の接続速度を変更できます。速度の低下を気にすることなくインターネットやネットワークリソースを使用できる接続速度を設定します。

接続速度を設定する場合は、次のいずれかのオプションを選択します。

- **最大**
データ転送速度は、システム構成の最大値になります。
- **制限**
データのアップロード速度の最大値を指定できます。

バックアップのスナップショット

警告

このオプションは、詳しい知識のあるユーザー向けです。どのオプションを選択すれば良いかわからない場合は、デフォルト設定を変更しないでください。

ディスクまたはパーティションのバックアップ処理には時間がかかることがあるため、この処理の実行中に、一部のバックアップファイルが使用中であったり、ロックされていたり、または変更中であることがあります。たとえば、ドキュメントを編集し、頻繁に保存することがあります。Acronis True Image OEM がファイルを 1 つずつバックアップした場合、開いているファイルはバックアップの開始以降に変更され、異なる時点でバックアップに保存されている可能性があります。したがって、バックアップのデータの整合性が失われる可能性があります。これを回避するため、Acronis True Image OEM によりいわゆるスナップショットが作成されます。スナップショットは、バックアップ対象データを特定の時点の状態に修正します。この処理はバックアップ開始前に実行されるため、データの整合性が保証されます。

[バックアップのスナップショット] リストからオプションを 1 つ選択します。

- **[スナップショットなし]** - スナップショットは作成されません。通常のコピー操作としてファイルが 1 つずつバックアップされます。
- **[VSS]** - このオプションはディスクレベルおよびコンピュータ全体のバックアップのデフォルトであり、バックアップのデータの整合性が保証されます。

警告

システムのバックアップでは、このオプションのみが推奨されます。異なるスナップショットタイプを使用して作成されたバックアップから復元すると、コンピュータが起動しなくなる可能性があります。

- **[Acronis スナップショット]** - 古いバージョンの Acronis True Image OEM で使用された Acronis ドライバを使用してスナップショットが作成されます。
- **[ライタなしの VSS]** - このオプションは、ファイルレベルのバックアップのデフォルトです。VSS ライタは、スナップショットが作成されることをアプリケーションに通知する特殊な VSS コンポーネントです。これにより、アプリケーションはデータをスナップショットに向けて準備できます。このライタは、大量のファイル操作を実行しデータの整合性を必要とするアプリケーション（データベースなど）に必要です。このようなアプリケーションはホームコンピュータにはインストールされないため、ライタを使用する必要はありません。また、このオプションはファイルレベルのバックアップにかかる時間を削減します。

ラップトップ電源の設定

場所: [設定] > [バッテリーセーバー]

注意

この設定は、バッテリーを搭載したコンピュータ（ラップトップ、UPSに接続されたコンピュータ）でのみ使用できます。

バックアップを長時間実行すると、バッテリーの電源が非常に速く消耗する可能性があります。ラップトップで作業するとき電源が周りにない場合や、コンピュータが停電後にUPSに切り替えられている場合は、バッテリー電源を節約することをお勧めします。

バッテリーの充電を節約する手順は、次のとおりです。

- サイドバーの [設定] > [バッテリーセーバー] をクリックし、[バッテリー電力がこれを下回る場合はバックアップしない] チェックボックスをオンにして、電力の節約を開始するバッテリーレベルをスライダで正確に設定します。

この設定をオンにすると、ラップトップ電源アダプタを取り外すか、停電時にコンピュータで UPS を使用した場合、バッテリーの残り電力がスライダレベル以下になったら、現在のすべてのバックアップが一時停止されて、スケジュール済みバックアップは開始しません。電源アダプタを再び取り付けるか電源が復旧すると、一時停止されていたバックアップが再開されます。この設定のために実行されていないスケジュール済みバックアップも開始されます。

この設定は、バックアップ機能を完全にはブロックしません。いつでもバックアップを手動で開始できます。

バックアップの操作

バックアップ処理メニュー

バックアップ処理メニューからは、選択したバックアップに関して実行できるその他の操作に簡単にアクセスできます。

バックアップ処理メニューには次の項目が含まれる場合があります。

- **[名前の変更]** (Acronis Cloud へのバックアップには使用できません) - リスト内のバックアップに新しい名前を設定します。バックアップファイルの名前は変更されません。
- **[再設定]** (バックアップの一覧に手動で追加したバックアップの場合) - 以前のバージョンによって作成されたバックアップの設定を行います。この項目は、別のコンピュータで作成し、設定をインポートせずにバックアップリストに追加したバックアップでも表示されます。
バックアップの設定がない場合、**[今すぐバックアップ]** をクリックしてバックアップを更新することはできません。また、バックアップの設定を編集することも、設定のクローンを作成することもできません。
- **[最新バージョンをバリデート]** - バックアップの最新スライスのクイック検証を開始します。
- **[すべてのバージョンをバリデート]** - バックアップのすべてのスライスのベリファイを開始します。
- **[古いバージョンのクリーンアップ]** - 不要になったバックアップバージョンを削除します。
- **[設定のクローン作成]** - 初期のバックアップ設定を持つ、(1) **[最初のバックアップの名前]** という名前の新しい空のバックアップボックスを作成します。設定を変更して保存し、クローンのバックアップボックスで **[今すぐバックアップ]** をクリックします。
- **[移動]** - すべてのバックアップファイルを他の保存先に移動します。後続のバックアップバージョンは新しい場所に保存されます。
バックアップ設定を編集してバックアップの保存先を変更した場合は、新しいバックアップバージョンのみが新しい場所に保存されます。以前のバックアップバージョンは、元の場所に残ります。
- **[削除]** - バックアップの種類に応じて、そのロケーションからバックアップを完全に消去するか、バックアップボックスのみを削除するかを選択できます。バックアップボックスを削除する場合、バックアップファイルはそのロケーションに残り、後でバックアップをリストに追加することができます。バックアップを完全に削除した場合、削除を元に戻すことはできません。

- **[場所を開く]** - バックアップファイルが格納されているフォルダを開きます。
- **[ファイルの検索]** - 検索フィールドにファイルやフォルダの名前を入力して、バックアップに含まれる特定のファイルまたはフォルダを検索します。
- **[VHD に変換]** (ディスクレベルのバックアップの場合) - 選択した Acronis バックアップバージョン (.tibx ファイル) を仮想ハードディスク (.vhd (x) ファイル) に変換します。最初のバックアップバージョンは変更されません。

バックアップアクティビティと統計

バックアップ履歴やバックアップに含まれているファイルの種類などのバックアップに関する追加情報を、**[アクティビティ]** タブと **[バックアップ]** タブに表示することができます。**[アクティビティ]** タブには、選択したバックアップに対して実行された（作成以降の）操作リスト、操作状況、統計が含まれています。これは、バックアップモードでバックアップに何が生じていたかを突き止める必要があるときに便利です。たとえば、スケジュールされたバックアップ操作の数や状況、バックアップデータのサイズ、バックアップ検証の結果などです。

バックアップの最初のバージョンを作成するときに、**[バックアップ]** タブに、バックアップの内容がファイルの種類ごとに図表形式で表示されます。

[アクティビティ] タブ

注意

ノンストップバックアップには、アクティビティのフィードがありません。

バックアップアクティビティを表示する手順は、次のとおりです。

1. サイドバーで **[バックアップ]** をクリックします。
2. バックアップリストで、履歴を表示するバックアップを選択します。
3. 右側のペインで **[アクティビティ]** をクリックします。

 今日の15:31に正常にバックアップされました				
バックアップ済み	速度	経過時間	復元対象のデータ	種類
1.6 GB	111.0 Mbps	3分 54秒	1.6 GB	完全

表示対象と分析対象:

- バックアップ操作とその状況（正常、失敗、キャンセル、中断など）
- バックアップに対して実行された操作とその状況
- エラーメッセージ
- バックアップのコメント
- バックアップ操作の詳細。これには、次のものが含まれます。
 - **[バックアップ済み]**: 最新のバックアップバージョンのデータのサイズ。
ファイルレベルのバックアップの場合、Acronis True Image OEM によってバックアップするファイルのサイズが計算されます。このパラメータの値は、完全バックアップバージョンの [復元する

データ] の値と同等です。差分バックアップと増分バックアップでは通常、[復元するデータ] よりも小さくなります。これは、Acronis True Image OEM ではリカバリに以前のバージョンのデータが追加で使用されるためです。

ディスクレベルのバックアップの場合、Acronis True Image OEM によってバックアップするデータが含まれているハードドライブセクタのサイズが計算されます。セクタにはファイルへのハードリンクが含まれている可能性があるため、ディスクレベルの完全バックアップバージョンでも、このパラメータの値は、[復元するデータ] パラメータの値よりも小さくなる可能性があります。

- **[速度]**: バックアップ操作の速度。
- **[経過時間]**: バックアップ操作にかかった時間。
- **[復元するデータ]**: 最新のバックアップバージョンからリカバリできるデータのサイズ。
- **[方式]**: バックアップ操作の方法（完全、増分、または差分）。

詳細については、ナレッジベース <http://kb.acronis.com/content/60104> を参照してください。

[バックアップ] タブ

バックアップを作成するときに、最新のバックアップバージョンに含まれている各種のバックアップファイルの統計を表示することができます。



カラーセグメントをポイントして、ファイルの数と各データカテゴリの合計サイズを表示します。

- ピクチャ
- ビデオファイル
- オーディオファイル
- ドキュメント
- システムファイル
- 隠しシステムファイルを含む、他のファイルタイプ

[復元対象のデータ] には、バックアップ対象として選択した元のデータのサイズが表示されます。

リスト内でのバックアップの並べ替え

デフォルトでは、バックアップは作成日の新しい順に並べ替えられます。順序を変更するには、バックアップリストの上部にある並べ替えの種類から適切なものを選択します。次の選択肢があります。

コマンド		説明
並べ替え基準	名前	このコマンドは、すべてのバックアップをアルファベット順に並べ替えます。 順序を逆にするには、 [Z→A] を選択します。

作成日	このコマンドは、すべてのバックアップを新しい順に並べ替えます。 順序を逆にするには、 [古い順] を選択します。
アップ デート 日	このコマンドは、すべてのバックアップを最新の日付順に並べ替えます。バックアップバージョンが新しいほど、リストの上位に配置されます。 順序を逆にするには、 [参照頻度の低い順] を選択します。
サイズ	このコマンドは、すべてのバックアップをサイズの大きい順に並べ替えます。 順序を逆にするには、 [小さい順] を選択します。
対象の 種類	このコマンドは、すべてのバックアップを対象の種類ごとに並べ替えます。
保存先 の種類	このコマンドは、すべてのバックアップを保存先の種類ごとに並べ替えます。

バックアップのベリファイ

ベリファイ処理でバックアップからデータを復元できるかどうかを確認されます。

たとえば、システムのリカバリ前のバックアップの検証は重要です。破損したバックアップでリカバリを開始すると、処理が失敗し、コンピューターが起動できなくなる可能性があります。ブータブルメディアを使用してシステムパーティションのバックアップを検証することをお勧めします。その他のバックアップは Windows で検証できます。「[リカバリの準備](#)」と「[基本的な概念](#)」も参照してください。

Windows でバックアップ全体を検証するには、次の手順を実行します。

1. Acronis True Image OEM を起動し、サイドバーの **[バックアップ]** をクリックします。
2. **[バックアップ]** リストで、検証対象バックアップの横にある下矢印アイコンをクリックし、**[ベリファイ]** をクリックします。

スタンドアロン版の Acronis True Image OEM (ブータブルメディア) で、特定のバックアップバージョンまたはバックアップ全体を検証するには、次の手順を実行します。

1. **[復元]** タブで、ベリファイするバージョンを含むバックアップを見つけます。バックアップがリストに表示されていない場合、**[バックアップの参照]** をクリックし、バックアップのパスを指定します。Acronis True Image OEM がこのバックアップをリストに追加します。
2. バックアップまたは特定のバージョンを右クリックし、**[ベリファイ]** をクリックします。**ベリファイウィザード**が開きます。
3. **[実行]** をクリックします。

バックアップの保存先の分散

バックアップの設定を編集するときにバックアップの保存先を変更して、バックアップのバージョンをそれぞれ別の場所に保存することができます。たとえば、最初の完全バックアップを外付けの USB ハー

ドドライブに保存した後に、バックアップの設定を編集して、バックアップの保存先を USB スティックに変更することができます。

注意

バックアップを光学ディスクに継続して実行することはできません。

バックアップをその場で分割する

現在のバックアップ操作を完了するための十分な空き領域が宛先ストレージ (CD-R/RW または DVD-R/RW) がない場合、警告メッセージが表示されます。

バックアップを完了するには、以下のいずれかを実行します。

- ディスク上の領域の一部を解放して、**[再試行]** をクリックします。
- **[参照]** をクリックし、別のストレージデバイスを選択します。
- **[フォーマット]** をクリックし、ディスク上のすべてのデータを消去してから、バックアップ操作に進みます。

バックアップのバージョンが別の場所に保存されている場合は、復元時にそれらの場所を指定しなければならないことがあります。

既存のバックアップをリストに追加する

Acronis True Image OEM バックアップを過去の製品バージョンで作成したり、他のコンピュータからコピーしたりした場合、Acronis True Image OEM を起動するたびに、コンピュータでこのようなバックアップがスキャンされ、自動的にバックアップの一覧に追加されます。

リストに表示されないバックアップについては、手動で追加することができます。

バックアップを手動で追加するには、次のようにします。

1. **[バックアップ]** セクションで、バックアップリストの下部にある矢印アイコンをクリックし、**[既存のバックアップを追加]** をクリックします。ウィンドウが開き、コンピュータ上に存在するバックアップを参照できます。
2. バックアップバージョン (.tib ファイル) を選択し、**[追加]** をクリックします。バックアップ全体がリストに追加されます。

バックアップとバックアップバージョンのクリーンアップ

不要になったバックアップとバックアップバージョンを削除するには、Acronis True Image OEM が提供するツールを使用します。

Acronis True Image OEM は、バックアップに関する情報をメタデータ情報データベースに保存します。そのため、不要なバックアップファイルを File Explorer で削除しても、バックアップに関する情報はデータベースから削除されません。その結果、既に存在していないバックアップに対してもプログラムが処理を実行しようとして、エラーが発生します。

バックアップ全体を削除する

[バックアップ] セクションで、削除対象バックアップの横にある下矢印アイコンをクリックし、[削除] をクリックします。

バックアップの種類に応じて、このコマンドではバックアップをそのロケーションから完全に削除する場合があります。バックアップを完全に（すべてのファイルとともに）削除するか、リストだけから削除するかを選択できる場合もあります。表示されたリストからバックアップを削除すると、バックアップファイルはそのロケーションに残り、後でバックアップをリストに追加することができます。バックアップを完全に削除した場合、削除を元に戻すことはできません。

バックアップバージョンの自動クリーンアップ

1. [バックアップ] セクションに移動します。
2. バックアップの一覧から、レプリカバージョンのクリーンアップの対象となるバックアップを選択して、[オプション] をクリックします。
3. [バックアップスキーム] タブで [カスタムスキーム] を選択します。バックアップの種類を選択して [自動クリーンアップをオンにする] をクリックします。
4. バックアップのクリーンアップルールを設定します。
詳細については、「[カスタムスキーム](#)」を参照してください。

バックアップバージョンの手動でのクリーンアップ

不要になったバックアップバージョンを削除する場合は、アプリケーションに用意されているツールを使用してください。たとえば、エクスプローラーを使用して Acronis True Image OEM の外部でバックアップバージョンファイルを削除すると、バックアップに対する操作でエラーが発生します。

次のバックアップのバージョンは手動では削除できません。

- CD、DVD、BD、Acronis Secure Zone に保存されているバックアップ。
- ノンストップバックアップ。
- 認証バックアップ。

特定のバックアップバージョンをクリーンアップする手順は、次のとおりです。

1. Acronis True Image OEM を開始します。
2. [バックアップ] セクションで、クリーンアップするバックアップの横にある下矢印アイコンをクリックし、[Clean up versions] をクリックします。
これにより、[Clean up backup versions] ウィンドウが開きます。
3. 必要なバージョンを選択し、[削除] をクリックします。
4. 確認要求で [削除] をクリックします。

クリーンアップ処理が終わるまで待ちます。クリーンアップ後、いくつかの補助的なファイルがストレージに残る場合があります。それらを削除しないでください。

依存するバージョンがあるバージョンのクリーンアップ

削除するバックアップバージョンを選択するときには、削除するバージョンに依存するバージョンが存在する可能性があることに注意してください。この場合、削除するバージョンからのデータの復元は不可能になるため、依存するバージョンも削除するものとして選択されます。

- **完全バックアップを選択した場合:** 次の完全バージョンまでの、依存するすべての差分バージョンと増分バージョンも選択されます。つまり、バックアップバージョンチェーン全体が削除されます。
- **差分バックアップを選択した場合:** バックアップバージョンチェーン内の依存するすべての増分バージョンも選択されます。
- **増分バックアップを選択した場合:** バックアップバージョンチェーン内の依存するすべての増分バージョンも選択されます。

参照

[完全バックアップ](#)、[増分バックアップ](#)、[差分バックアップ](#)。

データの復元

ディスクとパーティションのリカバリ

クラッシュ後のシステムの復元

コンピュータが起動に失敗した場合、「[クラッシュの原因を特定する](#)」で説明されているヒントを参考に、まず原因を特定することをおすすめします。クラッシュがオペレーティングシステムの破損によって発生した場合は、バックアップを使用してシステムを復元します。「[リカバリの準備](#)」を参照して準備を完了し、システム復元の手順に進みます。

異常停止の原因を特定する

システムが異常停止する原因には、2つの基本的な要因があります。

- **ハードウェア障害**

この場合は、ハードウェア メーカーのサービス センターに問い合わせることをお勧めします。その前に、いくつかの検査を実行することもできます。ケーブル、コネクタ、外付けデバイスの電源などを確認します。その後、コンピュータを再起動してください。ハードウェアに問題がある場合は、Power-On Self Test (POST) を通じて障害が通知されます。

POSTによってハードウェア障害が見つからなかった場合、BIOSを開始して、システムのハードディスクドライブが認識されているかどうかを確認します。BIOSを開始するには、POSTシーケンス中に必要なキーの組み合わせ (**Del** キー、**F1** キー、**Ctrl+Alt+Esc** キー、**Ctrl+Esc** キーなど。ご使用の BIOSによります) を押します。通常は起動テスト中に、必要なキーの組み合わせを示すメッセージが表示されます。このキーの組み合わせを押すと、セットアップメニューが表示されます。ハードディスク自動検出ユーティリティを選択します。通常は、「Standard CMOS Setup」または「Advanced CMOS setup」の下に表示されています。ユーティリティによってシステムドライブが検出されなかった場合、システムドライブに障害が発生しているため、ドライブを交換する必要があります。

- **オペレーティングシステムの損傷 (Windowsを起動できない場合)**

POSTによって、システムのハードディスクドライブが正常に検出された場合、異常停止の原因は、ウイルス、マルウェア、または起動に必要なシステムファイルの破損が考えられます。この場合は、システムディスクまたはシステムパーティションのバックアップを使用してシステムをリカバリしてください。詳細については、「[システムの復元](#)」を参照してください。

リカバリの準備

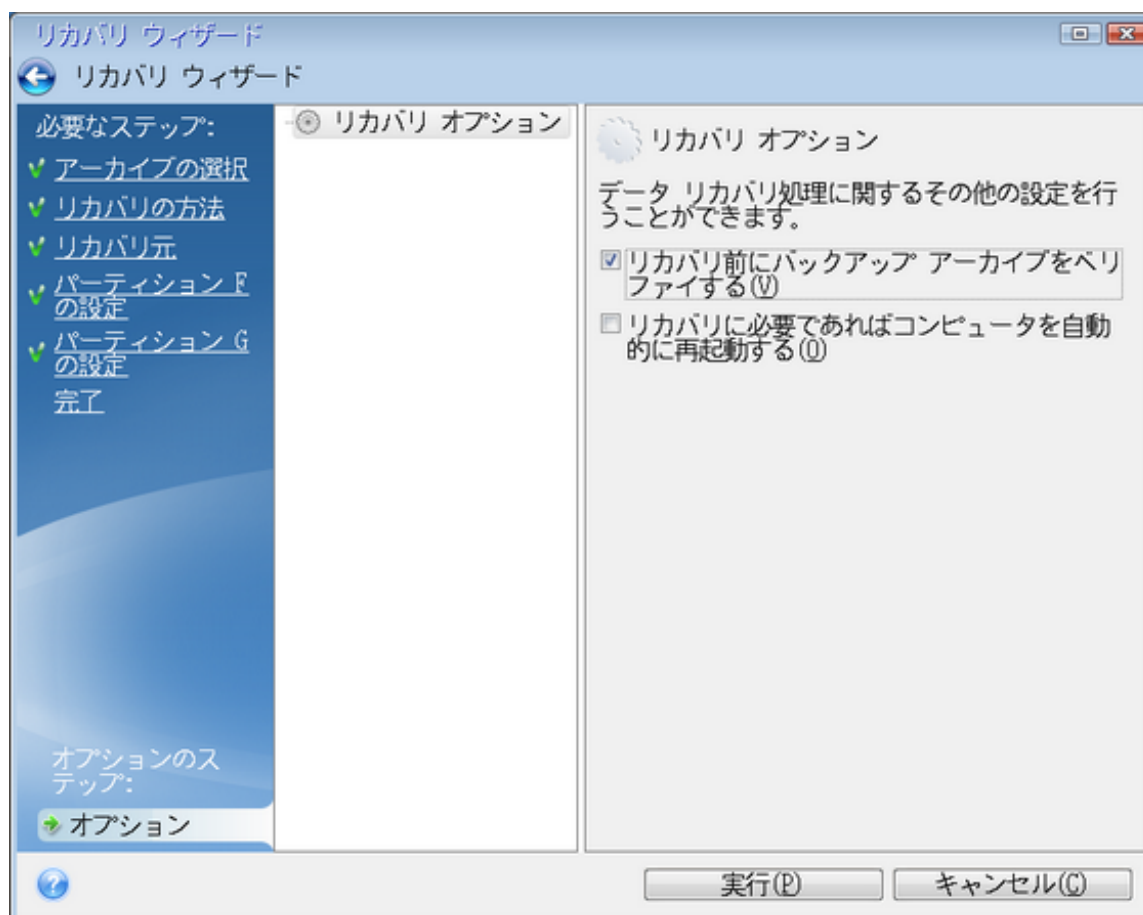
リカバリの前に以下の操作を実行することをお勧めします。

- ウィルスまたはマルウェア攻撃のためにクラッシュが発生したことが疑われる場合、コンピュータがウイルスに感染しているかどうかスキャンします。
- ブータブルメディアの配下に予備のハードドライブがある場合、予備のハードドライブへの復元テストを試みます。

- ブータブルメディアの配下でイメージをベリファイします。Windowsでのベリファイ中に読み取ることのできるバックアップは、**Linux環境でも常に読み取れるとは限りません。**

ブータブルメディアでは、バックアップをベリファイする方法が2つあります。

- バックアップを手動でベリファイするには、[リカバリ] タブでバックアップを右クリックし、[ベリファイ] を選択します。
- リカバリの前に自動的にバックアップをベリファイするには、**リカバリ ウィザード**の [オプション] 手順で、[リカバリ前にバックアップ アーカイブをベリファイする] チェック ボックスをオンにします。



- ハードドライブのすべてのパーティションに一意的な名前（ラベル）を割り当てます。これにより、バックアップを含むディスクを見つけることが容易になります。
ブータブルメディアを使用すると、Windows でのドライブの識別方法とは異なるディスクドライブ文字が作成されることがあります。たとえば、ブータブルメディアでの D: ディスクが、Windows の E: ディスクに対応していることもあります。

同じディスクへのシステムのリカバリ

始める前に、「**リカバリの準備**」で説明している手順を実行することをお勧めします。

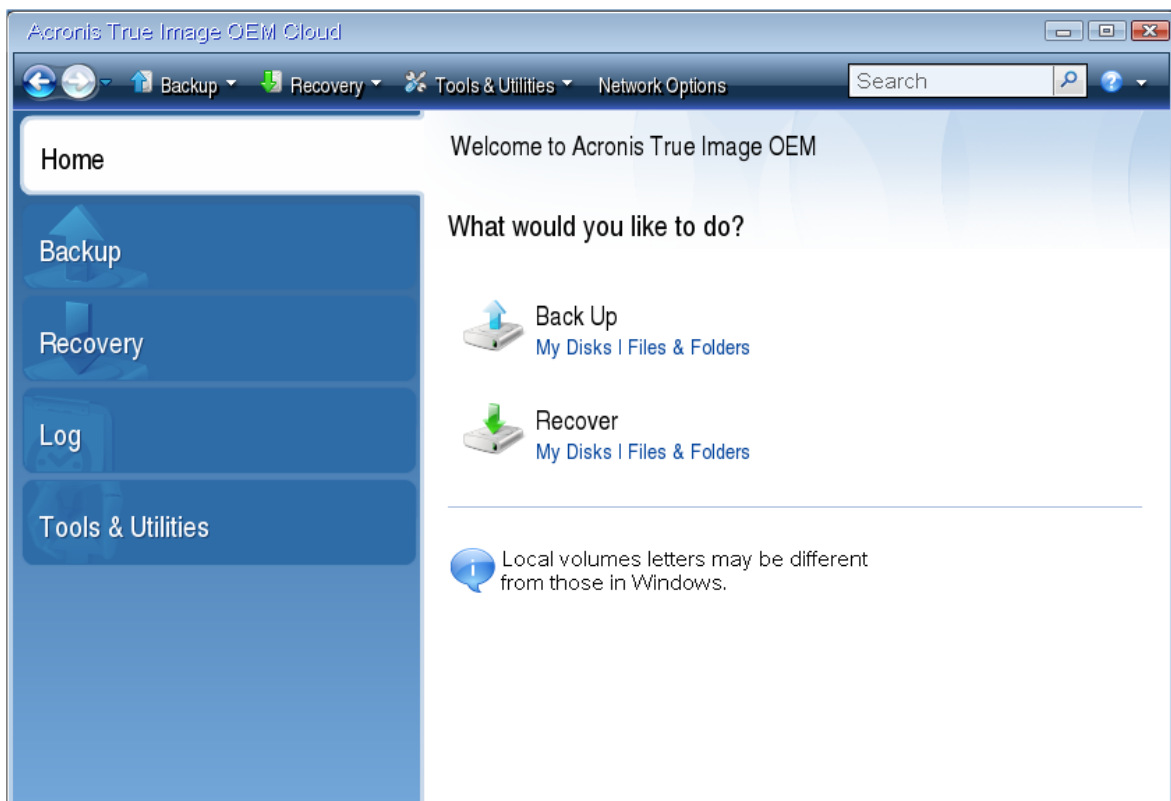
システムをリカバリするには、次の手順を実行します。

1. リカバリに使用するバックアップが外部ドライブに格納されている場合は、その外部ドライブを接続して電源を入れます。

2. BIOS で起動順序を設定して、Acronis ブータブルメディア（CD、DVD、または USB ドライブ）を最初の起動デバイスにします。「[BIOSまたはUEFI BIOSでの起動順の並べ替え](#)」を参照してください。

UEFI コンピュータを使用する場合、UEFI BIOS のブータブルメディアの起動モードに注意してください。起動モードはバックアップのシステムの種類と一致するようにしてください。バックアップに BIOS システムが含まれている場合は BIOS モードでブータブルメディアを起動してください。システムが UEFI の場合は、UEFI モードが設定されていることを確認してください。

3. Acronis ブータブルメディア から起動して、**[Acronis True Image OEM]** を選択します。
4. **[ホーム]** 画面で、**[リカバリ]** の下にある **[マイディスク]** を選択します。

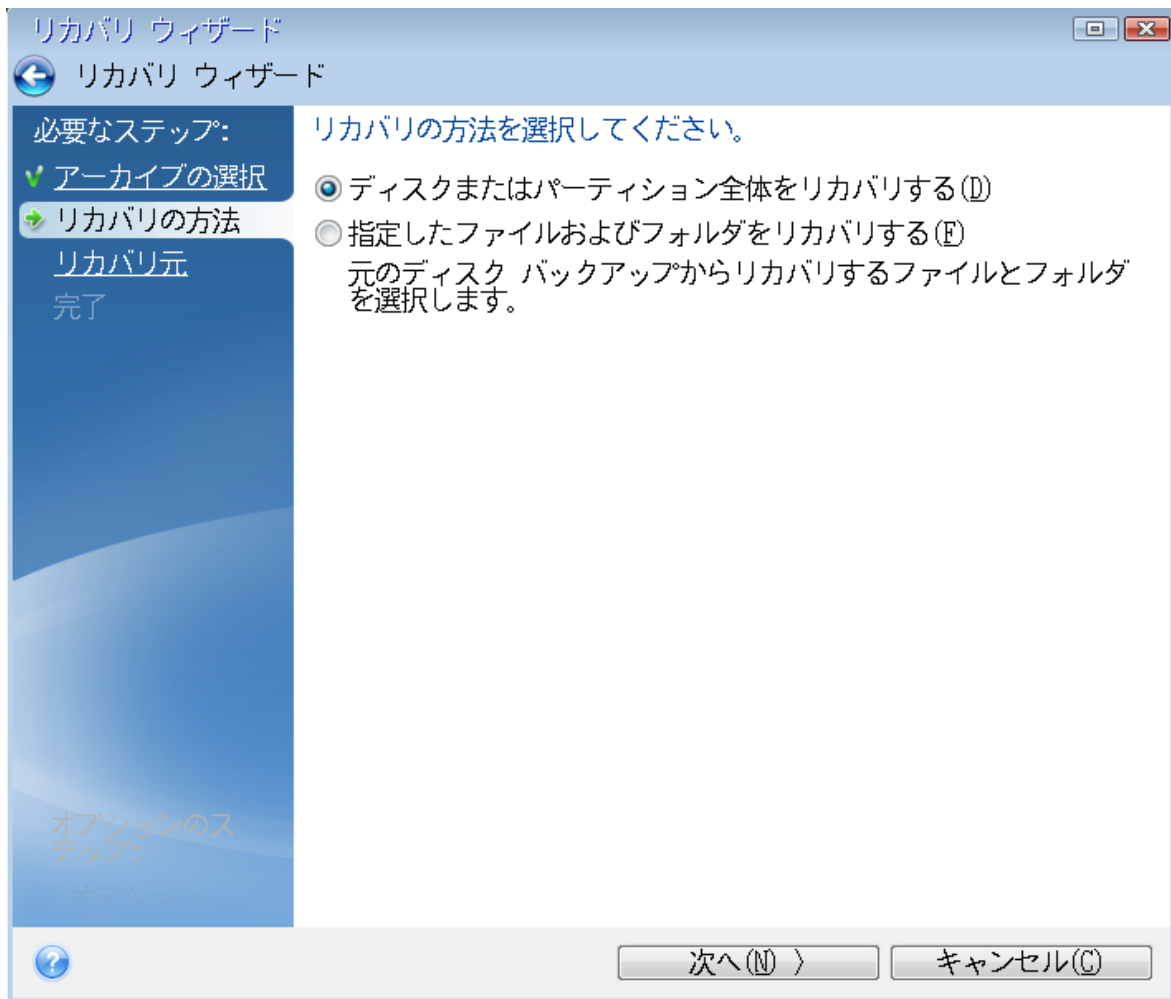


5. リカバリに使用するシステムディスクまたはパーティションバックアップを選択します。バックアップが表示されない場合には、**[参照]** をクリックし、バックアップのパスを手動で指定します。

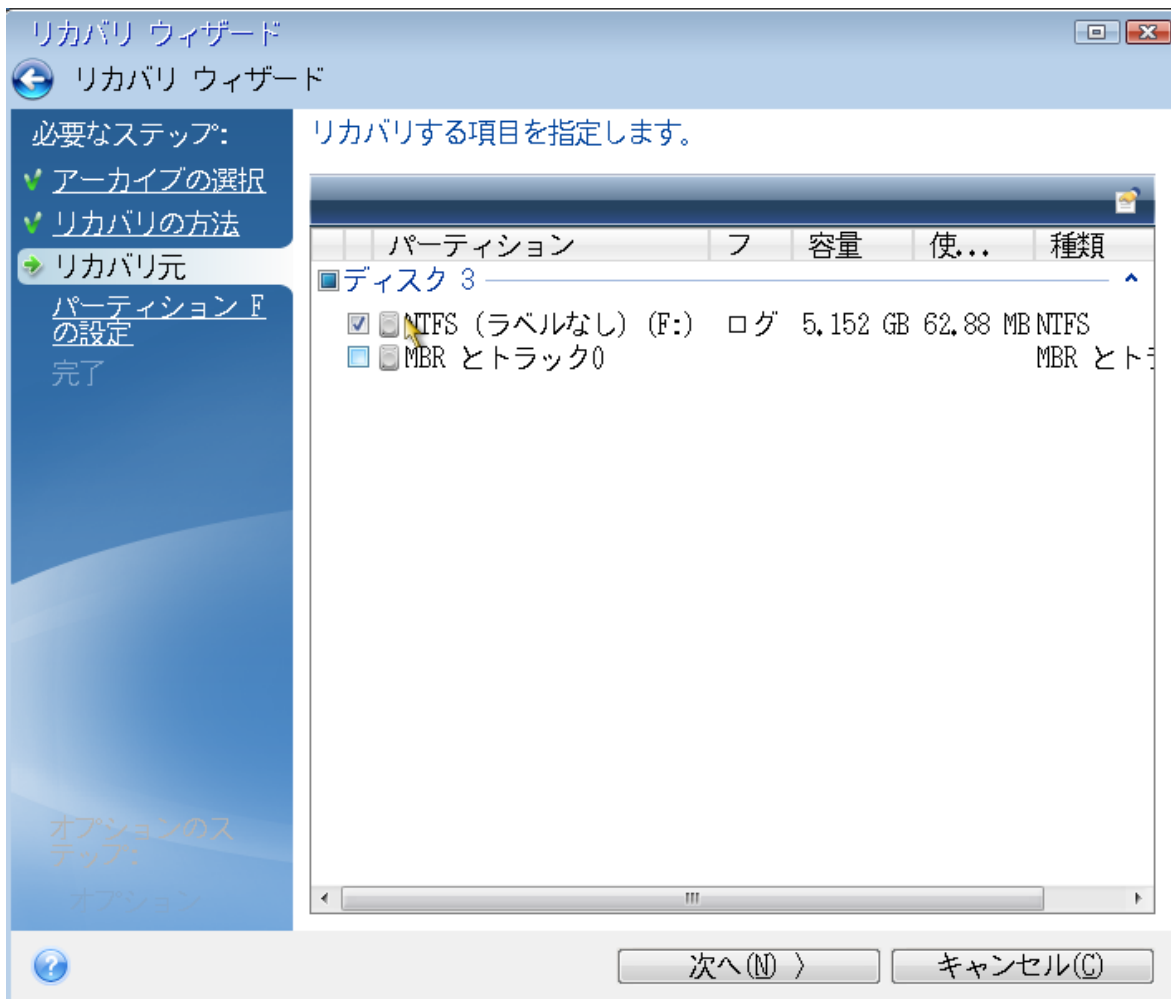
注意

バックアップが USB ドライブにあり、ドライブが正しく認識されない場合は、USB ポートのバージョンを確認してください。バージョンが USB 3.0 または USB 3.1 の場合は、ドライブを USB 2.0 ポートに接続し直してください。

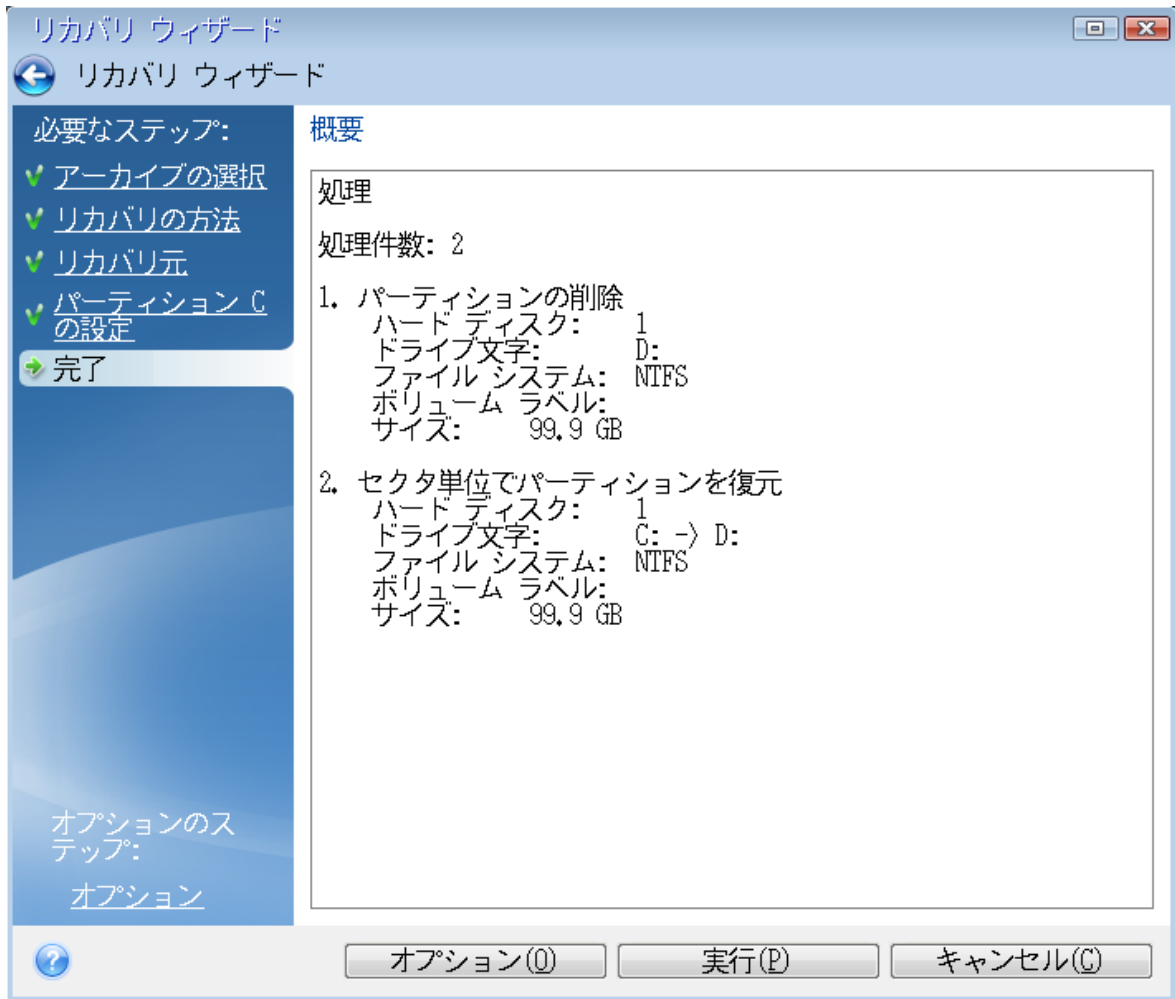
6. **[リカバリの方法]** ステップで **[ディスクまたはパーティション全体をリカバリする]** を選択します。



7. [オプション] **復元ポイント** ステップで、システムをどの時点の状態に復元するか、日時を選択します。
8. **[リカバリ元]** 画面で、システム パーティション（通常は C）を選択します。システム パーティションの文字が異なる場合は、**[フラグ]** 列を使用してパーティションを選択します。**[プライマリ]** および **[アクティブ]** フラグが設定されている必要があります。システム予約済みパーティションがある場合には、それも選択します。



9. **パーティション C の設定**（または、異なる場合は実際のシステムパーティションの文字）の手順で、デフォルトの設定を確認し、正しい場合は **[次へ]** をクリックします。正しくない場合は、必要に応じて設定を変更した後、**[次へ]** をクリックします。容量が異なる新しいハードディスクにリカバリする場合は設定を変更する必要があります。
10. **[完了]** の画面で処理の概要を確認します。パーティションのサイズを変更していない場合は、**[パーティションの削除]** 項目と **[パーティションのリカバリ]** 項目のサイズが一致している必要があります。概要を確認して、**[実行]** をクリックします。



11. 処理が終了したら、Acronis True Image OEM のスタンドアロン版を終了し、Acronis ブータブルメディアを取り出して、リカバリされたシステムパーティションから起動します。必要な状態まで Windows をリカバリしたことを確認してから、元の起動順序を復元します。

ブータブルメディア配下の新しいディスクへのシステムのリカバリ

始める前に、「リカバリの準備」で説明している準備作業の実行をおすすめします。新しいディスクのフォーマットは、リカバリ処理の中で実行されるので、実行する必要はありません。

注意

古いハードディスクドライブと新しいハードディスクドライブは同じコントローラーモード（IDE、AHCI など）で動作させることをお勧めします。モードが異なる場合、新しいハードドライブからコンピュータを起動できなくなる可能性があります。

新しいディスクにシステムをリカバリするには、次の手順を実行します。

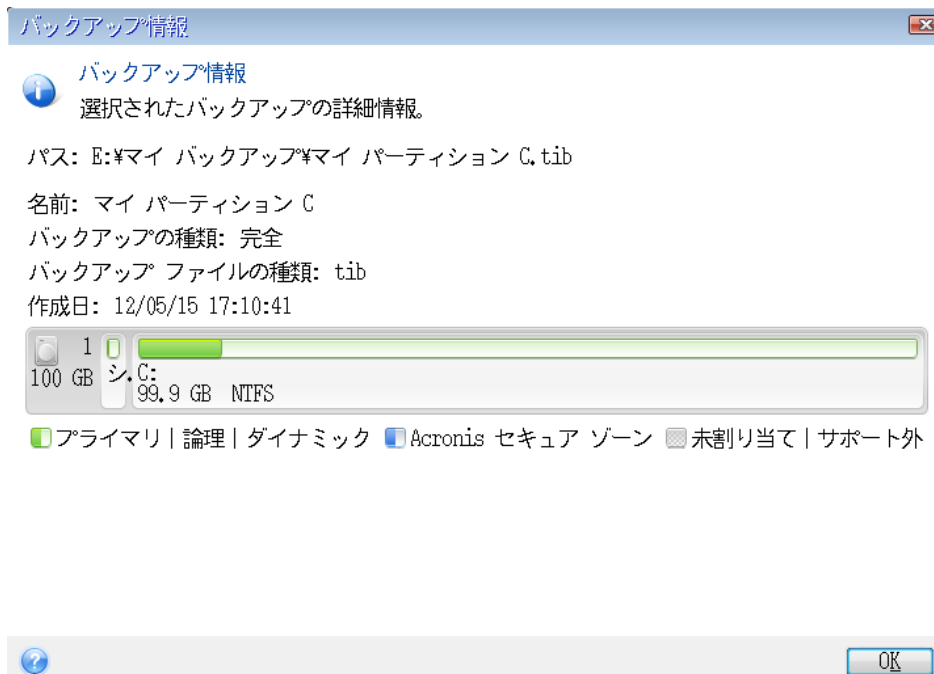
1. 新しいハードディスクドライブはコンピュータ内の同じ場所に取り付け、元のドライブで使用したものと同一ケーブルおよびコネクタを使用します。難しい場合には、新しいドライブを使用する場所に取り付けてください。

2. リカバリに使用するバックアップが外部ドライブに格納されている場合は、その外部ドライブを接続して電源を入れます。
3. BIOS で起動順序を設定して、ブータブルメディア（CD、DVD、または USB スティック）を最初のブートデバイスにします。「[BIOSまたはUEFI BIOSでの起動順の並べ替え](#)」を参照してください。UEFI コンピュータを使用する場合、UEFI BIOS のブータブルメディアの起動モードに注意してください。起動モードはバックアップのシステムの種類と一致するようにしてください。バックアップに BIOSシステムが含まれている場合はBIOSモードでブータブルメディアを起動してください。システムがUEFIの場合は、UEFIモードが設定されていることを確認してください。
4. ブータブルメディアから起動して、**[Acronis True Image OEM]** を選択します。
5. **[ホーム]** 画面で、**[リカバリ]** の下にある **[マイディスク]** を選択します。
6. リカバリに使用するシステムディスクまたはパーティションバックアップを選択します。バックアップが表示されない場合には、**[参照]** をクリックし、バックアップのパスを手動で指定します。

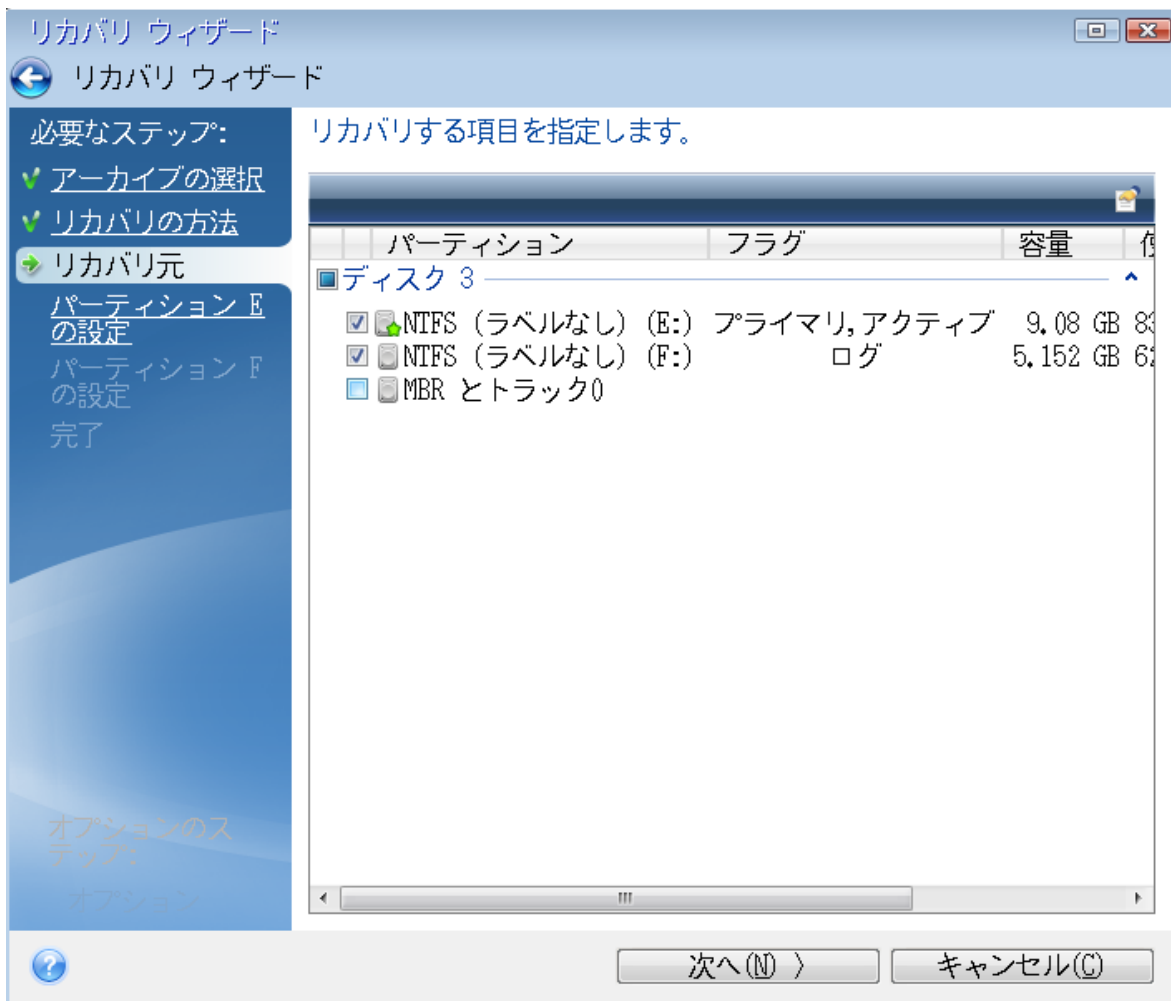
注意

バックアップがUSBドライブにあり、ドライブが正しく認識されない場合は、USBポートのバージョンを確認してください。バージョンがUSB 3.0またはUSB 3.1の場合は、ドライブをUSB 2.0ポートに接続し直してください。

7. 隠しパーティション（システム予約パーティション、PCの製造元が作成した隠しパーティションなど）がある場合は、ウィザードのツールバーの **[詳細]** をクリックします。隠しパーティションの場所とサイズは新しいディスクで同じにする必要があるため、それらのパラメータを控えておいてください。

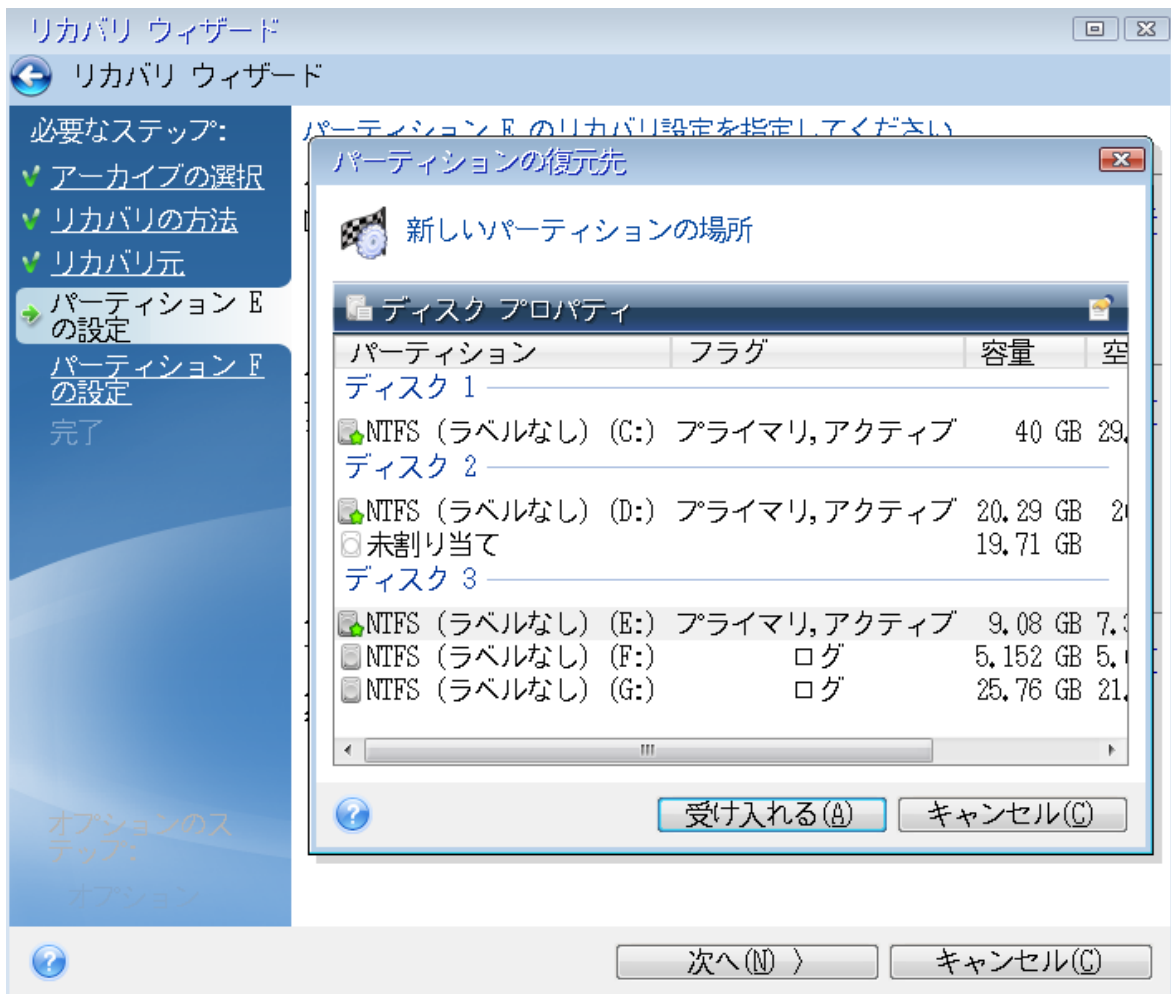


8. **[リカバリの方法]** ステップで **[ディスクまたはパーティション全体をリカバリする]** を選択します。
9. **[リカバリ元]** の手順で、リカバリするパーティションのチェックボックスをオンにします。ディスク全体を選択する場合、ディスクの **[MBRとトラック 0]** も復元されます。

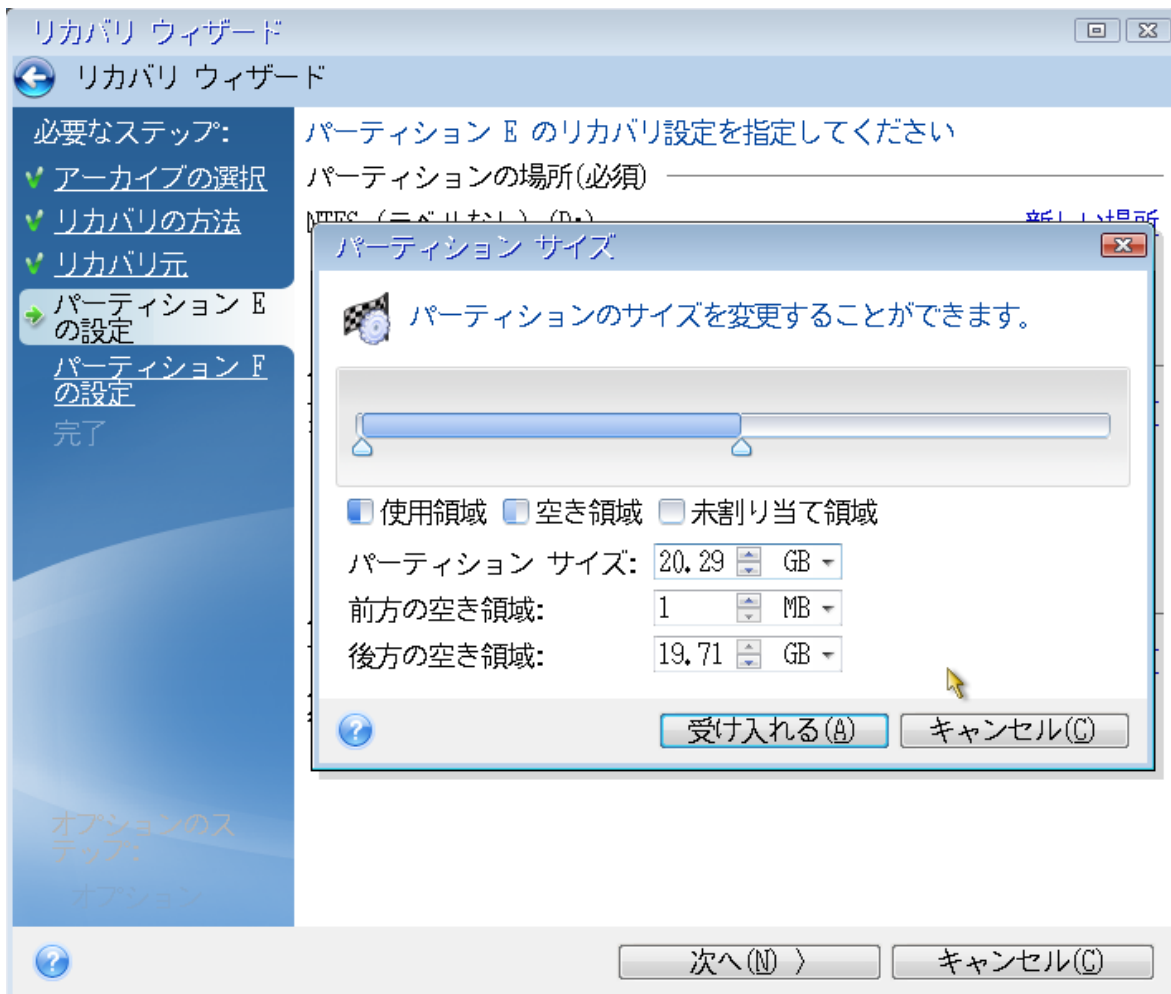


パーティションを選択すると、該当する [パーティションの設定] の手順が表示されます。これらの手順は、ドライブ文字のないパーティション（隠しパーティションには通常、ドライブ文字はありません）から開始します。次に、パーティションのドライブ文字の昇順に進みます。この順序は変更できません。この順序は、ハードディスク上のパーティションの物理的順序とは異なる場合があります。

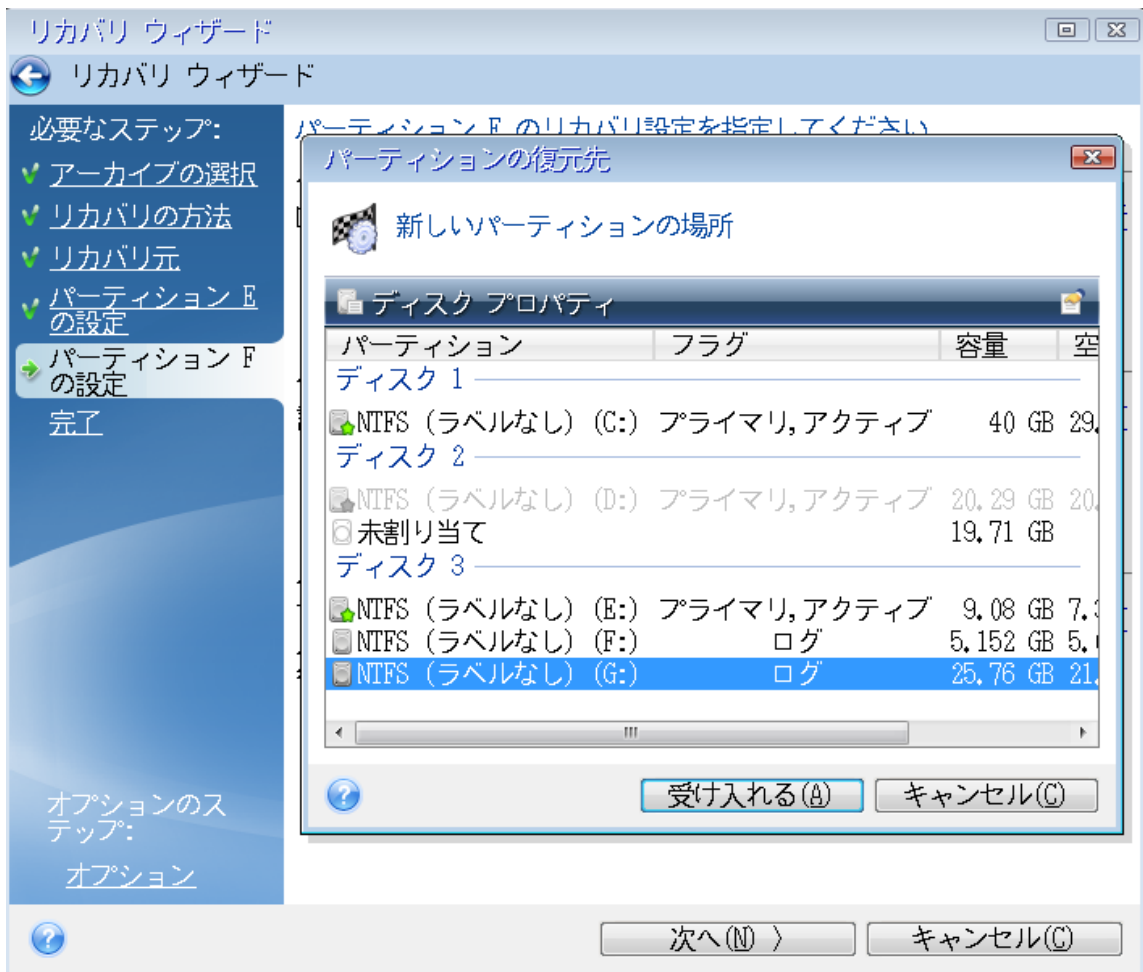
10. 隠しパーティションの設定の手順（通常は「パーティション1-1の設定」という名前）で、次の設定を指定します。
 - **場所** - [新しい場所] をクリックし、割り当てられた名前または容量によって新しいディスクを選択し、[確定] をクリックします。



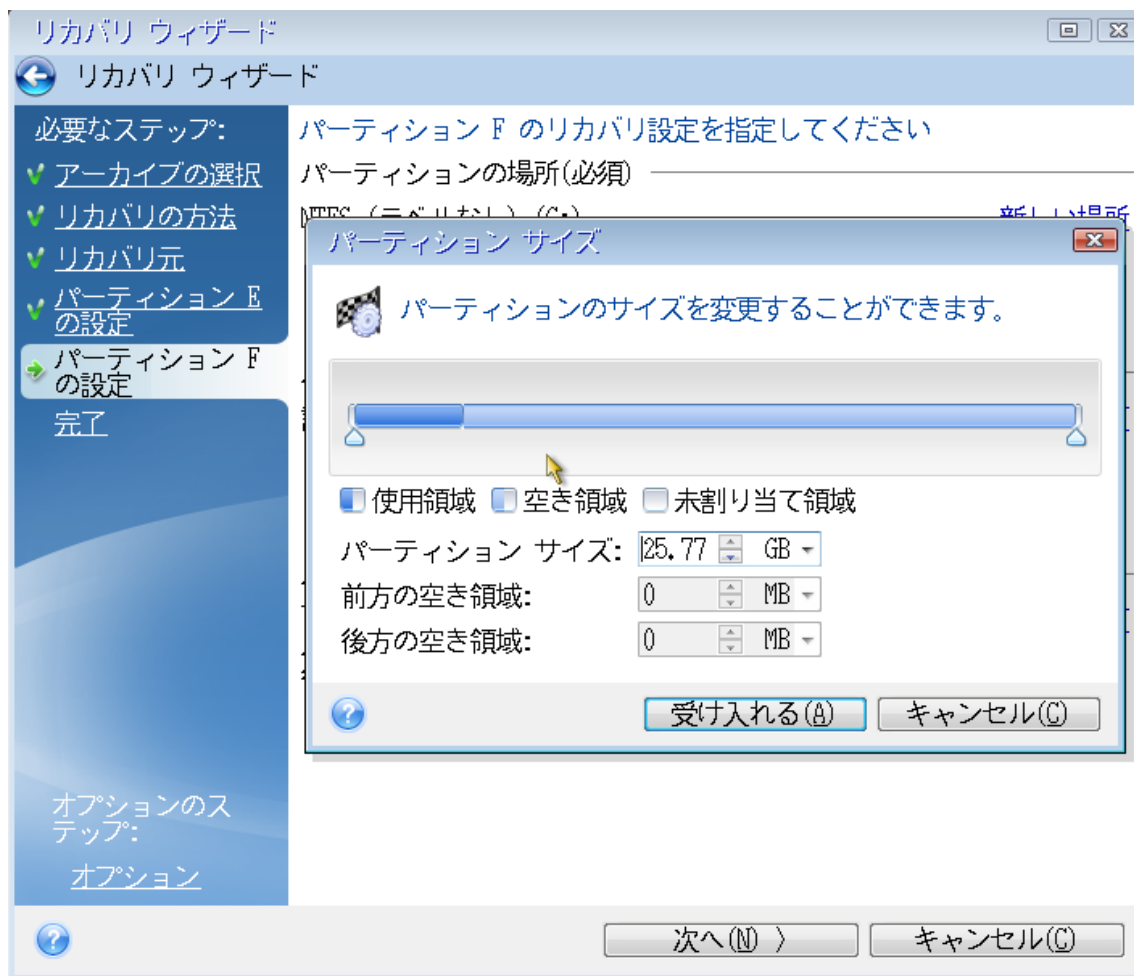
- **種類** - パーティションの種類を確認し、必要に応じて変更します。システム予約済みパーティション（存在する場合）がプライマリパーティションであり、アクティブに設定されていることを確認します。
- **サイズ** - [パーティションサイズ] の領域で [デフォルトを変更] をクリックします。デフォルトでは、新しいディスク全体がパーティションに使用されます。[パーティションサイズ] フィールドに正しいサイズを入力します（この値は [リカバリ元] の手順で確認できます）。次に、必要に応じて、[バックアップ情報] ウィンドウに表示されていた場所と同じ場所に、このパーティションをドラッグします。[確定] をクリックします。



11. [パーティションCの設定] の手順で、2番目のパーティションの設定を指定します。このパーティションは、ここではシステムパーティションです。
 - [新しい場所] をクリックしてから、パーティションを配置するディスク上の未割り当て領域を選択します。



- パーティションの種類を必要に応じて変更します。システムパーティションは、プライマリにする必要があります。
- パーティションのサイズを指定します。デフォルトでは元のサイズと同じです。通常、このパーティションの後ろには空き領域はないため、新しいディスク上の未割り当て領域のすべてを 2 番目のパーティションに割り当てます。**[確定]** をクリックしてから **[次へ]** をクリックします。



12. 実行する処理の概要を注意深く確認して、**[実行]** をクリックします。

リカバリ完了時

コンピューターを起動する前に、古いドライブがあれば取り外してください。Windowsの起動中に新しいドライブと古いドライブの両方が認識された場合、Windowsの起動に問題が生じます。古いドライブを容量の大きい新しいドライブにアップグレードする場合は、初回起動前に古いドライブを取り外してください。

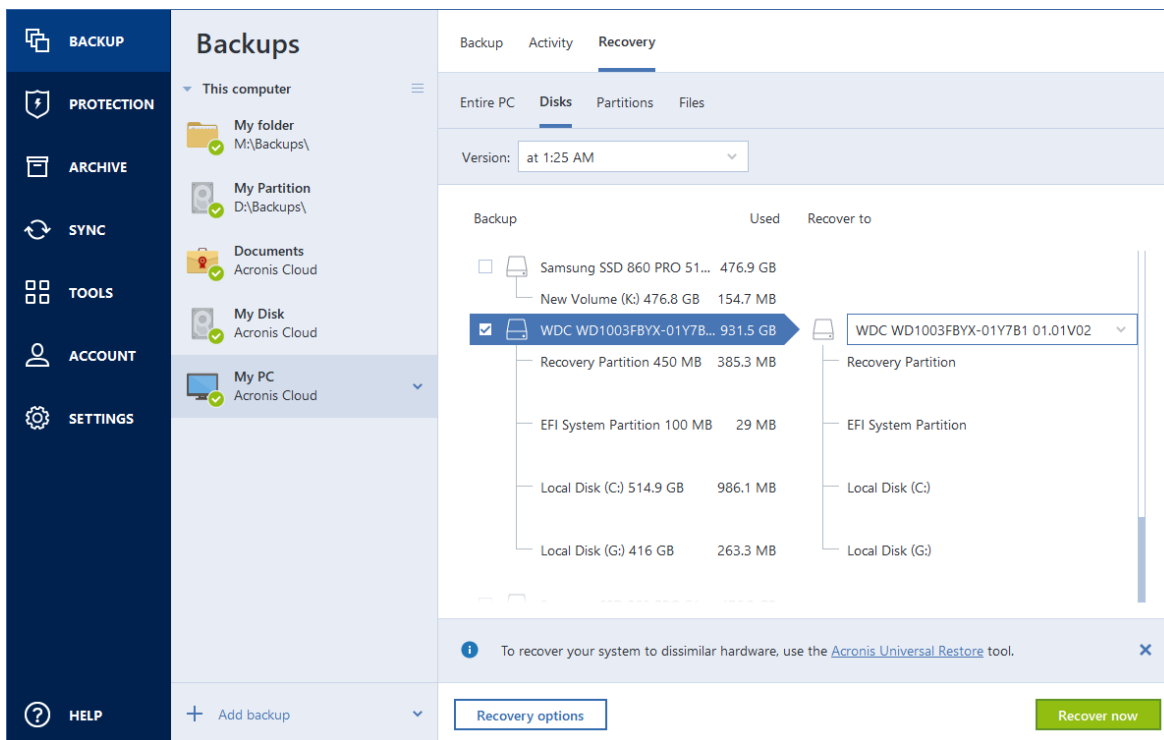
ブータブルメディアを取り外し、コンピューターでWindowsを起動します。新しいハードウェア（ハードドライブ）が見つかったためWindowsを再起動する必要があると表示される場合があります。システムが正常に動作することを確認してから、元の起動順序に戻します。

パーティションとディスクのリカバリ

ローカルストレージまたはネットワークストレージにあるバックアップからディスクを復元することができます。

パーティションやディスクをリカバリする手順は、次のとおりです。

1. Acronis True Image OEM を開始します。
2. [バックアップ] セクションで、リカバリするパーティションまたはディスクが含まれているバックアップを選択し、[リカバリ] タブを開き、[ディスクのリカバリ] をクリックします。
3. [バックアップバージョン] の一覧で、リカバリするバックアップバージョンをバックアップの日付と時刻で選択します。



4. ディスクをリカバリするには [ディスク] タブを選択し、特定のパーティションをリカバリするには [パーティション] タブを選択します。リカバリするオブジェクトを選択します。
5. パーティション名の下にあるリカバリ先のフィールドで、リカバリ先パーティションを選択します。適切でないパーティションは赤い枠線で示されます。リカバリ先のパーティション上のデータは、リカバリされるデータおよびファイルシステムによって置き換えられるため、すべて失われます。

注意

元のパーティションにリカバリする場合、パーティション領域に少なくとも5%の空き領域が必要です。その領域がない場合、[今すぐリカバリ] ボタンは使用できません。

6. (オプション) ディスク リカバリ処理に追加パラメータを設定する場合には、[復元オプション] をクリックします。
7. 選択し終わったら、[今すぐリカバリ] をクリックしてリカバリを開始します。

パーティションのプロパティ

ベーシックディスクにパーティションを復元するときに、パーティションのプロパティを変更できます。[パーティションのプロパティ] ウィンドウを開くには、復元先のパーティションの横にある [プロパティ] をクリックします。

パーティションの管理
✕

ドライブ文字	ラベル	種類
<input type="text" value=""/>	<input type="text" value="New Volume"/>	<input type="text" value="プライマリ"/>

使用中: **1.2GB** パーティションサイズ:

未割り当て領域

i Acronis Disk Directorを使用して、未割り当ての領域にパーティションを作成できます。
[Acronis Disk Directorの詳細](#)

以下のパーティションプロパティを変更できます。

- **文字**
- **ラベル**
- **種類**

パーティションをプライマリ、プライマリアクティブ、論理にすることができます。

- **サイズ**

パーティションのサイズを変更するには、画面の水平バー上でマウスを使用して右の境界をドラッグします。パーティションに特定のサイズを割り当てるには、**[合計サイズ]** フィールドに適切な数字を入力します。未割り当て領域の位置をパーティションの前後で選択することもできます。

ダイナミック/GPTディスクおよびボリュームの復元について

ダイナミックボリュームの復元

ローカルハードドライブの次のロケーションへダイナミックボリュームを復元することができます。

• ダイナミックボリューム

注意

ダイナミックディスクに復元する際に、手動でダイナミックボリュームのサイズを変更することはサポートされていません。リカバリ中にダイナミックボリュームのサイズを変更する必要がある場合は、ベーシックディスクに復元する必要があります。

- **元の場所（同じダイナミックボリュームへ）**
ターゲットボリュームの種類は変更されません。
- **別のダイナミックディスクまたはボリューム**
ターゲットボリュームの種類は変更されません。たとえば、ダイナミックストライプボリュームをダイナミックスパンボリュームに復元すると、ターゲットボリュームはスパンのままです。
- **ダイナミックグループの未割り当て領域**
リカバリしたボリュームの種類は、バックアップでの種類と同じになります。
- **ベーシックボリュームまたはディスク**
ターゲットボリュームはベーシックのままです。
- **ベアメタルリカバリ**
ダイナミックボリュームを新しい未フォーマットディスクに「ベアメタルリカバリ」を行うと、復元されたボリュームはベーシックになります。復元されたボリュームをダイナミックのままにしておきたい場合は、ターゲットディスクをダイナミックとして準備（パーティションが設定され、フォーマットされている）する必要があります。これは、Windows ディスク管理スナップインなどの、サードパーティのツールを使用して行うことができます。

ベーシックボリュームおよびディスクの復元

- ベーシックボリュームをダイナミックグループの未割り当て領域に復元すると、復元されたボリュームはダイナミックになります。
- ベーシックディスクを2つのディスクから構成されるダイナミックグループのダイナミックディスクに復元すると、復元されたディスクはベーシックのままです。リカバリの実行先のダイナミックディスクは「見つからない」状態となり、2つ目のディスク上のスパン/ストライプダイナミックボリュームは「エラー」になります。

リカバリ後のパーティションのスタイル

ターゲットディスクのパーティションのスタイルは、ご使用のコンピュータがUEFIをサポートしているかどうか、およびシステムがBIOS起動であるか、UEFI起動であるかどうかによって異なります。以下の表を参照してください。

	システムは BIOS 起動である (Windows または Acronis ブータブルメディア)	システムは UEFI 起動である (Windows または Acronis ブータブルメディア)
ソースディスクは MBR であ	この処理は、パーティションレイアウトにもディスクのブータビリティにも影響しません。	処理完了後、パーティションスタイルは GPTに変換されます。お使いのオペレー

	システムは BIOS 起動である (Windows または Acronis ブータブルメディア)	システムは UEFI 起動である (Windows または Acronis ブータブルメディア)
り、OS は UEFI をサポートしていない	パーティションスタイルはMBRのままとなり、ターゲットディスクはBIOS起動が可能となります。	ティングシステムではサポートされていないため、UEFI起動はできません。
ソースディスクはMBRであり、OSはUEFIをサポートしている	この処理は、パーティションレイアウトにもディスクのブータビリティにも影響しません。パーティションスタイルはMBRのままとなり、ターゲットディスクはBIOS起動が可能となります。	ターゲットのパーティションがGPTスタイルに変換され、ターゲットディスクのUEFI起動が可能になります。「 UEFIシステムへの復元の例 」を参照してください。
ソースディスクはGPTであり、OSはUEFIをサポートしている	処理完了後、パーティションスタイルはGPTのままとなります。お使いのオペレーティングシステムはGPTからのBIOS起動をサポートしていないため、システムはBIOSから起動できなくなります。	処理完了後、パーティションスタイルはGPTのままとなり、オペレーティングシステムはUEFI起動が可能となります。

UEFIシステムへの復元の例

次に、以下の条件でシステムを転送する例を挙げます。

- ソースディスクはMBRであり、OSはUEFIをサポートしている。
- ターゲットシステムはUEFI起動である。
- 古いハードディスクドライブと新しいハードディスクドライブは同じコントローラモード (IDE、AHCIなど) で動作する。

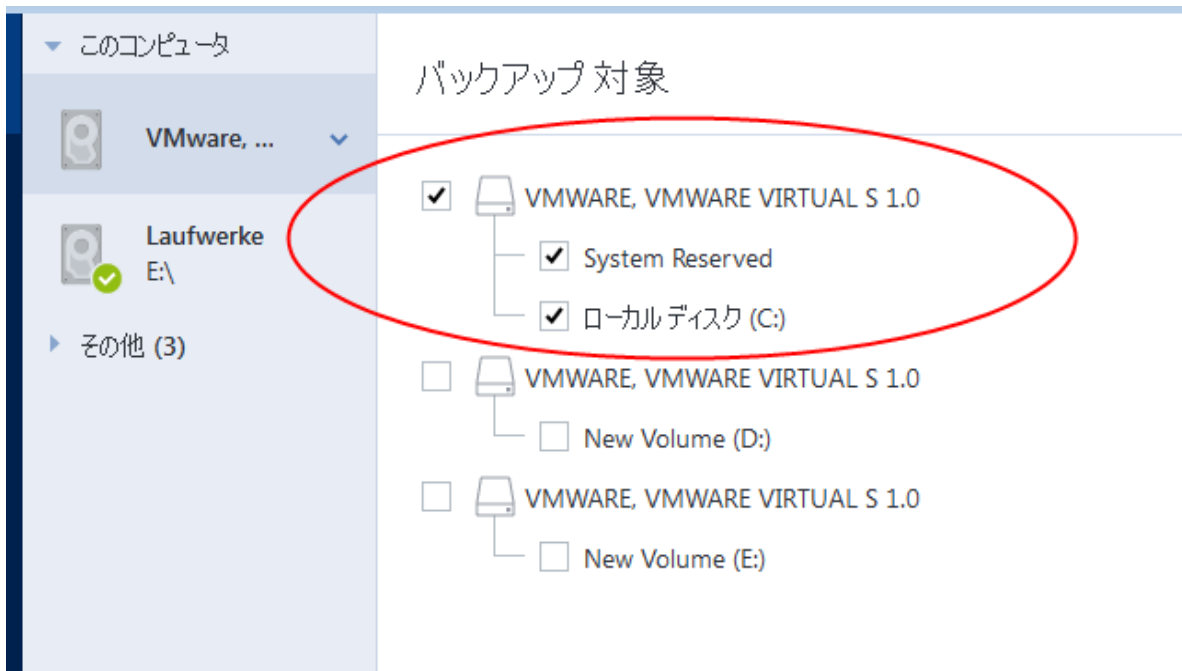
手順を開始する前に、以下があることを確認してください。

- **Acronis ブータブルメディア.**

詳細については、[Acronis ブータブルメディア の作成](#)を参照してください。

- **ディスクモードで作成されたシステムディスクのバックアップ**

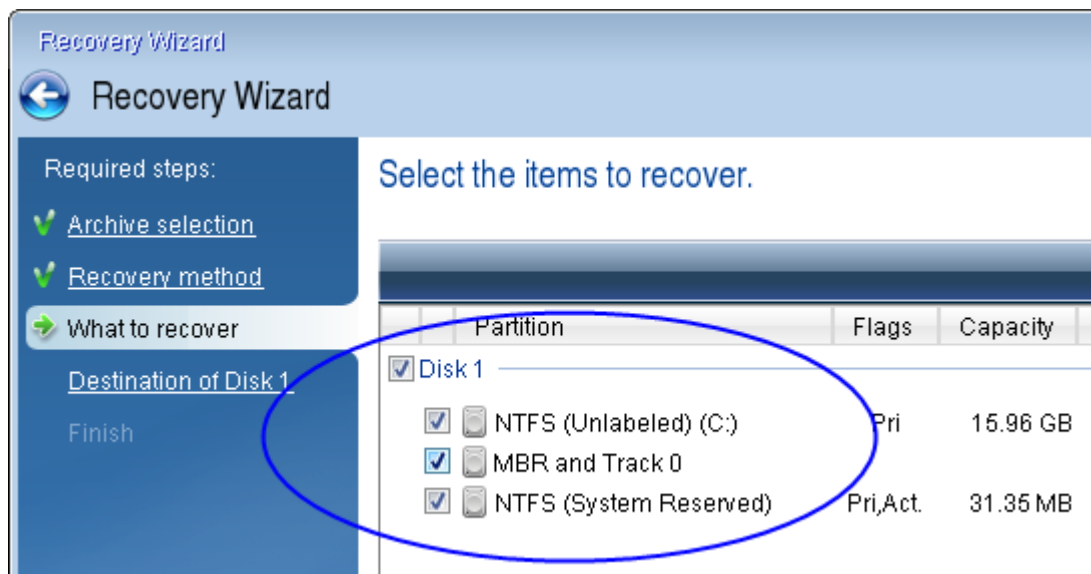
このバックアップを作成するには、ディスクモードに切り替えてから、システムパーティションがあるハードドライブを選択します。詳細については、「[ディスクとパーティションのバックアップ](#)」を参照してください。



MBR ディスクから UEFI 起動のコンピューターにシステムを転送するには、次の手順を実行します。

1. UEFI モードで Acronis ブータブルメディア から起動して、[Acronis True Image OEM] を選択します。
2. リカバリウィザードを実行して、「システムの復元」で説明されている手順を実行します。
3. [復元元] で、ディスク名の横にあるチェックボックスをオンにして、システムディスク全体を選択します。

下の例では、[ディスク1] のチェックボックスをオンにします。



4. [完了] で、[実行] をクリックします。

操作が完了すると、復元先ディスクはGPTスタイルに変換されて、UEFIモードで起動できるようになります。

リカバリ後は、UEFI モードでコンピューターを起動してください。システムディスクの起動モードをUEFIのブートマネージャのユーザーインターフェイスで変更する必要がある場合があります。

BIOSまたはUEFI BIOSでの起動順の並べ替え

Acronis ブータブルメディア メディアからコンピューターを起動するためには、そのメディアが最初の起動デバイスとなるように、起動順序を割り当てる必要があります。起動順は、コンピュータのファームウェアインターフェイスに応じて、BIOSかUEFI BIOSで変更されます。手順は、どちらの場合も非常によく似ています。

Acronis ブータブルメディア からブートする手順は、次のとおりです。

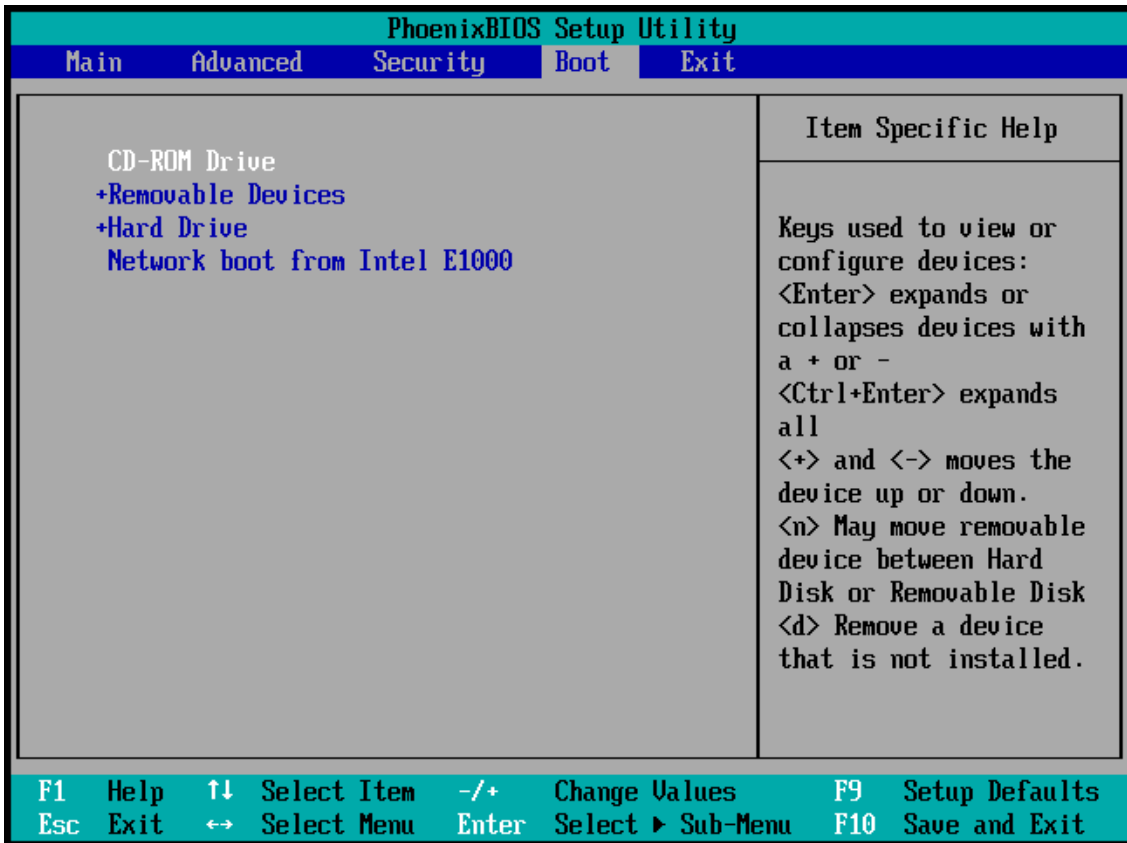
1. USB フラッシュドライブまたは外付けドライブをブータブルメディアとして使用している場合は、USB ポートに接続します。
2. コンピューターの電源を入れます。Power-On Self Test (POST) の実行中、BIOSまたはUEFI BIOSに移るために押す必要があるキーの組み合わせが表示されます。
3. キーの組み合わせを押します（たとえば、**Del**キー、**F1**キー、**Ctrl+Alt+Esc**キー、**Ctrl+Esc**キー）。BIOSまたはUEFI BIOSのセットアップユーティリティが開きます。なお、ユーティリティごとに表示、項目のセット、名称などが異なります。

注意

マザーボードの中には、いわゆるブートメニューが用意されているものもあります。ブートメニューは、特定のキーまたはキーの組み合わせ、たとえば **F12** キーなどを押すと開きます。ブートメニューを使用すれば、BIOSまたはUEFI BIOS設定を変更することなく、ブータブルデバイスのリストからブートデバイスを選択できます。

4. CDまたはDVDをブータブルメディアとして使用している場合は、CDまたはDVDをCDドライブまたはDVDドライブに挿入します。
5. ブータブルメディア（CD、DVD、またはUSBドライブ）を最初の起動デバイスにします。
 - a. キーボードの矢印キーを使用してブート順序の設定に移動します。
 - b. ブータブルメディアのデバイスの上にマウスポインタを置き、リスト内の最初の項目にします。

通常は、プラス記号キーとマイナス記号キーを使用して順序を変更できます。



6. BIOSまたはUEFI BIOSを終了して変更内容を保存します。コンピューターが Acronis ブータブルメディア から起動します。

注意

コンピューターが最初のデバイスからの起動に失敗した場合は、起動するまで、2台目以降のデバイスからの起動が試みられます。

ファイルとフォルダのリカバリ

ファイルレベルとディスクレベルのバックアップからファイルやフォルダをリカバリできます。

Acronis True Image OEM でデータを復元する場合は、次のようにします。

1. サイドバーで **[バックアップ]** をクリックします。
2. バックアップの一覧から、リカバリするファイルやフォルダを含むバックアップを選択し、**[復元]** タブを開きます。
3. [オプション] ツールバーの **[バージョン]** ドロップダウンリストで、バックアップの必要な日時を選択します。デフォルトでは、最新のバックアップが復元されます。
4. 復元するファイルまたはフォルダに対応するチェックボックスを選択し、**[次へ]** をクリックします。
5. [オプション] デフォルトで、データは元のロケーションに復元されます。変更するには、ツールバーの **[参照]** をクリックしてから、必要な宛先フォルダを選択します。

6. [オプション] リカバリ処理のオプション（リカバリ処理の優先度、ファイルレベルのセキュリティ設定など）を設定します。オプションを設定するには、**[復元オプション]** をクリックします。ここで設定するオプションは、現在のリカバリ処理にのみ適用されます。
7. リカバリ処理を開始するには、**[今すぐリカバリする]** ボタンをクリックします。
 選択されたファイルバージョンは指定された宛先にダウンロードされます。
[キャンセル] をクリックすると、リカバリは中止されます。なお、リカバリを中止してもリカバリ先のフォルダが変更される場合があります。

注意

複数のファイルとフォルダを選択した場合は、それらが zip アーカイブに格納されます。

バックアップの内容の検索

ローカルバックアップからデータを復元する際、選択したバックアップ内に保存された特定のファイルやフォルダを検索できます。

ファイルやフォルダを検索する手順は、次のとおりです。

1. 「パーティションとディスクのリカバリ」または「ファイルとフォルダのリカバリ」の説明に従ってデータの復元を開始します。
2. 復元するファイルやフォルダを選択する際、**[検索]** フィールドにファイル名またはフォルダ名を入力します。検索結果が表示されます。

一般的なWindowsのワイルドカード文字（*および?）も使用できます。たとえば、拡張子が「.exe」のファイルを検索するには、「*.exe」と入力します。「my」で始まる5文字のファイル名が付いた「.exe」ファイルをすべて検索するには、「my???.exe」と入力します。

The screenshot shows the Acronis Backup software interface. On the left is a navigation pane with icons for Backup, Protection, Archiving, Synchronization, Tools, Account, and Settings. The main window is titled 'バックアップ' (Backup) and shows a tree view of backup locations. The selected location is 'My folder' (M:\Backups\). The search results pane on the right shows a search for '*.png' files. The results are displayed in a table with columns for Name, Path, Version, Type, and Date.

名前	パス	バージョン	種類	日付
<input type="checkbox"/> My image 1.p...	D:\My folder	2:33	PNG File	2020/07/14
<input type="checkbox"/> My image 2.p...	D:\My folder	2:33	PNG File	2020/07/14
<input type="checkbox"/> My image 3.p...	D:\My folder	2:33	PNG File	2020/07/14
<input type="checkbox"/> My image 4.p...	D:\My folder	2:33	PNG File	2020/07/14
<input type="checkbox"/> My image 5.p...	D:\My folder	2:33	PNG File	2020/07/14
<input type="checkbox"/> My image 9.p...	D:\My folder	2:33	PNG File	2020/07/14

3. デフォルトでは、Acronis True Image OEM は前の手順で選択したフォルダを検索します。バックアップ全体を検索対象にするには、下矢印をクリックして、**[すべてのバックアップ]** をクリックします。

前の手順に戻るには、検索テキストを削除して、クロスアイコンをクリックします。

4. 検索完了後、復元するファイルを選択したら、**[次へ]** をクリックします。

注意

[バージョン] 項目に注意してください。異なるバックアップバージョンに属するファイルやフォルダを同時に復元することはできません。

リカバリ オプション

ディスク/パーティションやファイル リカバリ処理のオプションを設定できます。アプリケーションをインストールすると、すべてのオプションは初期値に設定されます。それらのオプションは、現在のリカバリ処理用のみに、または、その後のすべてのリカバリ処理用に変更できます。**[設定をデフォルトとして保存する]** チェックボックスをオンにすると、変更した設定が今後のリカバリ作業すべてにデフォルトで適用されます。

ディスク リカバリ オプションとファイル リカバリ オプションは完全に独立しており、個別に設定する必要があるので注意してください。

製品のインストール後に変更したオプションをすべて初期値にリセットする場合は、**[初期設定にリセット]** ボタンをクリックします。

ディスクリカバリモード

場所: **[復元オプション]** > **[拡張]** > **[ディスクリカバリモード]**

このオプションを使用して、イメージバックアップのディスクリカバリモードを選択できます。

- **[セクタ単位の復元]** - ディスクまたはパーティションの使用済みセクタと未使用セクタの両方を復元する場合にこのチェックボックスをオンにします。このオプションが有効になるのは、セクタ単位バックアップの復元を選択した場合のみです。

リカバリの前後に実行するコマンド

場所: **[復元オプション]** > **[詳細]** > **[処理の前後に実行するコマンド]**

リカバリ処理の前後に自動的に実行するコマンド（またはバッチファイル）を指定することができます。

たとえば、復元を開始する前に特定のWindowsプロセスを開始/停止することや、リカバリ対象データのウィルスの有無を調べることができます。

コマンド（バッチファイル）を指定する手順は、次のとおりです。

- リカバリ処理の開始前に実行するコマンドを **[処理前に実行するコマンド]** フィールドで選択します。新しいコマンドを作成する、または新しいバッチファイルを選択するには、**[編集]** ボタンをクリック

します。

- リカバリ処理の終了後に実行するコマンドを **[処理後に実行するコマンド]** フィールドで選択します。新しいコマンドを作成する、または新しいバッチファイルを選択するには、**[編集]** ボタンをクリックします。

ユーザーの入力を必要とする対話型のコマンド（pauseなど）は実行しないでください。これらのコマンドは、サポートされていません。

リカバリ用ユーザーコマンドの編集

リカバリの前または後に実行するコマンドを指定することができます。

- **[コマンド]** フィールドにコマンドを入力するか、一覧から選択します。**[...]** をクリックすると、バッチファイルを選択できます。
- **[作業ディレクトリ]** フィールドに、コマンド実行のためのパスを入力するか、入力済みのパスの一覧から選択します。
- **[引数]** フィールドに、コマンド実行引数を入力するか、一覧から選択します。

[コマンドの実行が完了するまで処理を行わない]（デフォルトでは有効）パラメータを無効にすると、コマンド実行と同時にリカバリ処理を実行できます。

[ユーザーコマンドが失敗したら処理を中止する] パラメータを有効にした場合は（デフォルトでは有効）、コマンド実行でエラーが発生すると処理が中止されます。

入力したコマンドをテストするには、**[コマンドのテスト]** ボタンをクリックします。

ベリファイオプション

場所: **[復元オプション]** > **[詳細]** > **[ベリファイ]**

- **[リカバリ前にバックアップをベリファイする]**: リカバリ前にバックアップの整合性を確認するには、このオプションを有効にします。
- **[リカバリ後にファイルシステムをチェックする]**: 復元されたパーティションでファイルシステムの整合性を確認するには、このオプションを有効にします。

注意

確認できるのはFAT16/32およびNTFSファイルシステムのみです。

注意

システムパーティションを元の場所に復元する場合のように、リカバリ中に再起動が必要な場合は、ファイルシステムはチェックされません。

コンピュータの再起動

場所: **[復元オプション]** > **[詳細]** > **[コンピュータの再起動]**

リカバリが必要な場合に自動的にコンピュータを再起動させるには、**[復元に必要であればコンピュータを自動的に再起動する]** チェックボックスをオンにします。このオプションは、オペレーティングシステムによってロックされているパーティションを復元する必要がある場合に使用します。

ファイルリカバリオプション

場所:**[復元オプション]** > **[詳細]** > **[ファイルリカバリオプション]**

次のファイルリカバリオプションを選択できます。

- **[元のセキュリティ設定でファイルを復元する]** - ファイルのセキュリティ設定がバックアップ中に保存された場合、ファイルのセキュリティ設定を復元するか、復元先のフォルダのセキュリティ設定をファイルに継承させるかを選択できます。このオプションは、ファイルまたはフォルダのバックアップからファイルをリカバリする場合にのみ有効です。
- **[リカバリされたファイルに現在の日時を設定する]** - ファイルの日付/時刻をバックアップからリカバリするか、現在の日付/時刻を割り当てるかを選択することができます。デフォルトでは、バックアップの日付と時刻が割り当てられます。

ファイル上書きオプション

ロケーション:**[復元オプション]** > **[詳細]** > **[ファイル上書きオプション]**

バックアップにあるファイルと同じファイル名が復元先フォルダで見つかった場合の処理を選択します。

注意

このオプションは、（ディスクとパーティションではなく）ファイルとフォルダの復元時のみ利用できます。

ハードディスク上のファイルをバックアップのファイルで上書きする場合は、**[既存のファイルを上書きする]** チェックボックスをオンにします。このチェックボックスがオフの場合、バックアップよりも新しいファイルとフォルダはディスク上に保持されます。

一部のファイルは上書きする必要がない場合:

- すべての隠しファイルと隠しフォルダの上書きを無効にするには、**[隠しファイルと隠しフォルダ]** チェックボックスを選択します。このオプションは、ローカルの保存先およびネットワーク共有へのファイルレベルのバックアップで利用できます。
- すべてのシステムファイルとシステムフォルダの上書きを無効にするには、**[システムファイルとシステムフォルダ]** チェックボックスを選択します。このオプションは、ローカルの保存先およびネットワーク共有へのファイルレベルのバックアップで利用できます。
- すべての新しいファイルとフォルダの上書きを無効にするには、**[復元するものよりも新しいファイルとフォルダ]** チェックボックスを選択します。
- 上書きしたくないカスタムファイルとカスタムフォルダの一覧を管理するには、**[特定のファイルやフォルダを追加する]** をクリックします。このオプションは、ローカルの保存先およびネットワーク共有へのファイルレベルのバックアップで利用できます。

- 特定のファイルの上書きを無効にするには、[+] アイコンをクリックして除外条件を作成します。
- 条件の指定には、一般的な Windows のワイルドカード文字を使用できます。たとえば、拡張子 **.exe** を持つすべてのファイルを保護するには、***.exe** を追加します。**My????.exe** を追加すると、「my」で始まり 5 文字で構成される名前が付いた拡張子 **.exe** のファイルがすべて保護されます。

条件を削除するには、目的の条件を選択して [-] アイコンをクリックします。

リカバリ処理のパフォーマンス

場所: **復元オプション** > **拡張** > **パフォーマンス**

次のような設定の構成が可能です。

処理の優先順位

バックアップ処理や復元処理の優先度を変更すると、（優先度の上げ下げによって）バックアップの処理速度を速くしたり遅くしたりできますが、実行中の他のプログラムのパフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性もあります。システムで実行中の処理の優先度に応じて、処理に割り当てられる CPU やシステムリソースの使用量が決定されます。処理の優先度を下げると、他の CPU タスクで使用されるリソースを増やすことができます。バックアップや復元の優先度を上げると、実行中の他の処理からリソースを取得することができ、処理の速度が向上します。優先度変更の効果は、全体的な CPU の使用状況およびその他の要因に応じて異なります。

処理の優先度は、次のいずれかに設定することができます。

- **[低]**（デフォルトで有効）：バックアップ処理や復元処理の速度は低下しますが、他のプログラムのパフォーマンスは向上します。
- **[通常]**：バックアップ処理や復元処理に他の処理と同じ優先度が割り当てられます。
- **[高]**：バックアップ処理や復元処理の速度は向上しますが、他のプログラムのパフォーマンスは低下します。このオプションを選択すると、Acronis True Image OEM による CPU 使用率が 100% になる場合があるので注意してください。

リカバリ処理の通知

場所: **[復元オプション]** > **[通知]**

バックアップまたはリカバリの処理には 1 時間以上かかる場合があります。Acronis True Image OEM では、この処理の終了時に E メールで通知を受け取ることができます。また、処理中に発行されたメッセージや、処理完了後の完全な処理ログもプログラムによって送信されます。

デフォルトでは、すべての通知は無効になっています。

空きディスク領域のしきい値

復元ストレージの空き領域が指定のしきい値より少なくなったときに、通知を受け取ることができます。バックアップの開始後、選択したバックアップ保存先の空き領域が指定値よりも既に少ないことが Acronis True Image OEM によって検出された場合には、プログラムで実際の復元処理は開始されず、空き領域が少ない旨の通知メッセージが直ちに表示されます。メッセージには次の 3 つの選択肢が示さ

れます。メッセージを無視して復元を続行する、復元を保存する別の場所を参照する、復元をキャンセルする、の中からいずれかを選択します。

復元の実行中に空き領域が指定値より少なくなった場合にも、プログラムにより同じメッセージが表示されるため、同様の選択を行う必要があります。

ディスクの空き領域のしきい値を設定するには、次の手順を実行します。

- **[ディスクの空き領域が不十分なときに通知メッセージを表示する]** チェックボックスをオンにします。
- **[サイズ]** ボックスでしきい値を入力または選択し、単位を選択します。

Acronis True Image OEM では、次のストレージデバイスの空き領域をチェックすることができます。

- ローカルハードドライブ
- USBカードおよびドライブ
- ネットワーク共有 (SMB)

注意

[エラー処理] 設定で **[処理中にメッセージやダイアログを表示しない (サイレントモード)]** チェックボックスがオンになっている場合、メッセージは表示されません。

注意

CD/DVDドライブについては、このオプションを有効にすることはできません。

電子メールによる通知

1. **[処理状態に関する電子メール通知を送信する]** チェックボックスを選択します。
2. 電子メールを設定します。
 - **[宛先]** フィールドに電子メール アドレスを入力します。複数の電子メール アドレスをセミコロンで区切って入力することもできます。
 - **[サーバー設定]** フィールドに送信メールサーバー (SMTP) を入力します。
 - 送信メール サーバーのポート番号を設定します。デフォルトの場合、ポート番号は 25 に設定されます。
 - 必要に応じて、**[SMTP 認証]** チェック ボックスを選択し、対応するフィールドにユーザー名とパスワードを入力します。
3. 設定が正しいかどうかをチェックするには、**[テスト メッセージを送信する]** ボタンをクリックします。

テストメッセージの送信に失敗した場合

1. **[拡張設定を表示]** をクリックします。
2. 追加の電子メール設定を行います。
 - **[差出人]** フィールドに電子メール送信者のアドレスを入力します。指定するアドレスが不明な場合は、たとえば、aaa@bbb.com のような標準形式で任意のアドレスを入力します。
 - 必要に応じて、**[件名]** フィールドのメッセージの件名を変更します。

- **[受信メール サーバーにログオンする]** チェック ボックスをオンにします。
- 受信メール サーバー (POP3) を **[POP3 サーバー]** フィールドに入力します。
- 受信メール サーバーのポート番号を設定します。デフォルトの場合、ポート番号は 110 に設定されます。

3. **[テストメッセージを送信する]** ボタンをもう一度クリックします。

その他の通知設定

- 処理の完了に関する通知を送信するには、**[処理が正常に完了したら通知を送信する]** チェックボックスをオンにします。
- 処理の失敗に関する通知を送信するには、**[処理が失敗したら通知を送信する]** チェックボックスをオンにします。
- 処理メッセージを添付して通知を送信するには、**[ユーザーの操作が必要な場合に通知を送信する]** チェックボックスをオンにします。
- 処理の詳細なログを添付して通知を送信するには、**[完全なログを通知に含める]** チェックボックスをオンにします。

保護

注意

この保護は、Acronis True Image OEM UI でのみ有効または無効にできます。タスク マネージャまたは他の外部ツールを使って手動でプロセスを停止することはできません。

[保護] ダッシュボード

[保護] ダッシュボードにアクセスするには、サイドバーにある **[保護]** をクリックします。

ダッシュボードの **[概要]** タブでは、次の操作が行えます。

- Active Protection の状況に関する統計情報を表示する。
- 検出された問題数、検疫された項目数、保護の除外数を表示する。
- 事前に設定した期間（30 分、1 時間、4 時間、再起動まで）、保護全体を停止します。これを行うには、**[保護の停止]** をクリックして期間を選択します。

注意

保護をオフにすると、Active Protection が無効になります。スケジュール設定したオンデマンド スキャンは開始されません。

ダッシュボードの **[アクティビティ]** タブで、保護の状況および設定に適用した変更のログを表示できます。

Active Protection

コンピューターを悪意のあるソフトウェアからリアルタイムで保護するため、Acronis True Image OEM は Acronis Active Protection 技術を使用します。

Active Protection は、コンピューターの通常運用中に常にチェックを行います。Acronis Active Protection は、ユーザーのファイルの他に、Acronis True Image OEM アプリケーションファイル、バックアップ、ハードドライブのマスタースタートレコードを保護します。

ランサムウェア対策保護

ランサムウェアはファイルを暗号化し、暗号化キーの対価を要求します。クリプトマイニング マルウェアは、バックグラウンドで数値計算を行うことで、コンピューターの処理能力とネットワークトラフィックを盗みます。

ランサムウェア対策保護 サービスが有効な場合、コンピューターで実行されているプロセスがリアルタイムで監視されます。ファイルの暗号化や暗号通貨のマイニングを試みるサードパーティのプロセスを検出すると、ユーザーに通知され、プロセスを継続するかブロックするかを尋ねられます。

プロセスによるアクティビティの継続を許可するには、**[信頼する]** をクリックします。プロセスが安全で正当なものかどうか不明な場合は、**[検疫]** をクリックすることをお勧めします。クリックすると、プロセスは **[検疫]** に追加され、アクティビティがブロックされます。

プロセスのブロック後に、ファイルが暗号化されていないかどうか、または破損していないかどうかを確認することをお勧めします。暗号化されているまたは破損している場合には、**[変更されたファイルを復元する]** をクリックします。Acronis True Image OEM は、リカバリする最新のファイルバージョンを次の場所から検索します。

- プロセスの検証中に前もって作成したファイルの一時コピー
- ローカルバックアップ

Acronis True Image OEM が適切な一時コピーを見つけた場合には、それからファイルを復元します。

注意

Acronis True Image OEM は、パスワード保護されたバックアップからのファイルの復元をサポートしていません。

プロセスのブロック後にファイルを自動的に復元するよう Acronis True Image OEM を設定するには、Active Protection 設定で **[プロセスをブロックした後に自動的にファイルを復元する]** チェックボックスをオンにします。「Active Protection の設定」を参照してください。

検疫内のファイルの管理

Active Protection は、ブロックされたファイルを設定に基づいて検疫に移動できます。検疫は、感染したファイルや疑わしいファイルをコンピューターとデータから切り離すために使用される、特殊なストレージです。アプリケーションファイルを検疫内に配置すると、ブロックされたアプリケーションが潜在的に有害なアクションを実行するリスクを最小限に抑えることができます。

デフォルトでは、ファイルは 30 日間検疫に保持され、その後コンピューターから削除されます。期限内に検疫内のファイルを確認して、保持するか削除するかを決定することができます。また、検疫内でのデフォルトの保持期間を変更することもできます。

検疫からファイルをリストアまたは削除する手順は、次のとおりです。

1. **[保護]** ダッシュボードで、**[検疫]** をクリックします。
2. 検疫リストで項目を選択します。
 - 項目を元の場所に戻すには、**[復元]** をクリックします。
 - 項目を削除するには、**[PC から削除]** をクリックします。
3. **[閉じる]** をクリックします。

検疫からファイルを自動的に削除する期間を設定する手順は、次のとおりです。

1. **[保護]** ダッシュボードで **[設定]** をクリックし、**[詳細]** タブをクリックします。
2. **[検疫]** セクションで、検疫された項目を保持する日数を選択します。
3. **[OK]** をクリックします。

ディスクのクローン作成と移行

注意

ご使用のエディションでは一部の機能を使用できない場合があります。

これは、1つのディスクドライブの内容全体を別のディスクドライブにコピーする処理です。たとえば、容量の大きい新しいディスクに、オペレーティングシステム、アプリケーション、データのクローンを作成する場合、この処理が必要になることがあります。このことは2つの方法で実行できます。

- [ディスクのクローン作成ユーティリティを使用する方法。](#)
- [古いディスクドライブをバックアップし、その後新しいディスクドライブに復元する方法。](#)

以下も参照してください: [バックアップとディスクのクローン作成の違い](#)

ディスクのクローン作成ユーティリティ

ディスクのクローン作成ユーティリティを使用すると、ディスクのパーティションを別のハードディスクにコピーして、ハードディスクドライブのクローンを作成できます。

開始する前に:

- 容量の大きいハードディスクにシステムのクローンを作成する場合は、転送先の（新しい）ドライブをクローンを使用する場所に取り付け、転送元のドライブを別の場所（外付けのUSBエンクロージャなど）に取り付けることをおすすめします。これは特にラップトップコンピュータの場合に重要です。

注意

古いハードディスクドライブと新しいハードディスクドライブは同じコントローラーモード（IDE、AHCI など）で動作させることをおすすめします。モードが異なる場合、新しいハードドライブからコンピュータを起動できなくなる可能性があります。

注意

Windows を使用して、外付け USB ハードドライブにディスクのクローンを作成した場合、そこから起動できない場合があります。代わりに、内蔵 SSD または HDD にクローンを作成することをお勧めします。

- ディスクのクローン作成ユーティリティは、マルチブートシステムをサポートしていません。
- プログラムの画面では、破損したパーティションの左上の隅に、赤い丸に白い「x」のマークが付きます。クローン作成を開始する前に、適切なオペレーティングシステムツールを使用して、ディスクにエラーがないかどうかを調べ、エラーがあれば修正する必要があります。
- 安全措置として、元のディスク全体のバックアップを作成することを強くおすすめします。それによって、クローン作成中に元のハードディスクに問題が発生した場合でも、データは安全に守られます。そのようなバックアップを作成する方法の詳細は、「[パーティションとディスクのバックアップ](#)」を参照してください。バックアップを作成したら、確実にベリファイしてください。

ディスクのクローン作成ウィザード

開始する前に、**ディスクのクローン作成ユーティリティ** に関する一般的な情報を参照しておくことをお勧めします。UEFI コンピュータを使用しており、ブータブルメディアからクローン作成処理を開始することにした場合、UEFI BIOS のブータブルメディアの起動モードに注意してください。起動モードはバックアップのシステムの種類と一致するようにしてください。バックアップにBIOSシステムが含まれている場合はBIOSモードでブータブルメディアを起動してください。システムがUEFIの場合は、UEFIモードが設定されていることを確認してください。

ディスクのクローンを作成する手順は、次のとおりです。

1. Acronis True Image OEM を開始します。
2. ツールバーの **[ツール]** をクリックし、**[ディスクのクローン作成]** をクリックします。
3. **[クローン作成モード]** で、転送モードを選択します。
 - **自動:** ほとんどの場合は自動モードの使用をお勧めします。
 - **手動:** 手動モードではさまざまなデータ転送に対応できます。手動モードは、ディスクパーティションレイアウトの変更が必要な場合に役立ちます。

注意

ディスクが2つ検出されて、一方にパーティションがあり、他方にはない場合は、パーティションのあるディスクが自動的にソースディスクとして認識され、パーティションのないディスクがターゲットディスクとして認識されます。これに該当する場合は、以降のステップが省略され、**[概要]** 画面が表示されます。

4. **[ソース ディスク]** で、クローンを作成するディスクを選択します。

注意

Acronis True Image OEM はダイナミックディスクのクローン作成には対応していません。

5. **[ターゲット ディスク]** で、クローンデータの保存先ディスクを選択します。

選択したターゲットディスクにパーティションがある場合は、パーティションの削除を確認する必要があります。実際にデータが消去されるのは、ウィザードの最後の手順で **[実行]** をクリックした場合のみです。

注意

パーティションが作成されていないディスクがある場合は、そのディスクが自動的に移行先と見なされるため、このステップは省略されます。

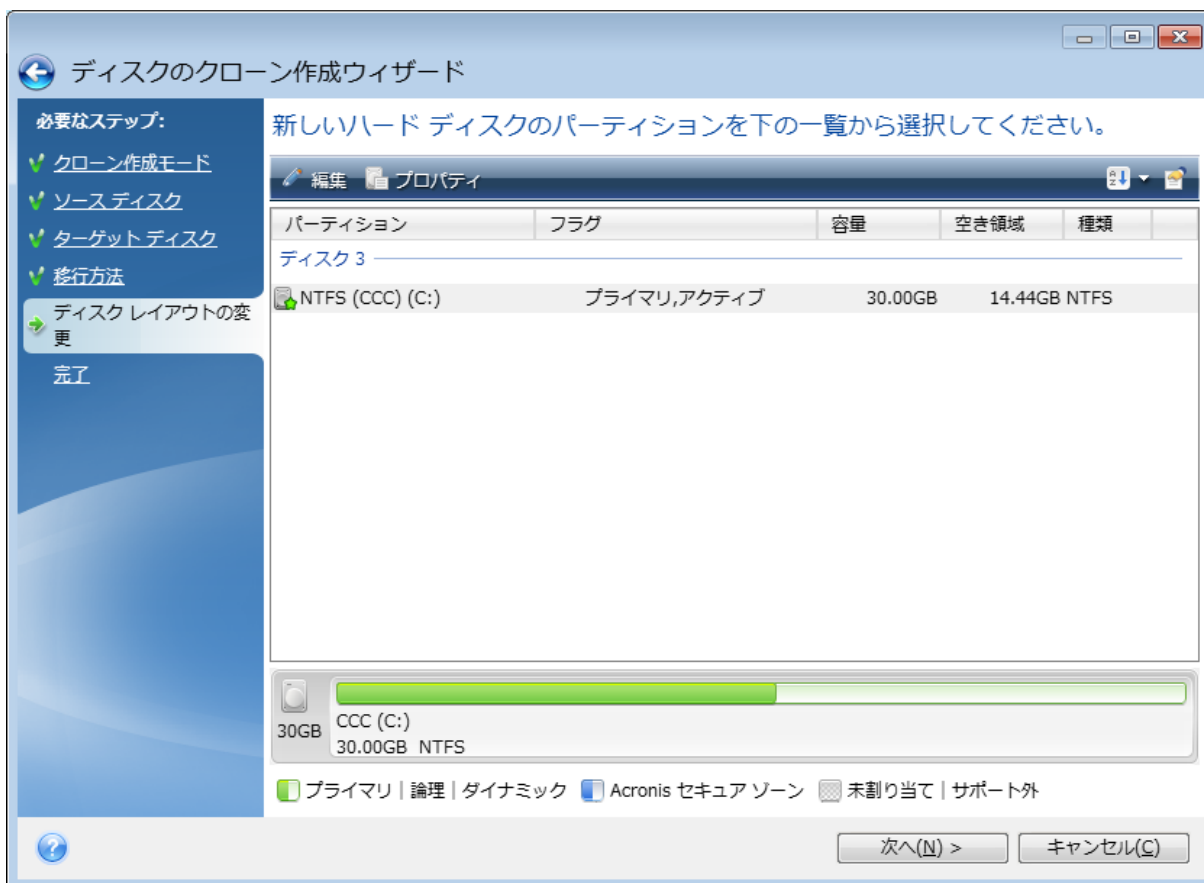
6. **[この手順を使用できるのはソースディスクに OS がインストールされている場合のみです]**。 **[ディスクの使用状況]** の手順で、クローンを使用する方法を選択します。
 - **このマシンのディスクを交換する:** システムディスクデータがコピーされ、クローンが起動可能になります。この PC でシステムディスクを新しいものと交換するには、このクローンを使用します。

- **別のマシンで使用する:** システムディスクデータがコピーされ、クローンが起動可能になります。このクローンを使用して、すべてのデータをブータブルディスク上の別の PC に転送します。
 - **データディスクとして使用する:** ディスクデータがコピーされます。このクローンは非ブータブルデータドライブとして使用されます。
7. [この手順を使用できるのは手動のクローン作成モードの場合のみです。][**移行方法**] で、データの移行方法を選択します。
- **現状のまま:** 古いパーティション1つにつき1つの新しいパーティションが、同一のサイズ、種類、ファイルシステム、ラベルで作成されます。使用されない領域は未割り当てになります。
 - **移行先にあわせる:** 新しいディスク領域が、各パーティションの元の大きさに比例して配分されません。
 - **手動:** 新しいサイズとその他のパラメータを指定できます。
8. [この手順を使用できるのは手動のクローン作成モードの場合のみです。][**ディスクレイアウトの変更**] で、ターゲットディスクに作成するパーティションの設定を編集できます。詳細については、「**手動パーティション操作**」を参照してください。
9. [オプションの手順] [**除外する内容**] で、クローンを作成しないファイルやフォルダを指定できます。詳細については、「**クローン作成からの項目の除外**」を参照してください。
10. [**完了**] で、指定した設定がニーズに合っていることを確認してから、[**実行**] をクリックします。

何らかの原因でクローン作成処理が停止した場合は、処理をもう一度設定して開始する必要があります。データは消去されません。クローンの作成中に Acronis True Image OEM によってオリジナルディスクやそこに保存されているデータが変更されることはありません。

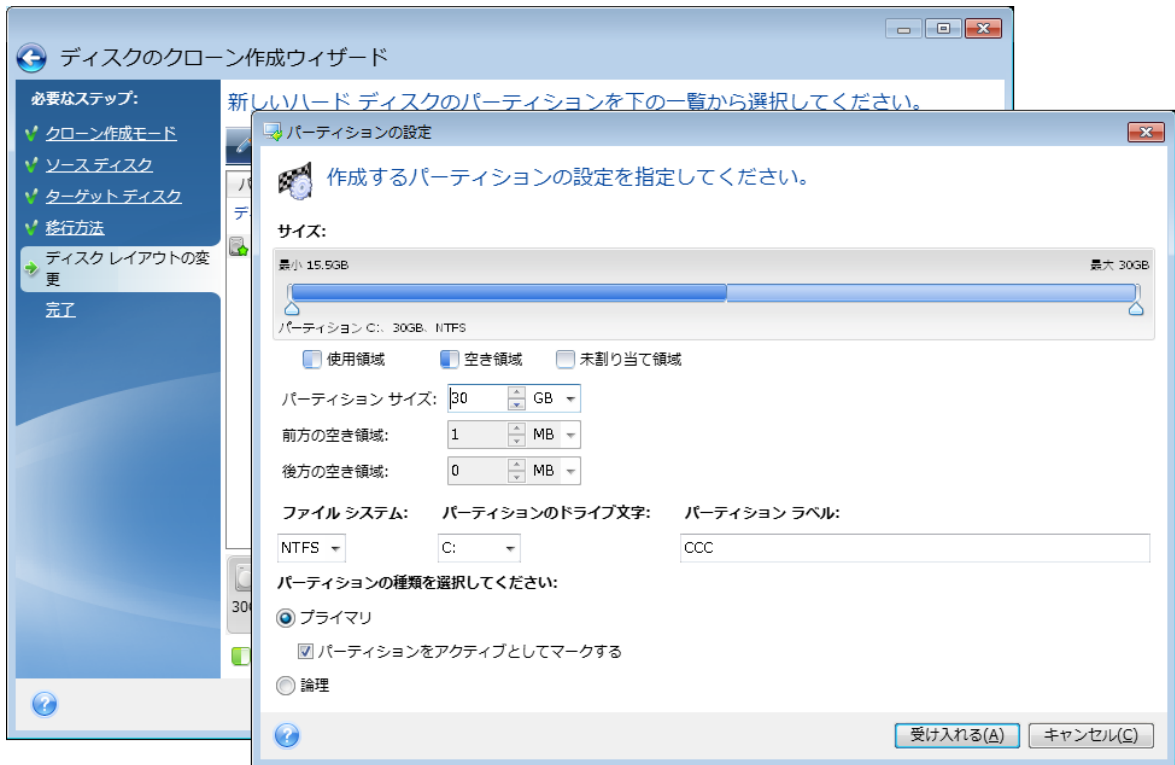
手動パーティション操作

移行方法として [手動] を選択した場合は、新しいディスクのパーティションのサイズを変更できます。デフォルトでは、ソースディスクとターゲットディスクの容量の比率に応じて、サイズが変更されます。



パーティションを編集する手順は、次のとおりです。

1. パーティションを選択し、**[編集]** をクリックします。[パーティションの設定] ウィンドウが開きます。



2. パーティション用に以下の設定を指定します。

- サイズと位置
- ファイル システム
- パーティションの種類 (MBRディスクでのみ使用可能)
- パーティションのドライブ文字とラベル

詳細については、「[パーティションの設定](#)」を参照してください。

3. **[確定]** をクリックします。

警告

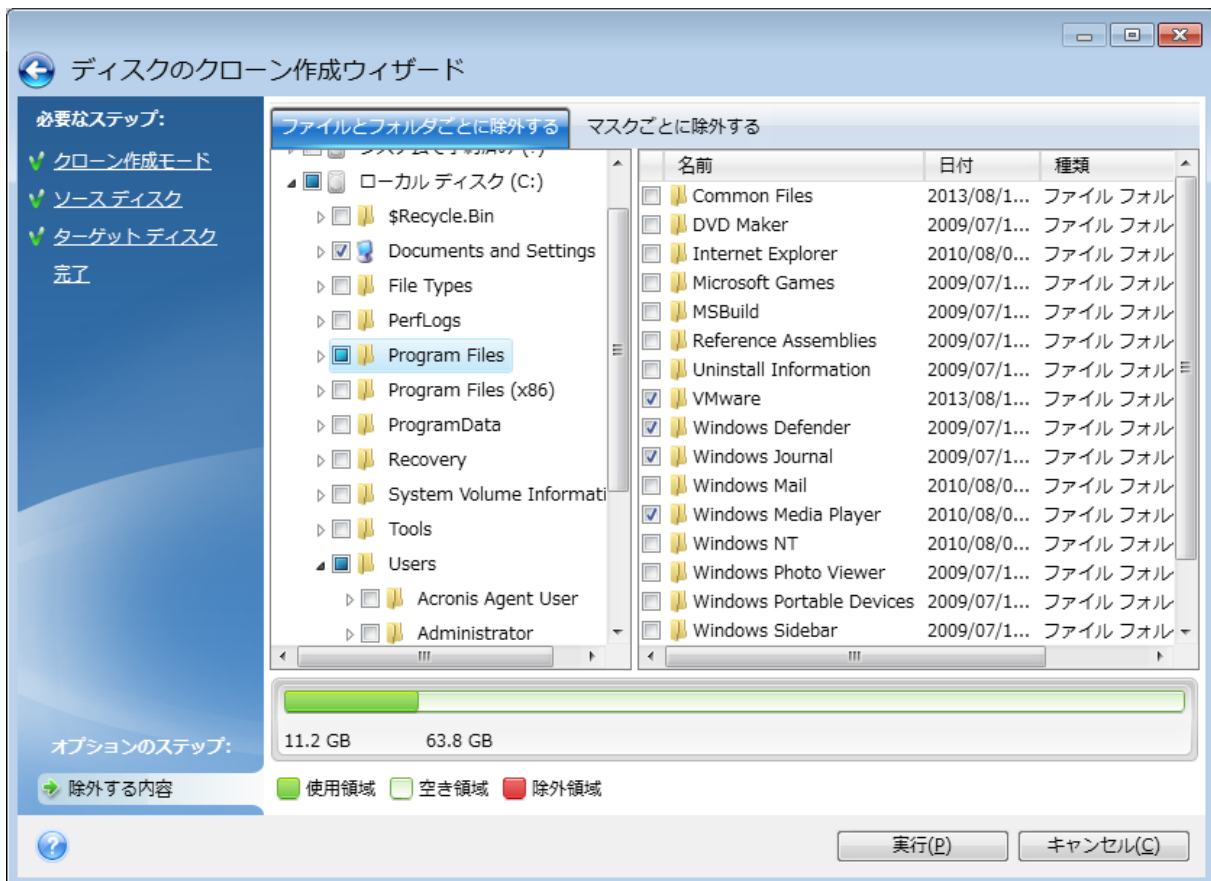
このウィンドウのサイドバーで、ウィザードの前の手順のいずれかをクリックすると、選択されたサイズと位置の変更内容がすべてリセットされるため、再度指定する必要があります。

クローン作成からの項目の除外

ソースディスクから特定のファイルのクローンを作成しない場合は（たとえば、宛先ディスクがソースディスクよりも小さい場合）、**除外するもの**のステップで、除外するものを選択できます。

注意

システムパーティションのクローンを作成する場合に、隠しファイルやシステムファイルを除外することはおすすめできません。



ファイルとフォルダを除外する方法は2つあります。

- [ファイルとフォルダごとに除外する] - このタブでは、フォルダツリーから特定のファイルとフォルダを選択できます。
- [マスクごとに除外する] - このタブでは、マスクによりファイルのグループを、名前やパスにより個々のファイルを除外できます。

除外基準を追加するには、[追加] をクリックし、ファイル名、パス、またはマスクを入力し、[OK] をクリックします。追加できるファイルとマスクの数に制限はありません。

除外基準の例

- 明示的なファイル名を入力できます。
 - file.ext - 該当するファイルはすべてクローン作成から除外されます。
 - C:\file.ext: C: ドライブにある file.ext ファイルが除外されます。
- 次のように、ワイルドカード文字 (* および ?) を使用できます。
 - *.ext: 拡張子が .ext のファイルがすべて除外されます。
 - ??name.ext: 拡張子が .ext で、ファイル名が合計 6 文字（最初の 2 文字が任意の文字 (??) で、残りの部分が name) のすべてのファイルが除外されます。
- フォルダのパスを入力できます。
 - C:\my pictures - C: ディスクのマイピクチャ フォルダは除外されます。

右側ペインの対応するボタンを使用して、除外基準を編集および削除できます。

HDDからSSDへのシステムの移行

最初に、Acronis True Image OEM が、Windows と Acronis ブータブルメディア の両方で新しい SSD を検出することを確認してください。問題がある場合は、「[Acronis True Image OEM が SSD を認識しない場合の処理](#)」を参照してください。

SSD のサイズ

SSD の容量は通常は HDD よりも少ないため、古いハードディスクの使用済み領域が SSD のサイズを超えている場合があります。その場合、移行を実行することはできません。

システムディスク上のデータ量を減らすため、次のことを試してください。

- データファイルを古いハードディスクから別の場所（たとえば、内蔵または外付けの別のハードディスクドライブ）に移動します。
- データファイル（ドキュメント、画像、オーディオファイルなど）の .zip ファイルを作成し、元のファイルを削除します。
- Windows のディスククリーンアップユーティリティを使用してハードディスクのクリーンアップを実行します。

Windows を安定して動作させるためには、システムパーティション上に数 GB の空き領域が必要です。

選択する移行モード

システムディスクが 1 つのパーティションで構成されている場合（隠しシステム予約パーティションは数えませんが）、クローンツールを使用して SSD に移行することができます。詳細については、「[ハードディスクのクローン作成](#)」を参照してください。

ただし、ほとんどの場合はバックアップとリカバリを使用することをお勧めします。この方法の方が柔軟性に優れ、移行をより詳細に管理できます。「[バックアップとリカバリを使用した SSD への移行](#)」を参照してください。

Acronis True Image OEM が SSD を認識しない場合の処理

Acronis True Image OEM が SSD を認識しないことがあります。

このような場合には、SSD が BIOS で認識されているかどうかを確認します。

コンピュータの BIOS に SSD が表示されない場合は、電源ケーブルおよびデータ ケーブルが適切に接続されていることを確認します。BIOS と SATA ドライバのアップデートを試行します。これらの推奨策の効果がない場合は、SSD 製造元のサポートチームに問い合わせてください。

コンピューターの BIOS に SSD が表示される場合

1. オペレーティングシステムに応じて、[検索] フィールドまたは [ファイル名を指定して実行] フィールドに `cmd` と入力し、**Enter** キーを押します。
2. コマンドプロンプトに次のコマンドを入力します。

```
diskpart
list disk
```

画面には、コンピューターに接続されているディスクが表示されます。SSD のディスク番号を見つけます。サイズを参照しながら確認します。

3. ディスクを選択するには、次のコマンドを実行します。

```
select disk N
```

この例では、SSD のディスク番号は N です。

4. SSD からすべての情報を削除し、MBR をデフォルト設定に上書きするには、次のコマンドを実行します。

```
clean
exit
exit
```

Acronis True Image OEM を起動し、SSD が検出されるかどうかを確認します。SSD が検出される場合は、新しいディスクの追加ツールを使用して、ディスク領域全体を占めるパーティションを1つディスク上に作成します。パーティションを作成するときに、パーティションの前に空き領域が1MBあることを確認します。詳細については、「[新しいハードディスクの追加](#)」を参照してください。

Acronis ブータブルメディアが SSD を認識するかどうかを確認するには、次のようにします。

1. Acronis ブータブルメディア から起動します。
2. メインメニューで [ツールとユーティリティ] -> [新しいディスクの追加] を選択すると、[ディスクの選択] 画面にシステム内のすべてのハードディスクに関する情報が表示されます。この情報を使用して、リカバリ環境で SSD が検出されているかどうかを確認します。
3. 画面に SSD が表示されている場合は、[キャンセル] をクリックします。

ブータブルメディアで SSD が認識されず、SSD コントローラモードが AHCI である場合には、モードを IDE (または一部の BIOS ブランドでは ATA) に変更して問題が解決されるかどうかを確認します。

警告

注意モードを変更した後に Windows を起動しないでください。ここで起動するとシステムに重大な問題が発生する場合があります。Windows を起動する前にモードを AHCI に戻す必要があります。

モードを変更した後でブータブルメディアが SSD を検出する場合は、次の手順に従ってブータブルメディアでリカバリまたはクローン作成を行うことができます。

1. コンピューターをシャットダウンします。
2. BIOS を起動し、モードを AHCI から IDE (または一部の BIOS ブランドでは ATA) に変更します。
3. Acronis ブータブルメディア から起動します。
4. ディスクのリカバリまたはクローン作成を行います。
5. BIOS を起動し、IDE を AHCI に戻します。
6. Windows を起動します。

上記の推奨策の効果がなかった場合の処理

WinPE ベースのブータブルメディアを作成して試みる事ができます。このメディアに、必要なドライバがある場合があります。詳細については、「[Acronis ブータブルメディアの作成](#)」を参照してください。

バックアップとリカバリを使用した SSD への移行

サポートされているすべてのオペレーティングシステムについて、次の手順を使用できます。最初に、システムディスクが1つのパーティションで構成されている単純なケースについて考えてみます。

Windows 7以降では、システムディスクに隠しシステム予約パーティションがある場合があります。

パーティションが含まれていない（ディスク領域が未割り当てである）空のSSDにシステムを移行することをおすすめします。ご使用の SSD が新しく、それまでに使用したことがない場合、パーティションはありません。

システムを SSD に移行する手順は、次のとおりです。

1. Acronis True Image OEM を開始します。
2. Acronis ブータブルメディア がまだない場合は、作成します。これを実行するには、**[ツール]** セクションで **[ブータブルメディアの作成]** をクリックして、画面に表示される指示に従ってください。
3. システムハードディスクとSSD以外のハードディスクにシステムドライブ全体をディスクバックアップモードでバックアップします。
4. コンピュータの電源を切り、システム ハード ディスクを取り外します。
5. SSD をハード ディスクが装着されていたスロットにマウントします。

注意

一部の SSD ブランドでは、SSD を PCI Express スロットに挿入する必要があります。

6. Acronis ブータブルメディア から起動します。
7. バックアップをリカバリに使用できることをベリファイします。ベリファイするには、左側のペインで **[リカバリ]** をクリックし、バックアップを選択します。右クリックし、ショートカットメニューで **[ベリファイ]** を選択し、**[実行]** をクリックします。
8. ベリファイが終了したら、バックアップを右クリックし、ショートカットメニューで **[リカバリする]** を選択します。
9. **[リカバリの方法]** で **[ディスクまたはパーティション全体をリカバリする]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。
10. **[リカバリ元]** でシステム ディスクを選択します。
11. **[新しい場所]** をクリックし、システム ディスクの新しいロケーションとして SSD を選択し、**[許可]** をクリックします。
12. 次に、**[実行]** をクリックしてリカバリを開始します。
13. リカバリが完了したら、Acronis True Image OEM のスタンドアロン版を終了します。
14. SSD から起動し、Windows とアプリケーションが正しく機能することを確認します。

多くのノートブックで見られるように、システム ハード ディスクに隠しリカバリ パーティションまたは診断パーティションが含まれている場合、手順は異なります。通常は、SSD へのリカバリ中に手動でパーティションのサイズを変更する必要があります。手順については、「[隠しパーティションを含むディスクのリカバリ](#)」を参照してください。

ツール

注意

ご使用のエディションでは一部の機能を使用できない場合があります。

保護ツール

- "Acronis メディアビルダー" (109ページ)

ディスクのクローン作成

- "ディスクのクローン作成ユーティリティ" (99ページ)

イメージのマウント

- "バックアップイメージのマウント" (133ページ)
- "イメージのアンマウント" (134ページ)

Acronis メディアビルダー

Acronis メディアビルダー では、USB フラッシュドライブ、外付けドライブ、または空の CD/DVD をブータブルにすることができます。Windows が起動できない場合は、ブータブルメディアを使用してスタンドアロン版の Acronis True Image OEM を実行し、コンピューターをリカバリします。

以下のさまざまなタイプのブータブル メディアを作成できます。

- **Acronis ブータブルメディア**

通常は、このタイプを選択してください。

- **Acronis プラグイン を伴う WinPE ベースのメディア**

プリインストール環境で Acronis True Image OEM を実行すると、コンピューターのハードウェアとの互換性が向上する場合があります。これは、プリインストール環境に Windows ドライバが使用されているためです。

Acronis ブータブルメディア からコンピューターを起動できなかった場合には、この種類のメディアを作成することをお勧めします。

このオプションを使用するには、以下のコンポーネントのうちいずれかをインストールしておく必要があります。

- Windows 自動インストール キット (AIK) 。

WinPE 3.0を作成するにはこのコンポーネントが必要です。

- Windows アセスメント & デプロイメント キット (ADK) 。

WinPE 4.0、WinPE 5.0、およびWinPE 10.0を作成するには、このコンポーネントが必要です。

- **Acronis プラグイン を伴う WinRE ベースのメディア**

このタイプのブータブルメディアは WinPE ベースのメディアに似ていますが、WADK または WAIK を Microsoft Web サイトからダウンロードする必要がないという重要な利点があります。Windows 復元環境はWindows Vista以降のWindowsバージョンに既に組み込まれています。Acronis True Image OEM は、システムにあるそれらのファイルを使用して WinRE ベースのメディアを作成します。WinPEベースのメディアと同様、ハードウェアとの互換性を向上させるためにドライバを追加す

ることができます。ただし WinRE ベースのメディアは、それが作成されたコンピュータ、または同じオペレーティング システムのコンピュータでのみ使用可能です。

メモ

- Acronis True Image OEM をアップデートするたびに、新しいブータブルメディアを作成することをお勧めします。
- 非光学メディアを使用する場合、メディアのファイルシステムは FAT16 または FAT32 でなければなりません。
- Acronis メディアビルダー では、x64 WinPE 3.0、WinPE 4.0、WinPE 5.0、および WinPE 10.0 のみがサポートされます。
- コンピュータは下記の要件を満たす必要があります。
 - WinPE 3.0の場合: 256 MB以上のRAM
 - WinPE 4.0の場合: 512 MB以上のRAM
 - WinPE 5.0の場合: 1 GB以上のRAM
 - WinPE 10.0の場合: 512 MB以上のRAM
- Acronis メディアビルダー が USB フラッシュドライブを認識しない場合は、Acronis ナレッジベースの記事(<https://kb.acronis.com/content/1526>) で説明されている手順を試してください。
- ブータブルメディアから起動する場合、Ext2/Ext3/Ext4、ReiserFS、Linux SWAP ファイルシステムのディスクやパーティションにバックアップすることはできません。
- ブータブルメディアから起動する際にスタンドアロン版の Acronis True Image OEM を使用する場合は、Windows XP 以降のオペレーティングシステムの暗号化機能で暗号化されたファイルやフォルダを復元することはできません。詳細については、「[バックアップ用のファイルレベルのセキュリティ設定](#)」を参照してください。ただし、Acronis True Image OEM の暗号化機能を使用して暗号化されたバックアップは復元できます。

Acronis ブータブルメディア の作成

1. USB フラッシュドライブ、または外付けドライブ (HDD/SSD) を差し込むか、空の CD または DVD を挿入します。
2. Acronis True Image OEM を開始します。
3. **[ツール]** セクションの **[Bootable Rescue Media Builder]** をクリックします。
4. 作成方法を選択します。
 - **[シンプル]**: この方法が最も簡単です。Acronis True Image OEM は、コンピューターに最適なメディアの種類を選択します。Windows 7 以降のバージョンを使用する場合、WinRE ベースのメディアが作成されます。
 - **[詳細]**—このオプションではメディアの種類を選択できます。これは、自分のコンピューター用だけでなく、異なる Windows バージョンを実行しているコンピューター用のブータブルメディアを作成できることを意味します。詳細については、「[Acronis メディアビルダー](#)」を参照してください。Linux ベースのメディアを選択する場合、メディアに置く Acronis True Image OEM コンポーネントを選択します。選択するコンポーネントにターゲットコンピュータのアーキテクチャとの互換性があることを確認してください。
WinRE ベースまたは WinPE ベースのメディアを選択する場合は、次のようにします。

- メディアのアーキテクチャの種類として 32 ビットまたは 64 ビットを選択します。なお、32 ビットのブータブルメディアは 32 ビットのコンピュータでのみ使用できます。64 ビットのメディアには 32 ビットのコンピュータと 64 ビットのコンピュータ両方との互換性があります。
- ブータブルメディアの作成に使用するツールキットを選択します。WAIK または WADK を選択し、選択したキットがコンピュータにインストールされていない場合、まず Microsoft Web サイトからダウンロードし、必須コンポーネントである Deployment ツールと Windows プレイインストール環境 (Windows PE) をインストールする必要があります。

WinPE ファイルが既にコンピューターにあり、デフォルト以外のフォルダに格納されている場合、必要な作業はその場所を指定することだけです。これにより、Acronis プラグイン が既存の WinPE イメージに追加されます。

- ハードウェアとの互換性を向上させるために、メディアに追加するドライバを選択することができます。

5. メディアの作成先を選択します。

- **CD**
- **DVD**
- **外付けドライブ**
- **USB フラッシュ ドライブ**

サポートされていないファイルシステムがドライブにあると、Acronis True Image OEM によって FAT ファイルシステムへのフォーマットが自動的に選択されます。

警告

完全にフォーマットすると、ディスク上のデータはすべて消去されます。

- **ISO イメージ ファイル**

.iso ファイルの名前とターゲット フォルダを指定してください。

.iso ファイルが作成されたら、CD または DVD に書き込むことができます。たとえば、Windows 7 以降では、内蔵の書き込みツールを使用してこれを行えます。File Explorer で、作成した ISO イメージファイルをダブルクリックし、**[書き込み]** をクリックします。

- **WIM イメージ ファイル** (WinPE ベースのメディアの場合のみ選択可能)

Acronis True Image OEM によって、Acronis プラグイン が Windows AIK または Windows ADK から .wim ファイルに追加されます。新しい .wim ファイルの名前とターゲット フォルダを指定する必要があります。

.wim ファイルを使用してブータブルメディアを作成するには、最初にそのファイルを .iso ファイルに変更しておく必要があります。詳細については、「[.wim ファイルからの .iso ファイルの作成](#)」を参照してください。

6. **[実行]** をクリックします。

Acronis ブータブルメディア 起動パラメータ

Acronis ブータブルメディア のスタートアップパラメータを設定して、メディアのブートオプションを構成すると、さまざまなハードウェアとの互換性を向上させることができます。nousb、nomouse、noapic などのオプションが利用できます。上級ユーザー向けに用意されているパラメータです。メデ

アからの起動をテスト中にハードウェアの互換性の問題が発生した場合は、サポートセンターにお問い合わせください。

スタートアップパラメータを追加する手順は、次のとおりです。

1. **[パラメータ]** フィールドにコマンドを入力します。スペースで区切って、複数のコマンドを入力できます。
2. 続行するには、**[次へ]** をクリックしてください。

Linuxカーネルを起動する前に適用できる追加パラメータ

説明

次のパラメータを使用すると、Linuxカーネルを特殊モードで読み込むことができます。

- **acpi=off**

ACPI を無効にします。ハードウェアの特定の構成に役立ちます。

- **noapic**

APIC (Advanced Programmable Interrupt Controller) を無効にします。ハードウェアの特定の構成に役立ちます。

- **nousb**

USBモジュールの読み込みを無効にします。

- **nousb2**

USB 2.0のサポートを無効にします。このオプションを指定しても、USB 1.1デバイスは動作します。このオプションを指定すると、USB 2.0モードでは動作しない一部のUSBドライブをUSB 1.1モードで使用できます。

- **quiet**

このパラメータはデフォルトで有効になっており、起動メッセージは表示されません。このパラメータを削除すると、Linux カーネルが読み込まれるときに起動メッセージが表示されるようになり、プログラムが実行される前にコマンド **シェル** が提供されます。

- **nodma**

すべてのIDEディスクドライブのDMAを無効にします。カーネルが一部のハードウェアでフリーズするのを防ぎます。

- **nofw**

FireWire (IEEE1394) のサポートを無効にします。

- **nopcmcia**

PCMCIAハードウェアの検出を無効にします。

- **nomouse**

マウスのサポートを無効にします。

- **[モジュール名]=off**

モジュールを無効にします（例: `sata_sis=off`）。

- **pci=bios**

PCI BIOSの使用を強制し、ハードウェアデバイスには直接アクセスしません。たとえば、コンピュータが標準以外のPCIホストブリッジを備えているような場合にこのパラメータを使用することがあります。

- **pci=nobios**

PCI BIOSの使用を無効にします。ハードウェアへの直接アクセスのみを許可します。たとえば、BIOSが原因で起動時にクラッシュが発生すると考えられる場合にこのパラメータを使用することがあります。

- **pci=biosirq**

PCI BIOSの呼び出しを使用して、割り込みルーティングテーブルを取得します。これらの呼び出しは、一部のコンピュータではバグがあり、使用するとコンピュータがフリーズしますが、他のコンピュータでは、割り込みルーティングテーブルを取得する唯一の方法です。カーネルがIRQを割り当てることができない場合、またはマザーボード上のセカンダリPCIバスを検出できない場合は、このオプションを試してください。

- **vga=ask**

現在のビデオカードで使用できるビデオモードの一覧を取得し、ビデオカードとモニタに最適なビデオモードを選択できるようにします。自動的に選択されたビデオモードがお使いのハードウェアに適合しない場合は、このオプションを試してください。

既存の.wimイメージへのドライバの追加

Acronis プラグイン を含む基本的な WinPE ディスクに、ストレージデバイスコントローラーなどのお使いのハードウェアのドライバが含まれていないことがあります。これを追加する最も簡単な方法は、[Acronis メディアビルダー](#) で詳細モードを選択し、追加するドライバを指定することです。Acronis プラグイン を使って ISO ファイルを作成する前に、既存の .wim ファイルに手動でドライバを追加することができます。

警告

注意.inf ファイル拡張子が付いたドライバのみを追加できます。

以下の手順は、MSDN の記事 (<https://technet.microsoft.com/> にあります) を基にしています。

カスタムの Windows PE イメージを作成するには、次の手順を実行します。

1. Acronis プラグイン を含む .wim ファイルがない場合は、Acronis メディアビルダー を開始して、WinPE ベースのメディアのターゲットとして **[WIM ファイル]** を選択し、これを作成します。詳細については、[Acronis ブータブルメディア の作成](#)を参照してください。
2. お使いのWindows AIKまたはWindows ADKのバージョンに応じて、以下のいずれかを実行してください。

- [スタート]メニューで、[Microsoft Windows AIK] をクリックし、[Windows PE ツール コマンド プロンプト] を右クリックして [管理者として実行] を選択します。
 - [スタート]メニューで、[Microsoft Windows AIK] をクリックし、[Deployment ツールのコマンド プロンプト] を右クリックして [管理者として実行] を選択します。
 - [スタート]メニューで、[Windows キット]、[Windows ADK] とクリックし、[展開およびイメージング ツール環境] を右クリックして [管理者として実行] を選択します。
3. Copype.cmdスクリプトを実行し、Windows PEファイルが格納されたフォルダを作成します。たとえば、コマンドプロンプトから次のように入力します。

```
copype amd64 C:\winpe_x64
```

4. .wimファイルをたとえばC:\winpe_x64\フォルダにコピーします。このファイルのデフォルトの名前は、AcronisBootablePEMedia.wim です。
5. DISMツールを使用して基本イメージをローカルディレクトリにマウントします。これを行うには、次のように入力します。

```
Dism /Mount-Wim /WimFile:C:\winpe_x64\AcronisBootablePEMedia.wim /index:1  
/MountDir:C:\winpe_x64\mount
```

6. DISMコマンドとAdd-Driverオプションを使用してハードウェアドライバを追加します。たとえば、C:\drivers\フォルダにあるMydriver.infドライバを追加するには、次のように入力します。

```
Dism /image:C:\winpe_x64\mount /Add-Driver /driver:C:\drivers\mydriver.inf
```

7. 追加するドライバごとに上記の手順を繰り返してください。
8. DISMコマンドを使用して、変更を適用します。

```
Dism /Unmount-Wim /MountDir:C:\winpe_x64\mount /Commit
```

9. 生成された.wimファイルからPEイメージ (.isoファイル) を作成します。詳細については、「.wimファイルからの.isoファイルの作成」を参照してください。

.wim ファイルからの .iso ファイルの作成

.wim ファイルを使用してブータブルメディアを作成するには、まずそのファイルを .iso ファイルに変換しておく必要があります。

生成された .wim ファイルから PE イメージ (.iso ファイル) を作成する手順は、次のとおりです。

1. お使いのWindows AIKまたはWindows ADKのバージョンに応じて、以下のいずれかを実行してください。
 - [スタート]メニューで、[Microsoft Windows AIK] をクリックし、[Windows PE ツール コマンド プロンプト] を右クリックして [管理者として実行] を選択します。
 - [スタート]メニューで、[Microsoft Windows AIK] をクリックし、[Deployment ツールのコマンド プロンプト] を右クリックして [管理者として実行] を選択します。

- [スタート]メニューで、[Windows キット]、[Windows ADK] とクリックし、[展開およびイメージング ツール環境] を右クリックして [管理者として実行] を選択します。
2. Copype.cmd スクリプトを実行し、Windows PE ファイルが格納されたフォルダを作成します。たとえば、コマンドプロンプトから次のように入力します。

```
copype amd64 C:\winpe_x64
```

3. Windows PE フォルダ内のデフォルトの boot.wim ファイルを、新しく作成した .wim ファイル（たとえば、AcronisBootablePEMedia.wim）に置き換えます。AcronisBootablePEMedia.wim ファイルが c:¥ にある場合は、次のように入力します。

WinPE 3.0 の場合

```
copy c:\AcronisBootablePEMedia.wim c:\winpe_x64\ISO\sources\boot.wim
```

WinPE 4.0、WinPE 5.0、または WinPE 10.0 の場合: 次を入力してください。

```
copy "c:\AcronisBootablePEMedia.wim" c:\winpe_x64\media\sources\boot.wim
```

4. **Oscdimg** ツールを使用します。 .iso ファイルを作成するには、次のように入力します。

```
oscdimg -n -bc:\winpe_x64\etfsboot.com c:\winpe_x64\ISO c:\winpe_x64\winpe_x64.iso
```

また、BIOS ベースのコンピュータおよび UEFI ベースのコンピュータでメディアをブータブルにするには、次のように入力します。

```
oscdimg -m -o -u2 -udfver102 -bootdata:2#p0,e,bc:\winpe_x64\fwfiles\etfsboot.com#pEF,e,bc:\winpe_x64\fwfiles\efisys.bin c:\winpe_x64\media c:\winpe_x64\winpe_x64.iso
```

5. サードパーティのツールを使用して .iso ファイルを CD に書き込むと、Acronis True Image OEM が格納されたブータブル Windows PE ディスクが作成されます。

必要なときにブータブルメディアを確実に使用できるようにする

必要に応じてコンピュータを正常に復元できるように、ブータブルメディアからのコンピュータの起動をテストしておく必要があります。さらに、ブータブルメディアがコンピュータのデバイス（ハードドライブ、マウス、キーボード、ネットワークアダプタなど）をすべて認識することを確認する必要があります。

ブータブルメディアをテストするには、次の手順を実行します。

注意

バックアップの保存用に外部ドライブを使用する場合、ブータブル CD から起動する前にそのドライブを接続しておく必要があります。接続しておかないと、そのドライブは検出されません。

1. ブータブルメディアから起動できるように、コンピュータを設定します。次に、ブータブルメディアデバイス (CD-ROM/DVD-ROM ドライブまたは USB ドライブ) を最初のブート デバイスにします。詳細については、「[BIOS での起動順の並べ替え](#)」を参照してください。
2. ブータブル CD がある場合は、「Press any key to boot from CD」というプロンプトが表示されたらすぐに任意のキーを押して CD からの起動を開始します。5 秒以内にキーを押さなかった場合は、コンピュータを再起動する必要があります。
3. ブートメニューが表示されたら、**[Acronis True Image OEM]** を選択します。

注意

ワイヤレス マウスが動作しない場合は、有線マウスに交換してみてください。キーボードについても、同様です。

注意

別のマウスやキーボードがない場合は、Acronis サポートセンターにご連絡ください。ご利用のマウスとキーボードのモデルに対応したドライバを含むカスタムブータブル CD を作成いたします。適切なドライバを見つけてカスタムブータブル CD を作成するには、ある程度の時間がかかることをご了承ください。また、一部のモデルには、対応できないことがあります。

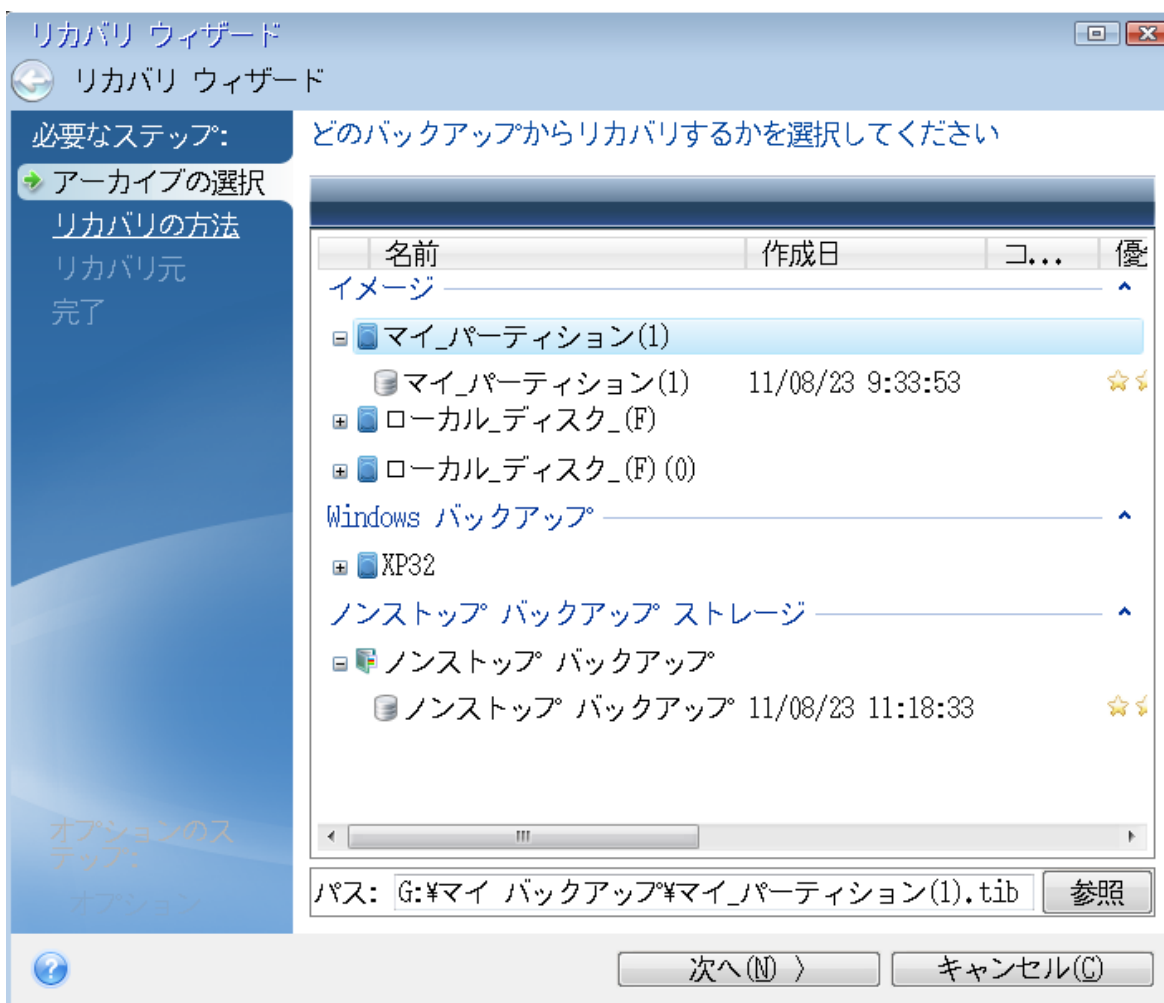
4. プログラムが開始したら、バックアップからいくつかのファイルを復元してみることをお勧めします。復元をテストすることにより、そのブータブル CD を復元に使用できることを確認できます。さらに、システムのすべてのハードディスク ドライブがプログラムによって検出されるかどうかも確認できます。

注意

予備のハードドライブがある場合、そのハードドライブへのシステムパーティションの復元をテストすることを強くおすすめします。

リカバリをテストし、同時にドライブとネットワーク アダプタをチェックするには、次の手順を実行します。

1. [アーカイブのロケーション] のステップでバックアップを選択し、[次へ] をクリックします。



2. ブータブル CD でファイルを復元する場合、復元されるファイルに新しいロケーションのみを選択できます。したがって、[ロケーションの選択] ステップでは単に [次へ] をクリックしてください。
3. [復元先] ウィンドウが開いたら、[マイ コンピュータ] の下にすべてのドライブが表示されていることを確認します。

注意

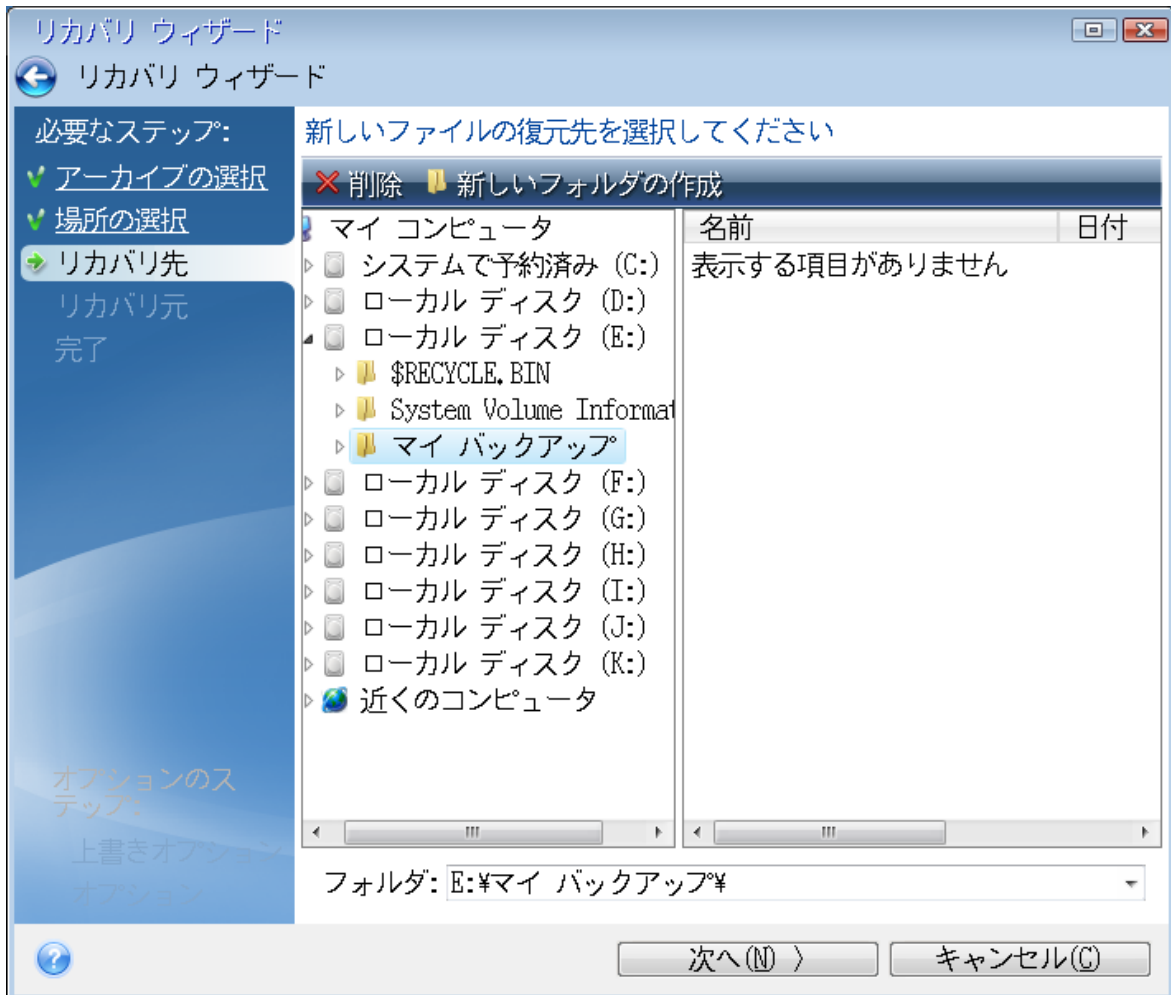
バックアップをネットワークに保存する場合は、ネットワークにアクセスできることを確認してください。

注意

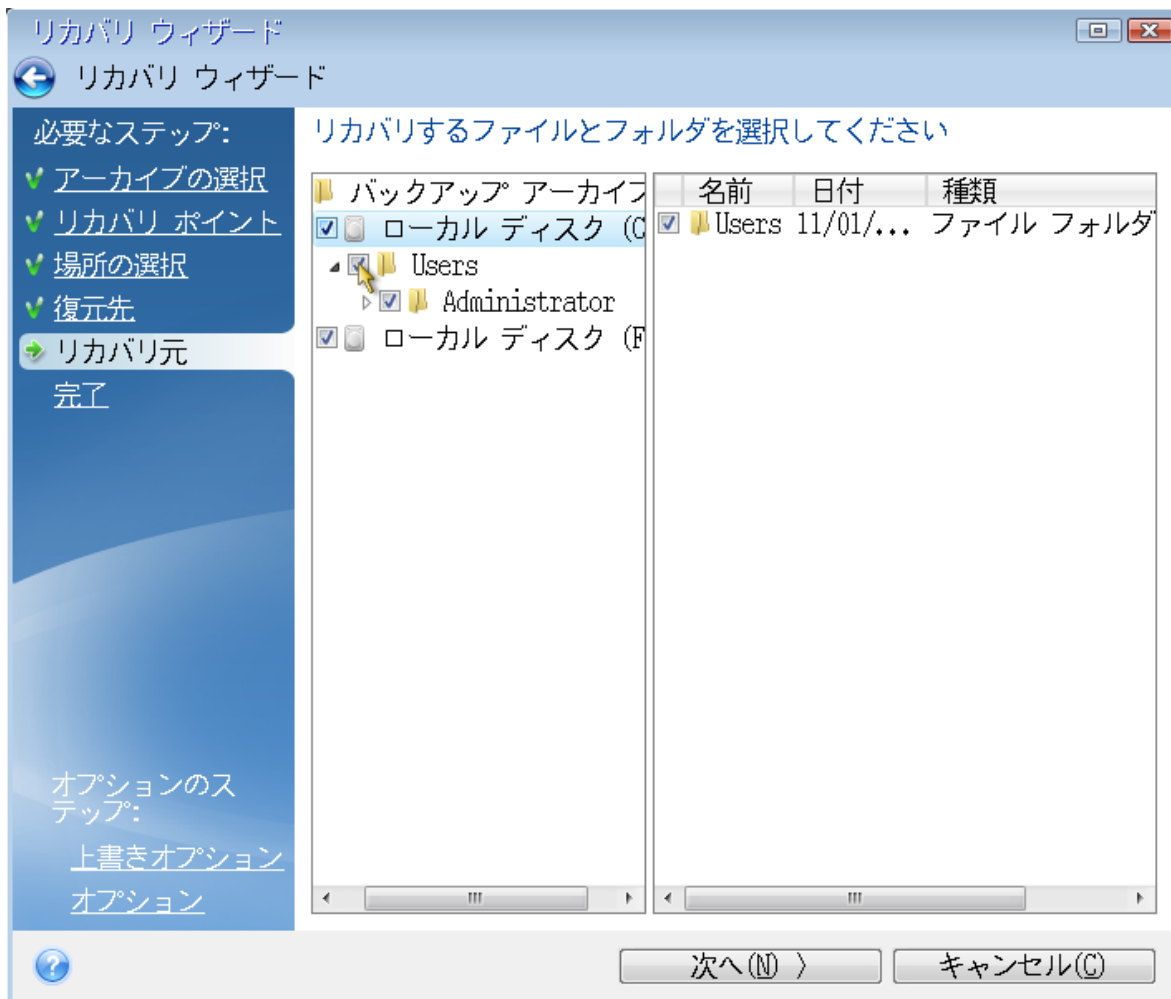
ネットワークにコンピュータがまったく表示されないものの [マイ コンピュータ] の下に [近くのコンピュータ] アイコンが表示されている場合は、ネットワーク設定を手動で指定します。手動で指定するには、[ツールとユーティリティ] > [オプション] > [ネットワークアダプタ] で使用できるウィンドウを開きます。

注意

[マイコンピュータ] で [近くのコンピュータ] アイコンが表示されない場合は、ネットワークカードまたは Acronis True Image OEM に付属しているカードドライバに問題がある可能性があります。



4. ファイルを保存する場所を選択して、[次へ] をクリックします。
5. リカバリするファイルのチェック ボックスをいくつかオンにして、[次へ] をクリックします。



6. [概要] ウィンドウの [実行] をクリックして、リカバリを開始します。

7. リカバリが終了したら、スタンドアロン版の Acronis True Image OEM を終了します。

これで、必要なときにこのブータブル CD を使用できることがある程度確実にわかりました。

ブータブルメディアからの起動時におけるビデオモードの選択

ブータブルメディアからの起動時には、ビデオカードおよびモニタの仕様に応じて最適なビデオモードが自動で選択されます。ただし、使用しているハードウェアに適していないビデオモードが選択される場合もあります。このような場合は、次の手順で適切なビデオモードを選択できます。

1. ブータブルメディアからの起動を開始します。ブートメニューが表示されたら、**Acronis True Image OEM** の項目にマウスポインタを置いて F11 キーを押します。
2. コマンドラインが表示されたら、**vga=ask** と入力して [OK] をクリックします。
3. ブートメニューで [Acronis True Image OEM] を選択し、ブータブルメディアからの起動を続けます。使用できるビデオモードを表示するには、該当するメッセージが表示されたら Enter キーを押します。
4. 使用しているモニタに最適なビデオモードを選択し、その番号をコマンドラインに入力します。たとえば、「338」と入力すると、1600x1200x16のビデオモードが選択されます（下図参照）。

```
333 1024x768x16 VESA      334 1152x864x16 VESA      335 1280x960x16 VESA
336 1280x1024x16 VESA     337 1400x1050x16 VESA     338 1600x1200x16 VESA
339 1792x1344x16 VESA     33A 1856x1392x16 VESA     33B 1920x1440x16 VESA
33C 320x200x32 VESA       33D 320x400x32 VESA       33E 640x400x32 VESA
33F 640x480x32 VESA       340 800x600x32 VESA       341 1024x768x32 VESA
342 1152x864x32 VESA     343 1280x960x32 VESA     344 1280x1024x32 VESA
345 1400x1050x32 VESA     346 1600x1200x32 VESA     347 1792x1344x32 VESA
348 1856x1392x32 VESA     349 1920x1440x32 VESA     34A 1366x768x8 VESA
34B 1366x768x16 VESA     34C 1366x768x32 VESA     34D 1680x1050x8 VESA
34E 1680x1050x16 VESA     34F 1680x1050x32 VESA     350 1920x1200x8 VESA
351 1920x1200x16 VESA     352 1920x1200x32 VESA     353 2048x1536x8 VESA
354 2048x1536x16 VESA     355 2048x1536x32 VESA     356 320x240x8 VESA
357 320x240x16 VESA       358 320x240x32 VESA       359 400x300x8 VESA
35A 400x300x16 VESA       35B 400x300x32 VESA       35C 512x384x8 VESA
35D 512x384x16 VESA       35E 512x384x32 VESA       35F 854x480x8 VESA
360 854x480x16 VESA       361 854x480x32 VESA       362 1280x720x8 VESA
363 1280x720x16 VESA       364 1280x720x32 VESA       365 1920x1080x8 VESA
366 1920x1080x16 VESA     367 1920x1080x32 VESA     368 1280x800x8 VESA
369 1280x800x16 VESA       36A 1280x800x32 VESA       36B 1440x900x8 VESA
36C 1440x900x16 VESA       36D 1440x900x32 VESA       36E 720x480x8 VESA
36F 720x480x16 VESA       370 720x480x32 VESA       371 720x576x8 VESA
372 720x576x16 VESA       373 720x576x32 VESA       374 800x480x8 VESA
375 800x480x16 VESA       376 800x480x32 VESA       377 1280x768x8 VESA
378 1280x768x16 VESA       379 1280x768x32 VESA
Enter a video mode or "scan" to scan for additional modes: _
```

5. Acronis True Image OEM が起動するまで待つてから、[ようこそ] 画面がモニタ上に適切に表示されていることを確認します。

他のビデオモードをテストするには、Acronis True Image OEM を閉じてから上記の手順を繰り返してください。

ハードウェアに最適なビデオモードを見つけたら、そのビデオモードを自動的に選択する新しいブータブルメディアを作成できます。

これを行うには、Acronis メディアビルダー を起動して目的のメディアコンポーネントを選択し、[ブータブルメディアの起動パラメータ] のステップにおいてコマンドラインに接頭辞「0x」を付加してモードの番号を入力（この例では「0x338」）してから、通常通りにメディアを作成します。

Acronis Startup Recovery Manager

注意

ご使用のエディションでは一部の機能を使用できない場合があります。

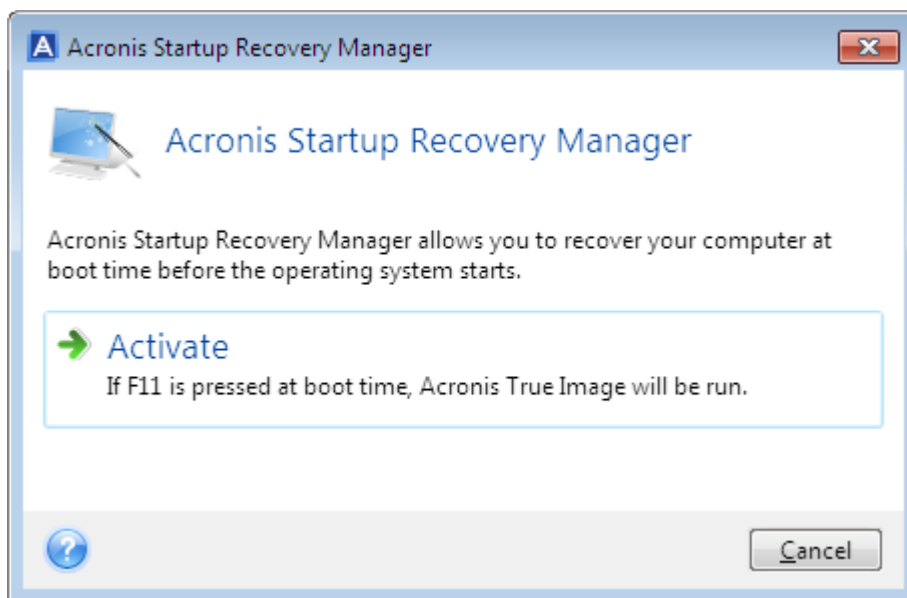
Acronis Startup Recovery Manager を使用すると、オペレーティングシステムを読み込まずに Acronis True Image OEM を起動することができます。この機能を利用すれば、オペレーティングシステムが起動しなくなったときでも、Acronis True Image OEM を使用して、破損したパーティションをリカバリすることができます。Acronis のリムーバブルメディアからコンピューターを起動する場合とは異なり、Acronis True Image OEM の起動時には独立したメディアやネットワーク接続は必要ありません。

注意

Acronis Startup Recovery Manager は Windows を実行しているタブレットでは使用できません。

Acronis Startup Recovery Manager を有効化する手順は、次のとおりです

1. Acronis True Image OEM を開始します。
2. [ツール] セクションで [すべてのツール] をクリックし、[Acronis Startup Recovery Manager を有効化する] をダブルクリックします。
3. 表示されたウィンドウで、[アクティブ化する] をクリックします。



障害が発生した場合、コンピューターの電源を投入し、「Press F11 for Acronis Startup Recovery Manager」というメッセージが表示されたら F11 キーを押します。これによってスタンドアロン版の Acronis True Image OEM が起動します。このスタンドアロン版と完全版との違いはごくわずかです。

Acronis Startup Recovery Manager を無効化する手順は、次のとおりです

1. Acronis True Image OEM を開始します。
2. [ツール] セクションで [すべてのツール] をクリックし、[Acronis Startup Recovery Manager を有効化する] をダブルクリックします。
3. 表示されたウィンドウで、[無効化] をクリックします。

追加情報

スタンドアロンモードの Acronis True Image OEM で使用されるドライブ文字は、Windows がドライブの識別に使用する文字と異なる場合があります。たとえば、スタンドアロンの Acronis True Image OEM での D: ディスクが、Windows の E: ディスクに対応していることもあります。ディスクのラベル、パーティション サイズ、ファイル システム、ドライブの性能、メーカー、およびモデル番号に関する情報を参照することによって、ディスクおよびパーティションを正しく特定することができます。

Acronis Startup Recovery Manager の、他のローダーに対する影響

Acronis Startup Recovery Manager を有効化すると、MBR（マスターブートレコード）が Startup Recovery Manager のブートコードで上書きされます。サードパーティ製のブート マネージャがインストールされている場合は、スタートアップ リカバリ マネージャをアクティブ化した後に、そのブート マネージャを再度アクティブ化する必要があります。Linux ローダー（LiLo や GRUB など）の場合は、

Acronis Startup Recovery Manager を有効にする前に、MBR ではなく Linux のルート（またはブート）パーティションブートレコードへのローダーのインストールを検討してください。

UEFI ブート メカニズムは BIOS のものと異なります。任意の OS ローダーまたはその他のブート プログラムは、対応するローダーへのパスを定義する、独自のブート変数を持ちます。すべてのローダーは、EFI システム パーティションと呼ばれる特別なパーティションに保存されます。UEFI モードのシステムで、Acronis Startup Recovery Manager を有効化すると、独自のブート変数が書き込まれ、ブート順序が変更されます。この変数は変数のリストに追加されますが、リスト内の変数自体は変更されません。すべてのローダーは独立しており、相互に影響しないため、Acronis Startup Recovery Manager の有効化の前後で、特に変更は必要ありません。

新しいハードディスクの追加

注意

ご使用のエディションでは一部の機能を使用できない場合があります。

ディスクの空き領域が不足してデータを保存できなくなったときには、古いハードディスクを新しい大容量のハードディスクに交換するか、データ保存専用の新しいハードディスクを追加して古いハードディスクのシステムをそのまま残しておきます。

新しいハードディスクを追加する手順は、次のとおりです。

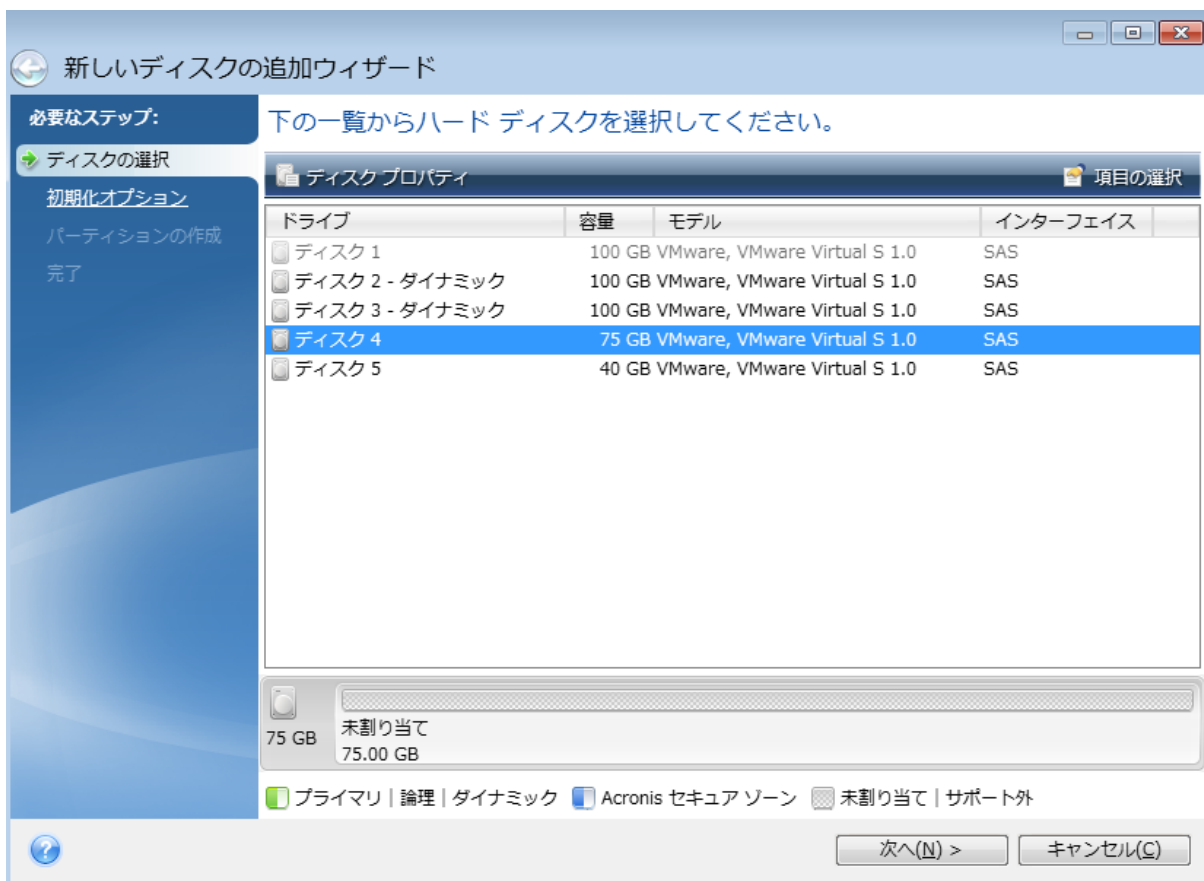
1. コンピュータをシャットダウンしてから、新しいディスクをインストールします。
2. コンピュータの電源を入れます。
3. **[スタート]** ボタン > **[Acronis]**（製品フォルダ） > **[新しいディスクの追加]** の順にクリックします。
4. ウィザードの手順に従います。
5. **[完了]** で、ディスクレイアウトが望みどおりに設定されていることを確認してから、**[実行]** をクリックします。

ハードディスクの選択

コンピュータに追加したハードディスクを選択します。複数のハードディスクを追加した場合は、そのうちの1台を選択し、**[次へ]** をクリックして先に進みます。後で、新しいディスクの追加ウィザードを起動し、別のディスクを追加することもできます。

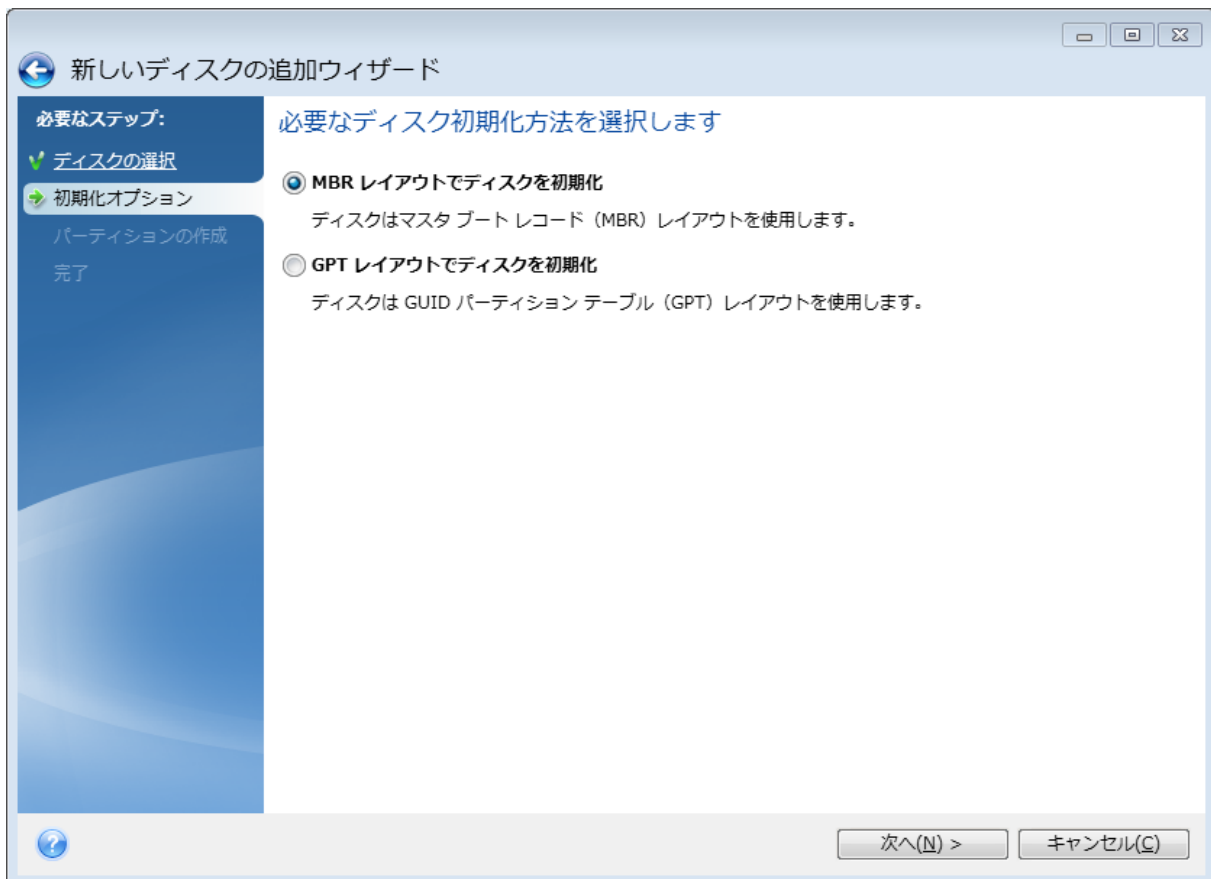
注意

新しいディスクにパーティションがあると、これらのパーティションは削除されるという警告メッセージが Acronis True Image OEM に表示されます。



初期化方法の選択

Acronis True Image OEM は MBR と GPT の両方のパーティショニングに対応しています。GUID パーティション テーブル (GPT) は、ハード ディスクの新しいパーティショニング方法であり、従来の MBR よりもパーティショニング方法として優れています。オペレーティング システムが GPT ディスクをサポートする場合、新しいディスクを GPT ディスクとして初期化することを選択できます。



- GPT ディスクを追加するには、[GPT レイアウトでディスクを初期化する] をクリックします。
- MBR ディスクを追加するには、[MBR レイアウトでディスクを初期化する] をクリックします。

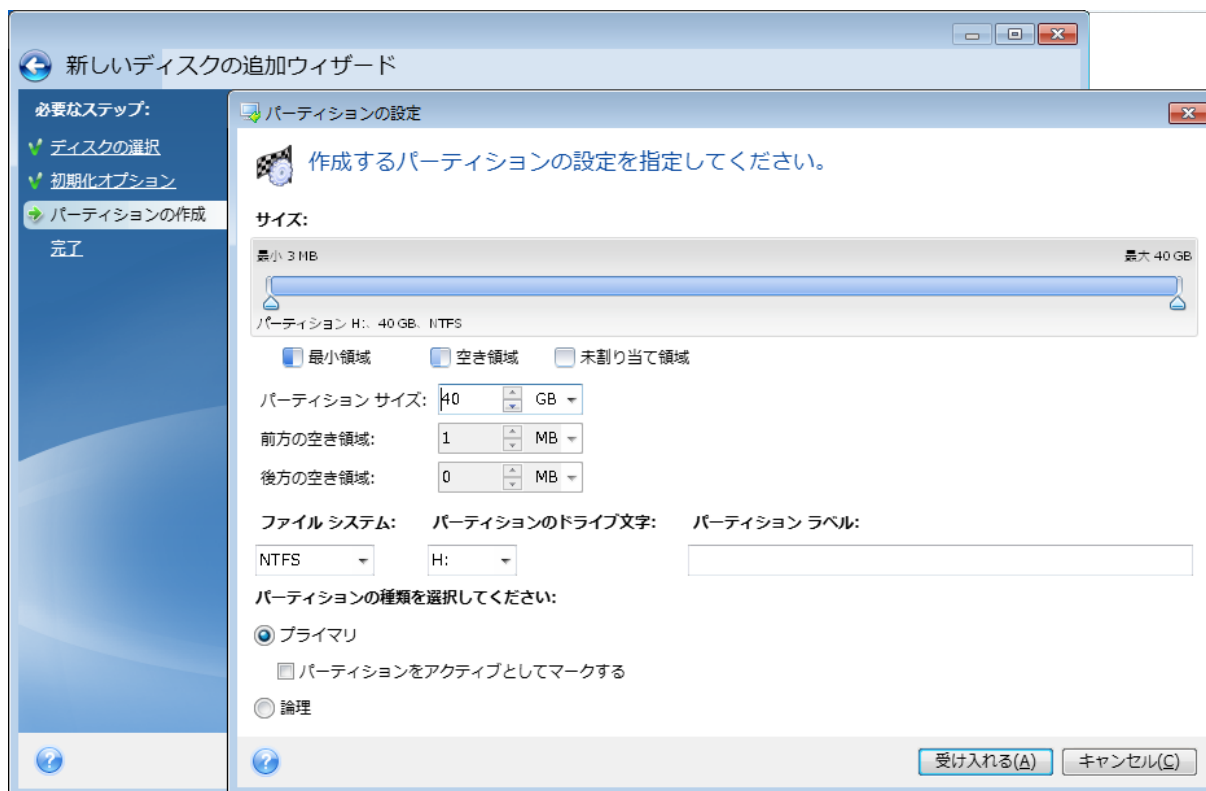
該当の初期化方法を選択したら、[次へ] をクリックします。

新しいパーティションの作成

ハードディスクの空き領域を使用するには、パーティションが作成されている必要があります。パーティショニングは、ハードディスクの空き領域を、パーティションと呼ばれる論理領域に分割する処理です。パーティションごとに、ドライブ文字を割り当てたり、独自のファイルシステムをインストールしたりして、別々のディスクとして利用することができます。

新しいパーティションを作成する手順は、次のとおりです。

1. ウィザードの [パーティションの作成] で未割り当て領域を選択してから、[新しいパーティションを作成する] をクリックします。
2. 作成するパーティションについて、以下の設定を指定します。
 - サイズと位置
 - ファイル システム
 - パーティションの種類 (MBRディスクでのみ使用可能)
 - パーティションのドライブ文字とラベル詳細については、「[パーティションの設定](#)」を参照してください。
3. [確定] をクリックします。



パーティションの設定

サイズ

パーティションのサイズを変更するには、以下のいずれかを実行します。

- パーティションの境界にマウスカーソルを置きます。カーソルが二重矢印になったら、この二重矢印をドラッグしてパーティションのサイズを拡大または縮小します。
- 希望するパーティションのサイズを [パーティション サイズ] フィールドに入力します。

パーティションを移動するには、以下のいずれかを実行します。

- パーティションを新しい位置までドラッグします。
- 希望するサイズを [前方の空き領域] フィールドまたは [後方の空き領域] フィールドに入力します。

注意

パーティションを作成する場合は、作成パーティションの前にシステムのニーズに合わせて未割り当て領域が予約されることがあります。

ファイルシステム

パーティションをフォーマットしないままにするか、または次のファイルシステムの種類から選択することができます。

- [NTFS] は、Windows NT、Windows 2000、Windows XP以降のオペレーティングシステムのネイティブのファイルシステムです。これらのオペレーティングシステムを使用している場合に選択して

ください。Windows 95/98/Me および DOS からは、NTFS パーティションにアクセスできないことに注意してください。

- **[FAT32]** は、FAT ファイル システムの 32 ビット版で、最大 2 TB のボリュームをサポートします。
- **[FAT 16]** は、DOS ネイティブのファイル システムです。ほとんどのオペレーティングシステムはこのファイル システムを認識します。ただし、ディスク ドライブのサイズが 4 GB を超える場合は、FAT16 でフォーマットすることはできません。
- **[Ext2]** は、Linux ネイティブのファイル システムです。十分に高速ですが、ジャーナリング ファイル システムではありません。
- **[Ext3]** は、Red Hat Linux Version 7.2 で正式に導入された、Linux のジャーナリング ファイル システムです。Ext2 との上位および下位互換性があります。複数のジャーナリング モードを備え、32 ビットおよび 64 ビット アーキテクチャの双方で、プラットフォームに依存しない幅広い互換性を実現します。
- **[Ext4]** は、Linux の新しいファイル システムです。このシステムでは、ext3 よりも機能が拡張されています。このシステムでは、ext2 および ext3 に対する下位互換性が完全に維持されています。ただし、ext3 の ext4 に対する上位互換性は限定的です。
- **[ReiserFS]** は、Linux のジャーナリング ファイル システムです。一般的に Ext2 より信頼性が高く高速です。Linux のデータ パーティションにはこれを選択します。
- **[Linux Swap]** は、Linux 用のスワップ パーティションです。Linux 用のスワップ領域を広げる必要がある場合に選択してください。

ドライブ文字

パーティションに割り当てるドライブ文字を選択します。**[自動]** を選択すると、アルファベット順で最初の未使用のドライブ文字が割り当てられます。

パーティション ラベル

パーティション ラベルは、パーティションを簡単に識別できるように割り当てる名前です。たとえば、オペレーティングシステムがインストールされているパーティションは System、データが保存されているパーティションは Data、などのように名前を付けます。パーティション ラベルはオプションの属性です。

パーティションの種類（これらの設定は、MBR ディスクのみで利用できます）

新しいパーティションの種類を「プライマリ」または「論理」として指定することができます。

- **プライマリ**: このパーティションからコンピュータを起動できるようにする場合は、このパラメータを選択します。それ以外の場合は、論理ドライブとして作成することをおすすめします。各ドライブを、4 つのプライマリ パーティションだけにするか、または 3 つのプライマリ パーティションと 1 つの拡張パーティションにすることができます。

注意

複数のプライマリパーティションがある場合に、アクティブになるのは一度に1つだけです。他のプライマリパーティションは隠しパーティションとなり、オペレーティングシステムからアクセスできなくなります。

- **パーティションをアクティブとしてマークする:** このパーティションにオペレーティングシステムをインストールする予定の場合は、このチェック ボックスをオンにします。
- **[論理]:** このパーティションにオペレーティングシステムをインストールして起動する予定がない場合は、このパラメータを選択します。論理ドライブは、パーティション分割されて独立した単位として割り当てられた物理ディスクの一部ですが、それぞれ別のドライブとして機能します。

セキュリティ ツールおよびプライバシー ツール

Acronis DriveCleanser

注意

ご使用のエディションでは一部の機能を使用できない場合があります。

Acronis DriveCleanser では、選択したハードディスクやパーティション上のすべてのデータを完全に消去できます。この消去には、既存のアルゴリズムのいずれかを使用するか、専用のアルゴリズムを作成できます。詳細については、「[アルゴリズムの選択](#)」を参照してください。

ハード ディスク ドライブのクローン作成が必要な理由

破棄対象の古いハード ディスク ドライブがフォーマットされている場合、データは完全に消去されないため、取得されてしまう可能性があります。これにより、個人情報が不正に利用されることも考えられます。こうしたことが起こらないよう、次に当てはまる場合は Acronis DriveCleanser を使用することをお勧めします。

- 古いハード ディスク ドライブを新しいハード ディスク ドライブに交換し、古いドライブをこれ以上使用する予定がない。
- 古いドライブを親戚や友人に譲る。
- 古いハード ディスク ドライブを売却する。

使用方法Acronis DriveCleanser

ディスク上のデータを完全に消去する手順は、次のとおりです。

1. **[スタート]** ボタン > **[Acronis]** (製品フォルダ) > **[Acronis DriveCleanser]** の順にクリックします。
Acronis DriveCleanser ウィザードが開きます。
2. **[ソースの選択]** で、消去するディスクとパーティションを選択します。詳細については、「[ソースの選択](#)」を参照してください。



3. **[アルゴリズムの選択]** で、データの消去に使用するアルゴリズムを選択します。詳細については、「**アルゴリズムの選択**」を参照してください。
4. (オプションの手順) 専用のアルゴリズムを作成することもできます。詳細については、「**ユーザー定義アルゴリズムの作成**」を参照してください。
5. (オプションの手順) **[消去後の処理]** で、データの消去が完了したときのパーティションやディスクの処理方法を選択します。詳細については、「**消去後の処理**」を参照してください。
6. **[完了]** で、指定した設定が正しいことを確認します。処理を開始するには、**[選択されているパーティションを完全に消去する]** チェック ボックスをオンにし、**[実行]** をクリックします。

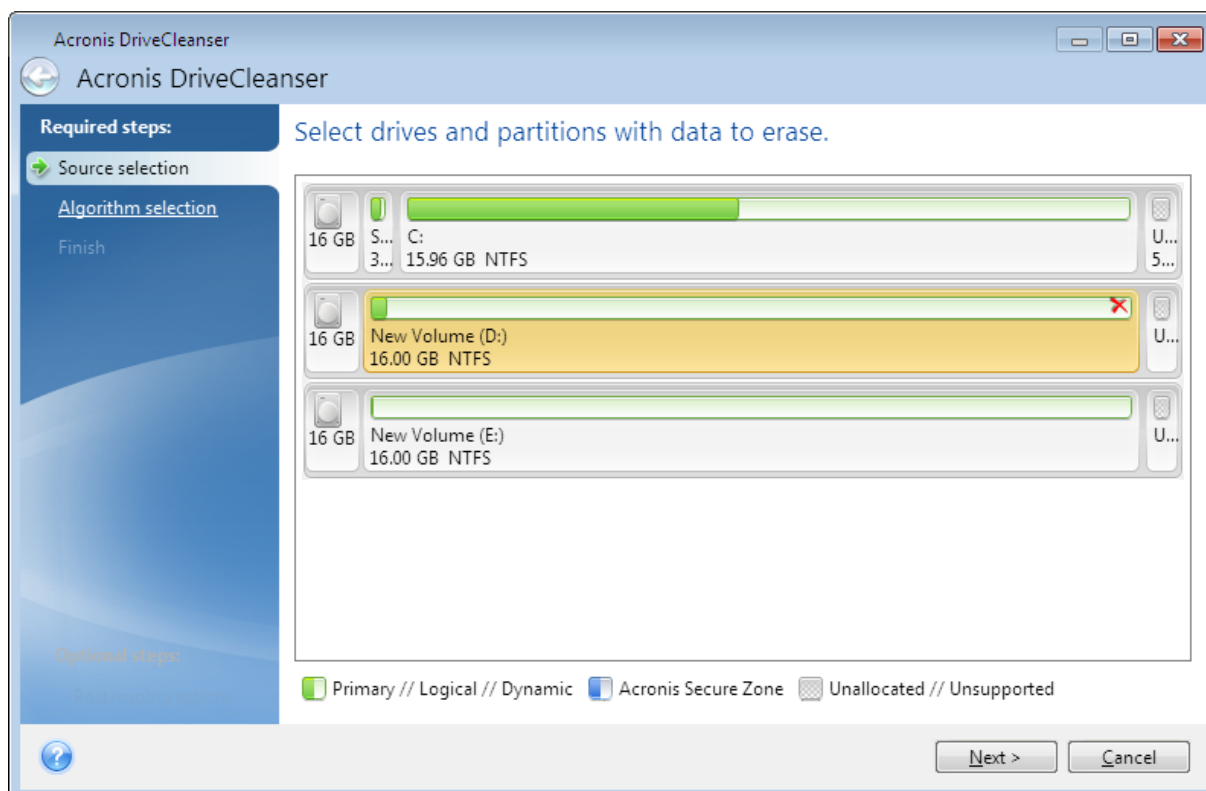
警告

選択したパーティションの合計サイズと選択したデータ消去アルゴリズムによっては、データ消去に数時間がかかることがあります。

ソースの選択

[ソースの選択] で、データを消去するディスクとパーティションを選択します。

- パーティションを選択するには、該当する四角形をクリックします。赤いマーク () は、そのパーティションが選択されていることを示します。
- ハードディスク全体を選択するには、ディスクアイコン () をクリックします。



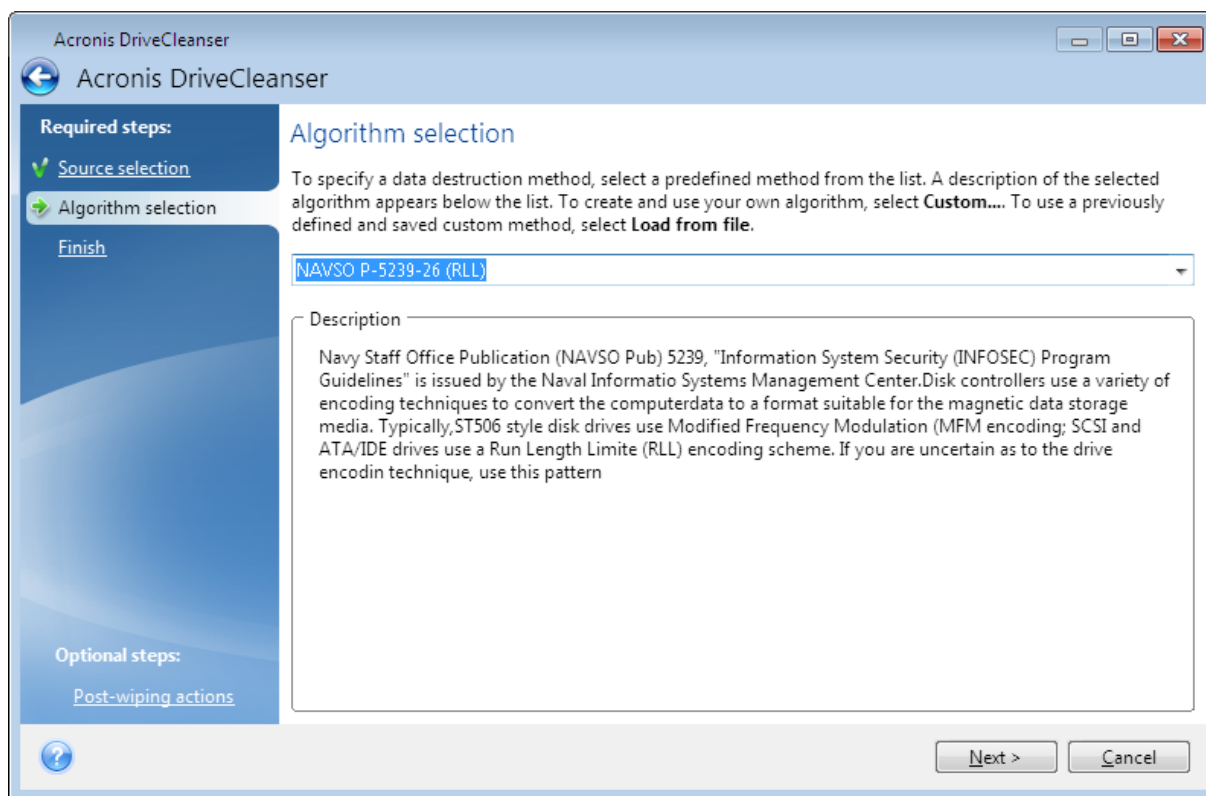
注意

Acronis DriveCleanser は、ダイナミックディスクおよび GPT ディスクのパーティションを削除できないため、これらのパーティションは表示されません。

アルゴリズムの選択

[**アルゴリズムの選択**] で、以下のいずれかを実行します。

- 既存のアルゴリズムのいずれかを使用するには、希望するアルゴリズムを選択します。詳細については、「**ハードディスクの消去方法**」を参照してください。
- (上級ユーザーのみ) ユーザー定義アルゴリズムを作成するには、[**ユーザー定義**] を選択します。**[アルゴリズムの定義]** でアルゴリズムの作成を続けます。後で、作成したアルゴリズムを拡張子 .alg のファイルに保存することができます。
- 以前保存したユーザー定義アルゴリズムを使用するには、[**ファイルから読み込む**] を選択し、アルゴリズムが保存されているファイルを選択します。



ハード ディスクの消去方法

情報をハード ディスクから削除するときに、安全ではない手段 (たとえば Windows での単純な削除) を使用すると、その情報は簡単にリカバリできてしまいます。特殊な機器を使用すれば、繰り返し書きされた情報でもリカバリできます。

ハード ディスクに格納されるデータは、1 と 0 の 2 進数のシーケンスとなっており、このことはディスクの部分ごとに磁化を変化させるという方法で表現されます。一般的に言って、ハード ディスクに書き込まれた 1 はハードディスク コントローラによって 1 として読み取られ、0 は 0 として読み取られま

す。ただし、0に1を上書きすると、ある条件の下ではその結果は0.95となり、1を1に上書きすると結果は1.05となります。このような違いは、コントローラにとっては無関係です。しかし、特殊な機器を使用すれば、「下に隠れている」0と1のシーケンスを簡単に読み取ることができます。

情報の抹消方法

情報の抹消を保証する技術に関する具体的な理論は、Peter Gutmann氏による論文で紹介されています。『Secure Deletion of Data from Magnetic and Solid-State Memory』

(https://www.cs.auckland.ac.nz/~pgut001/pubs/secure_del.html) を参照してください。

No.	アルゴリズム (書き込み方法)	工程数	記録
1.	米国国防省準拠DoD 5220.22-M方式	4	第1工程 - ランダムに選択された記号を各バイトの各セクタに書き込みます。第2工程 - 第1工程で書き込まれた値の補数を書き込みます。第3工程 - ランダムな記号を再び書き込みます。第4工程 - 書き込み結果を確認します。
2.	米国海軍準拠 NAVSO P- 5239-26-RLL 方式	4	第1工程 - 0x01を全セクタに書き込みます。第2工程 - 0x27FFFFFFを書き込みます。第3工程 - ランダムな記号のシーケンスを書き込みます。第4工程 - 確認します。
3.	米国海軍準拠 NAVSO P- 5239-26- MFM方式	4	第1工程 - 0x01を全セクタに書き込みます。第2工程 - 0x7FFFFFFFを書き込みます。第3工程 - ランダムな記号のシーケンスを書き込みます。第4工程 - 確認します。
4.	ドイツVSITR 方式	7	第1～第6工程 - 0x00と0xFFを交互に書き込みます。第7工程 - 0xAAを書き込みます。つまり、0x00、0xFF、0x00、0xFF、0x00、0xFF、0xAAとなります。
5.	ロシアGOST P50739-95方 式	1	論理ゼロ (数値 0x00) を各セクタの各バイトに書き込みます (セキュリティレベルが6～4のシステムの場合)。 ランダムに選択された記号 (数値) を各セクタ各バイトに書き込みます (セキュリティレベルが3～1のシステムの場合)。
6.	グートマン (Peter Gutmann) 方 式	35	非常に高度な方式。この方式は、ハードディスクの情報抹消についてのPeter Gutmann氏の理論に基づいている (『 Secure Deletion of Data from Magnetic and Solid-State Memory 』を参照)。
7.	Bruce Schneier方式	7	Bruce Schneierが著書『応用暗号論』で提唱している7回の工程で上書きする方法。第1工程では0xFF、第2工程では0x00を書き込み、その後の5工程では暗号学的にセキュリティの高い擬似ランダムシーケンスを書き込みます。
8.	高速	1	全セクタに対して論理値ゼロ (数値0x00) で抹消。

ユーザー定義アルゴリズムの作成

消去アルゴリズムの定義

[**アルゴリズムの定義**]には、これから作成するアルゴリズムのテンプレートが表示されます。

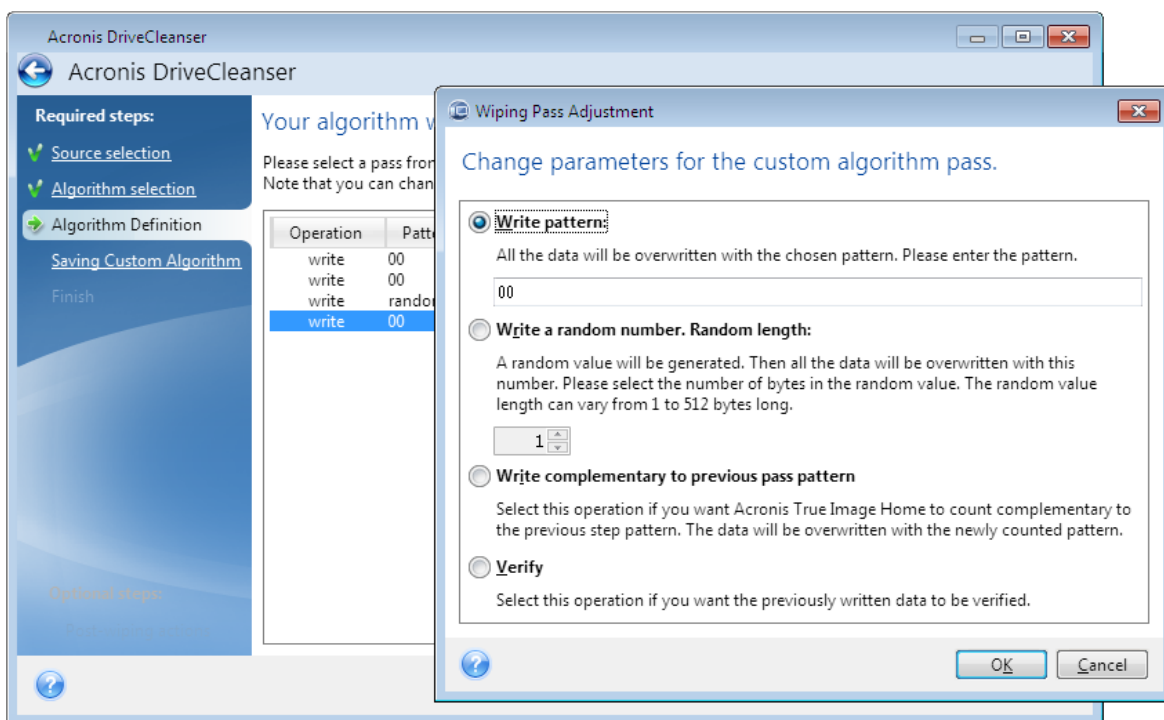
この表には次の内容が表示されています。

- 最初の列は処理の種類（記号をディスクに書き込む、書き込みを検証する）を示します。
- 2番目の列はディスクに書き込むデータのパターンを示します。

各行で、工程の際に実行する処理を定義します。アルゴリズムを作成するには、この表に、データを安全に消去するのに十分と思われる行を追加します。

新しい工程を追加する手順は、次のとおりです。

1. [**追加**] をクリックします。[消去時の工程の調整] ウィンドウが表示されます。



2. オプションを選択します。

- **パターンを書き込む**

0x00、0xAA、0xCDなど、16進数の値を入力します。これらの値は1バイトの長さですが、512バイトまで設定できます。このような値以外にも、512バイトまでの任意の長さで16進数のランダム値を入力できます。

注意

バイナリ値が10001010 (0x8A) の場合、この補数のバイナリ値は01110101 (0x75) となります。

- **ランダムな値を書き込む。ランダムな長さ**

ランダムな値の長さをバイト単位で指定します。

- **前工程のパターンの補数を書き込む**

Acronis True Image OEM は前工程でディスクに書き込まれた値に補足値を追加します。

- **ベリファイ**

Acronis True Image OEM は前工程でディスクに書き込まれた値を検証します。

3. **[OK]** をクリックします。

既存の工程を編集する手順は、次のとおりです。

1. 該当する行を選択して **[編集]** をクリックします。
[消去時の工程の調整] ウィンドウが表示されます。

注意

複数の行を選択した場合、新しい設定は選択した工程すべてに適用されます。

2. 設定を変更して **[OK]** をクリックします。

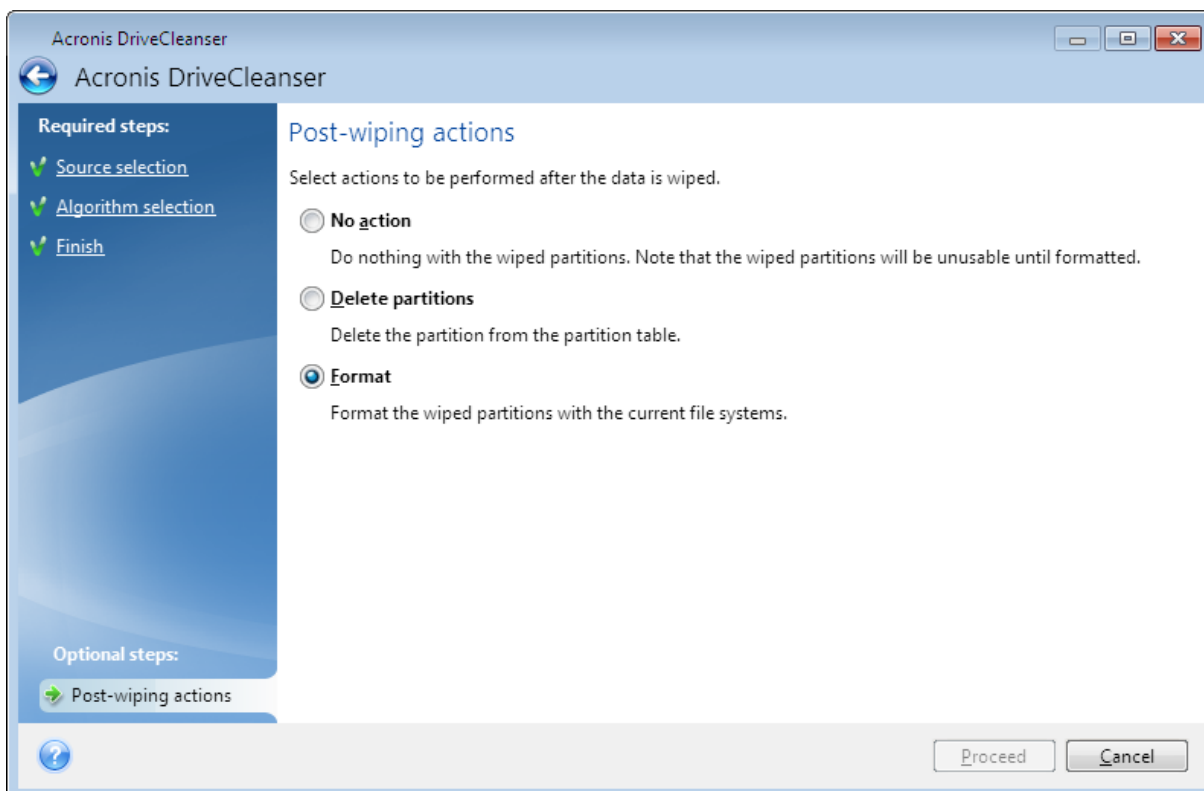
ファイルへのアルゴリズムの保存

1. **[ユーザー定義消去アルゴリズムの保存]** で、**[ファイルに保存]** を選択して **[次へ]** をクリックします。
2. 表示されるウィンドウで、ファイルの名前と場所を指定し、**[OK]** をクリックします。

消去後の処理

[消去後の処理] ウィンドウでは、データ消去対象として選択されたパーティションに対して実行する処理を選択できます。Acronis DriveCleanser では、3つのオプションが用意されています。

- **[何もしない]**: 以下で選択されているアルゴリズムを使用してデータの消去のみを行います。
- **[パーティションを削除する]**: データを消去して、パーティションを削除します。
- **[フォーマットする]**: データを消去して、パーティションをフォーマットします (デフォルト)。



バックアップイメージのマウント

イメージを仮想ドライブとしてマウントすると、物理ドライブのようにファイルにアクセスできます。パーティションまたはディスクドライブ全体を含むローカルバックアップをマウントしてから、マウントするパーティションを選択することができます。マウント後:

- マウントされたパーティションごとに、新しいディスクがシステムに表示されます。
- File Explorerやその他のファイルマネージャでイメージの内容を読み取り専用モードで確認できます。

注意

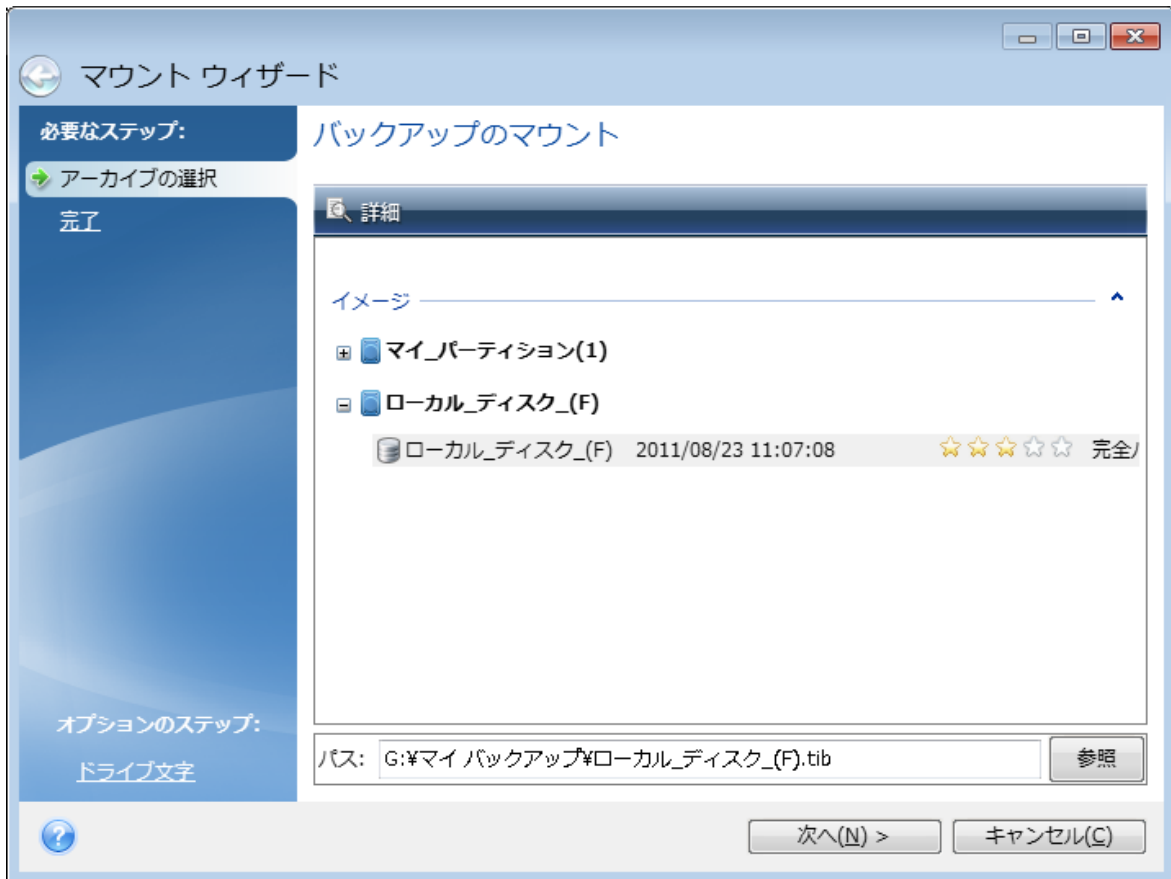
このセクションで説明した処理は、FAT および NTFS でファイル システムでのみサポートされます。

注意

ディスク バックアップが FTP サーバーに保存されている場合には、マウントできません。

イメージのマウント方法

1. File Explorer で、マウントするイメージファイルを右クリックし、**[マウント]** をクリックします。マウント ウィザードが開きます。
2. 作成日時に基づいてマウント対象のバックアップを選択します。これにより、特定時点のデータの状態を参照できます。



3. (オプションの手順) [ドライブ文字] で、仮想ディスクに割り当てる文字を [マウント ドライブ文字] ドロップダウン リストから選択します。パーティションをマウントしない場合は、ドロップダウン リストから [マウントしない] を選択するか、該当するパーティションのチェックボックスをオフにします。
4. [実行] をクリックします。
5. イメージが接続されると、File Explorerが起動し、仮想ディスクの内容が表示されます。

イメージのアンマウント

仮想ディスクの維持にはかなりのシステム リソースが消費されるため、必要な操作がすべて終了したら、仮想ディスクをマウント解除することをおすすめします。

イメージをマウント解除する手順は、次のとおりです。

1. File Explorerで、ディスクアイコンを右クリックして、[マウント解除] をクリックします。
2. コンピュータを再起動するかシャットダウンします。

.vhd (x) ファイルの使用方法

ディスクまたはパーティションの Acronis バックアップ (.tib ファイル) は、仮想ハードディスク (.vhd (x) ファイル) に変換することができます。

.vhd (x) ファイルの使用方法

- 変換した .vhd (x) ファイルからコンピュータを起動して、バックアップが有効かどうか、また起動可能なオペレーティングシステムに復元できるかどうかをテストできます。
- 変換した .vhd (x) ファイルは、緊急時用に保管できます。たとえば、コンピュータが起動しないけれども、すぐに稼働する必要がある場合、.vhd (x) ファイルから起動できます。
- Windows 7 では、.vhd (x) ファイルを追加ドライブとしてマウントできます。.vhd (x) ファイルには、システムまたはシステム以外のどのようなパーティションでも含めることができます。
- 変換した .vhd (x) ファイルは、仮想コンピュータとして稼働することができます。

制限事項と追加情報

- ファイルのバックアップは、.vhd (x) ファイルに変換できません。
- 変換された .vhd (x) ファイルから起動するには、以下を含む必要があります。
 - 同じコンピュータのシステムパーティション。同じ .vhd (x) ファイルを使用して、他のコンピュータを起動することはできません。
 - Windows 7以降のオペレーティングシステム。
- 起動済みまたはマウント済みの .vhd (x) ファイルに加えた変更は .vhd (x) ファイルに保存されません。.vhd (x) ファイルから起動し、バックアップされなかったデータに変更を加えた場合、変更はライブシステムに影響を及ぼします。
- ブータブルメディアからの起動時に開始されるスタンドアロン版 Acronis True Image OEM では、変換処理がサポートされていません。
- Acronis True Image OEM は、元々複数のディスクドライブにあったダイナミックボリュームを含む .tib ファイル (スパンまたはストライプダイナミックボリュームなど) を変換できません。

Acronis バックアップの変換

Windows 7以降のバージョンのEnterpriseエディションまたはUltimateエディションを使用している場合は、システムパーティションの .tib イメージを .vhd (x) 形式に変換しておくこと、変換後の .vhd (x) ファイルを使用してオペレーティングシステムを起動できるようになります。また、Acronis True Image OEM を使用しなくてもイメージをマウントできるようになります。

Acronis のディスクイメージ (.tib ファイル) を Windows バックアップ (.vhd (x) ファイル) に変換する手順は、次のとおりです。

1. Acronis True Image OEM を開始します。
2. **[バックアップ]** セクションに移動します。
3. バックアップリストで、変換するバックアップの横にある下矢印アイコンをクリックし、**[VHDに変換]** をクリックします。

バックアップがパスワードで保護されている場合は、Acronis True Image OEM からパスワードの入力を求められます。作成された .vhd (x) ファイルはパスワードで保護されないことに注意してください。
4. 変換するバックアップのバージョンを選択します。

増分バックアップを変換するには、それ以前のすべての増分バックアップと、元の完全バックアップが必要です。差分バックアップを変換するには、元の完全バックアップが必要です。変換の結果は必ず、完全バックアップになります。

5. 作成するファイルのパスを指定します。

ファイルを作成する場所は、Acronis True Image OEM によってサポートされるローカルストレージであればどれでもかまいません（Acronis Secure Zone と CD/DVD を除く）。さらに、SMB 共有に格納することもできます。

6. [オプションの手順] バックアップが変換されている間、**[完了後に仮想コンピュータを起動する]**

チェックボックスをオンにすることができます。オンになっている場合、Acronis True Image OEM はコンピューターを再起動し、作成された .vhd (x) ファイルを使用して Hyper-V 仮想マシンを実行します。

変換対象として選択した .tib イメージに含まれるパーティションが、たとえば2つの物理ハードディスクドライブからのものである場合は、物理ドライブに合わせて2つの .vhd (x) ファイルが作成されます。

バックアップ設定のインポートとエクスポート

Acronis True Image OEM を使用して、バックアップ設定をインポートおよびエクスポートすることができます。この機能は、新しいコンピューターに Acronis True Image OEM をインストールした後に、設定を転送する必要がある場合に便利です。また、設定を保存することで、次のバージョンの Acronis True Image OEM へのアップグレードも簡単に行えるようになります。

設定を転送することにより、新しいコンピューターでのバックアップの設定が大幅に簡単になります。設定をエクスポートして、それを別のコンピューターにインポートするだけです。設定は、スクリプト ファイルの形式でエクスポートされます。

設定の内容は、バックアップの種類に応じて異なります。「クラシック」ディスクのバックアップとファイルのバックアップの場合、設定は次の項目で構成されます。

- バックアップの項目一覧
- バックアップ オプション
- バックアップの保存先
- スケジュール
- バックアップ スキーム
- 自動クリーンアップのルール
- バックアップ バージョンの命名規則

ノンストップバックアップの設定は次のとおりです。

- ノンストッププロテクションの項目一覧
- ノンストップバックアップデータの保存場所（保存場所が複数存在する場合は、保存場所の一覧）

注意

あるコンピューターのオンラインバックアップ設定を別のコンピューターにインポートすることはできません。

バックアップの設定をエクスポートする手順は、次のとおりです。

1. Acronis True Image OEM を開始します。
2. サイドバーで、**[設定]** > **[バックアップ設定の転送]** とクリックし、**[設定をファイルに保存する]** をクリックして、スクリプトファイルと設定の保存先を参照します。

バックアップの設定をインポートする手順は、次のとおりです。

1. 別のコンピューターで Acronis True Image OEM を起動します。
2. サイドバーで、**[設定]** > **[バックアップ設定の転送]** とクリックし、**[ファイルから設定をインポートする]** をクリックして、スクリプトファイルのパスと設定を表示します。

設定をインポートした後に、新しい環境に合わせて一部の設定を変更しなければならないことがあります。たとえば、バックアップの項目一覧やバックアップの保存先などを変更しなければならないなどです。

別のコンピューターにバックアップをコピーする場合は、それらのバックアップの設定もエクスポートすることをお勧めします。これにより、コピーしたバックアップの機能を維持することができます。

トラブルシューティング

特に頻繁に発生する問題の解決

Acronis True Image OEM で特に頻繁に発生する問題のリストをここに示します。該当する解決策については [Acronis ナレッジベース](#) を参照してください。

ファイルエクスプローラーで参照するとき、ファイルとフォルダが表示されない

エラー「外付けドライブを接続してください」

新しいハードウェアへの復元後に、ドライブが見つからないことが原因でブルースクリーン（BSOD）エラー「Stop 0x0000007B」が発生する

一般的な解決策の一覧は、<https://kb.acronis.com/true-image-known-solutions> を参照してください。

復元の失敗に関するトラブルシューティング情報については、<https://kb.acronis.com/content/46340> も参照してください。

Acronis システムレポート

[システムレポートの生成] ツールを使うと、必要なすべての技術情報を含むシステムレポートが作成されます。この情報をファイルに保存し、必要に応じて、作成済みのファイルを問題報告に添付してサポートセンターに送信することができます。このようにツールを使えば、問題解決の手順を簡素化し、解決に要する時間を短縮することができます。

システムレポートを生成するには、以下のいずれかを実行します。

- サイドバーの **[ヘルプ]** をクリックして、**[システムレポートを生成する]** をクリックします。
- **Ctrl+F7** キーを押します。このキーの組み合わせは、Acronis True Image OEM が他の処理を実行中であっても使用できます。
- Windows 11 を使用する場合、**[すべてのアプリ]** > **[Acronis]** > **[Acronis System Report]** をクリックします。
- Windows 10 を使用する場合、**[スタート]** メニューで、**[Acronis]** > **[Acronis System Report]** をクリックします。
- Windows 7 または 8 を使用する場合、**[スタート]** > **[すべてのプログラム]** > **[Acronis]** > **[Acronis System Report]** をクリックします。

レポート生成後に、次の操作を行います。

- 生成されたシステムレポートを保存するには、**[保存]** をクリックし、表示されたウィンドウで、作成されるファイルの保存場所を指定します。
- レポートを保存せずにメインプログラムウィンドウを終了するには、**[キャンセル]** をクリックします。

コンピュータが起動しないときにシステムレポートを生成するための個別のコンポーネントとして、このツールをブータブルメディアに含めることができます。メディアから起動した後、Acronis True Image OEM を実行せずにレポートを生成できます。USB フラッシュドライブを接続し、**[Acronis**

System Report] アイコンをクリックします。生成されたレポートはUSBフラッシュドライブに保存されます。

Acronis System Report ツールをブータブルメディアに含める手順は、次のとおりです。

1. **Acronis メディアビルダー** ウィザードの **[レスキューメディアに追加するコンポーネントの選択]** ページで、**[Acronis System Report]** チェックボックスをオンにします。
2. 続行するには、**[次へ]** をクリックしてください。

コマンド プロンプトからのシステム レポートの作成

1. 管理者として Windows コマンドプロセッサ (cmd.exe) を実行します。
2. 現在のディレクトリを Acronis True Image OEM インストールフォルダに変更します。そのためには次のコマンドを入力します。

```
cd C:\Program Files (x86)\Acronis\TrueImageHome
```

3. システム レポート ファイルを作成するには、次のコマンドを入力します。

```
SystemReport
```

SystemReport.zip というファイルが現在のフォルダに作成されます。

レポート ファイルに別の名前を付けるには、次の <file name> の代わりに新しい名前を入力します。


```
SystemReport.exe /filename:<file name>
```

ブータブルメディアからシステムレポートを生成するには、次の手順を実行します。

1. Acronis ブータブルメディア がない場合は、作成します。詳細については、「[Acronis メディアビルダー](#)」を参照してください。
2. ブータブルメディア デバイス (CD、DVD、または USB ドライブ) が最初の起動デバイスになるように、BIOS で起動順を並べ替えます。詳細については、「[BIOS での起動順の並べ替え](#)」を参照してください。
3. Acronis ブータブルメディア から起動して、**[Acronis True Image OEM]** を選択します。

注意

[Acronis True Image OEM] をクリックする代わりに、USB フラッシュドライブを接続し、**[Acronis System Report]** をクリックすることもできます。この場合、レポートが生成されて、フラッシュドライブに自動的に保存されます。

4. **[ヘルプ]** アイコン () の横にある矢印をクリックして、**[システムレポートの生成]** を選択します。
5. レポート生成後は、**[保存]** をクリックし、表示されたウィンドウで、作成されたファイルを保存するロケーションを指定します。
レポートはZIPファイルにアーカイブされます。

Acronis Smart Error Reporting

プログラム処理でのエラーにより問題が発生すると、Acronis True Image OEM では、対応するエラーメッセージが表示されます。エラーメッセージには、イベントコードと、エラーの簡単な説明が含まれています。

インターネットに接続できる場合

エラーを修正するための解決策が掲載されている Acronis ナレッジベースの記事を表示するには、**[ナレッジベース]** ボタンをクリックします。

確認ウィンドウが開きます。このウィンドウには、インターネットを介して Acronis ナレッジベースに送信される情報が一覧表示されます。**[OK]** をクリックして、情報の送信を許可します。

以降は確認なしで情報を送信したい場合、**[常に確認なしで送信する]** チェックボックスをオンにします。

インターネットに接続できない場合

1. エラーメッセージウィンドウで、**[詳細]** をクリックし、イベントコードを書き留めてください。コードは次のようになります。
0x000101F6 - 通常のイベントコードの例です。
0x00970007+0x00970016+0x00970002 - 複合的なイベントコードの例です。この種のコードは、下位レベルのプログラムモジュールで発生したエラーが上位レベルのモジュールに影響した場合に表示されることがあります。
2. インターネットに接続している場合や、インターネット接続を利用できる別のコンピュータを利用できる場合は、<https://kb.acronis.com/errorcode/> でイベントコードを入力してください。

クラッシュダンプの収集方法

Acronis True Image OEM または Windows の異常終了はさまざまな理由で発生する可能性があるため、異常終了のそれぞれの状況を個別に調べる必要があります。Acronis カスタマーサービスに次のような情報を提供すると役に立つことがあります。

Acronis True Image OEM が異常終了した場合は、次の情報を提供してください。

1. 問題が発生する前に実行した手順の正確な順序の説明。
2. クラッシュダンプ。このようなダンプの収集方法については、Acronis サポートナレッジベース (KB) の記事 (<https://kb.acronis.com/content/27931>) を参照してください。

Acronis True Image OEM が原因で Windows が異常終了した場合は、次の情報を提供してください。

1. 問題が発生する前に実行した手順の正確な順序の説明。
2. Windows のダンプファイル。このようなダンプの収集方法については、Acronis サポート KB の記事 (<https://kb.acronis.com/content/17639>) を参照してください。

Acronis True Image OEM が異常停止した場合は、次の情報を提供してください。

1. 問題が発生する前に実行した手順の正確な順序の説明。
2. プロセスのユーザーダンプ。Acronis サポート KB の記事 (<https://kb.acronis.com/content/6265>) を参照してください。
3. Process Monitorのログ。Acronis サポート KB の記事 (<https://kb.acronis.com/content/2295>) を参照してください。

この情報にアクセスできない場合は、ファイルをアップロードするための FTP リンクについて Acronis カスタマーサービスに問い合わせてください。

これらの情報は解決策を見つけるための時間の短縮に役立ちます。

用語集

A

Acronis Active Protection

ランサムウェア（一部のファイルまたはシステム全体へのアクセスをブロックし、ブロック解除と引き換えに身代金を要求する悪意のあるソフトウェア）からデータを保護するテクノロジーです。このテクノロジーは、ヒューリスティックな方法に基づき、リアルタイムモードでコンピュータ上のプロセスを監視し、コンピュータ上のデータを暗号化しようとする試みをユーザーに通知します。ファイルが暗号化された場合でも、一時コピーまたはバックアップから復元できます。

Acronis Startup Recovery Manager

起動時に F11 キーを押すことでスタンドアロン版を開始できるようにする保護ツールです。Startup Recovery Manager を使用すると、ブータブルメディアが不要となります。Startup Recovery Manager は、モバイルユーザーには特に役に立ちます。障害や災害が発生した場合、ユーザーはコンピュータを再起動し、[Press F11 for Acronis Startup Recovery Manager...] というプロンプトに対して F11 キーを押して、通常のブータブルメディアと同じ方法でデータ復元を実行します。制限事項: ダイナミック ディスク上に作成することはできません。LILO や GRUB などのブート ロードを manuel で設定する必要があります。サードパーティ製のロードを再アクティブ化する必要があります。

Acronis 認証

公証済ファイルがバックアップ後に変更されたかどうかをユーザーが確認できるテクノロジーです。この認証では、公証対象として選択されたファイルのハッシュコードに基づきハッシュコードが計算され、ブロックチェーンベースのデータベースに送信されます。ブロックチェーン技術により、ハッシュコードが変更されないことが保証されま

す。したがって、確認するファイルのハッシュとデータベース内のハッシュを比較することで、ファイルの信頼性を簡単に確認できます。

て

ディスクバックアップ (イメージ)

ディスクまたはパーティションのセクタベースのコピーをパッケージした形式のバックアップです。通常はデータを含むセクタのみがコピーされますが、すべてのディスクセクタをそのままコピーするオプションも用意されています。これにより、サポートされていないファイルシステムのイメージ作成が可能になります。

は

バックアップ

バックアップ操作と同じです。バックアップ設定を使用して作成、管理するバックアップバージョンのセットです。バックアップには、完全バックアップと増分バックアップの両方の方法で作成された複数のバックアップバージョンが含まれる場合があります。同じバックアップに属するバックアップバージョンは、通常同じ場所に保存されます。

バックアップバージョン

単一のバックアップ操作の結果。物理的には、特定の日にバックアップされたデータのコピーを含む単独または一連のファイルです。Acronis True Image OEM によって作成されるバックアップバージョンファイルの拡張子は .tibx です。バックアップバージョンの統合による TIBX ファイルもバックアップバージョンと呼ばれます。

バックアップバージョンチェーン

最初の完全バックアップバージョンと、後続の1つまたは複数の増分または差分バックアップバージョンから構成される、最低2つのバックアップバージョンからなる一連のバックアップバージョンです。バックアップバージョンチェーンは、次の完全バックアップバージョン（存在する場合）まで続きます。

バックアップ設定

新しいバックアップの作成時にユーザーが設定するルールのセットです。このルールによって、バックアップ処理を制御します。後でバックアップ設定を編集し、バックアップ処理を変更または最適化することができます。

バックアップ操作

データを特定の日時の状態に戻すため、コンピュータのハードディスクに存在しているデータのコピーを作成する処理。

ふ

ブータブルメディア

Acronis True Image OEM のスタンドアロン版を含む物理メディア（CD、DVD、USB ドライブ、またはコンピュータの BIOS によって起動デバイスとしてサポートされるその他のメディア）。ブータブルメディアは次の操作に最もよく使用されます。起動できないオペレーティングシステムのリカバリ、破損したシステムで壊れずに残ったデータへのアクセスとバックアップ、ベアメタル上のオペレーティングシステムの配置、ベアメタル上のベーシックボリュームまたはダイナミックボリュームの作成、サポートされていないファイルシステムを持つディスクのセクタ単位のバックアップ。

へ

ベリファイ

特定のバックアップバージョンからデータを復元できるかどうかを確認する処理です。完全バックアップバージョンの場合、完全バックアップバージョンのみがベリファイされます。差分バックアップバージョンの場合、最初の完全バックアップバージョンと選択された差分バックアップバージョンがベリファイされます。増分バックアップバージョンの場合、最初の完全バックアップバージョン、選択された増分バックアップバージョン、および選択された増分バックアップバージョンまでのバックアップバージョンのチェーン全体（ある場合）がベリファイされます。このチェーンに差分バックアップバージョンが1つでも含まれている場合、（最初の完全バックアップバージョンおよび選択した増分バックアップバージョンに加えて）チェーン内の最新の差分バックアップバージョンのみがベリファイされ、その差分バックアップバージョンと選択した増分バックアップバージョンの間に作成された増分バックアップバージョンがあればそれらもすべてベリファイされます。

り

リカバリ

リカバリとは、壊れたデータをバックアップに保存されている以前の正常な状態に戻す処理のことです。

漢字

完全バックアップ

バックアップ対象として選択されたすべてのデータを保存するために使用されるバックアップ方法。完全バックアップバージョンを作成するバックアップ処理。

完全バックアップバージョン

バックアップ対象として選択されたすべてのデータを含む、それ自体で完結するバックアップバージョン。完全バックアップバージョンからデータを復元する場合は、他のバックアップバージョンにアクセスする必要はありません。

疑わしいプロセス

Acronis Active Protection では、動作のヒューリスティックを使用し、プログラム（プロセス）によって実行されるアクションのチェーンを分析して、悪意のある動作パターンのデータベースにあるイベントのチェーンと比較します。プログラムがランサムウェアと類似した動作をし、ユーザーのファイルを変更しようとする場合、疑わしいプログラムと見なされます。

公証

ファイルの状態を「記憶」し、この状態を本物として定義する処理です。Acronis 認証では、公証対象として選択されたファイルのハッシュコードに基づきハッシュコードが計算され、このハッシュコードがブロックチェーンベースのデータベースに送信されます。

公証済ファイル

Acronis 認証により公証されたファイル。ファイルは、認証バックアップに追加された後に公証済となり、そのハッシュコードがブロックチェーンベースのデータベースに送信されます。

差分バックアップ

バックアップ内で直近の完全バックアップバージョンが作成されてから変更されたデータの保存に使用されるバックアップ方法。差分バックアップバージョンを作成するバックアップ処理。

差分バックアップバージョン

差分バックアップバージョンには、前回の完全バックアップバージョンに対するデータの変更点が保存されます。差分バックアップバージョンからデータを復元するには、対応する完全バックアップバージョンにアクセスする必要があります。

増分バックアップ

バックアップ内で直近のバックアップバージョン（すべての種類）が作成されてから変更されたデータを保存するために使用されるバックアップ方法。増分バックアップバージョンを作成するバックアップ処理。

増分バックアップバージョン

前回のバックアップバージョンに対するデータの変更点が保存されるバックアップバージョン。増分バックアップバージョンからデータを復元するには、同じバックアップから他のバックアップバージョンにアクセスする必要があります。

認証バックアップ

Acronis 認証により公証されたファイルを含むバックアップ。

索引

.vhd (x) ファイルの使用方法 134-135

.wim ファイルからの .iso ファイルの作成 114

[

[アクティビティ] タブ 65

[バックアップ] タブ 66

[保護] ダッシュボード 97

1

1. PC全体のバックアップ「2つの完全バックアップ」 52

2

2. ファイル バックアップ

日単位の増分バックアップと週単位の完全バックアップ 53

3

3. ディスク バックアップ

完全バージョン 2 ヶ月ごとと差分バックアップ月 2 回 53

A

Acronis DriveCleanser 127

Acronis Nonstop Backup 33

Acronis Smart Error Reporting 140

Acronis Startup Recovery Manager 120

Acronis True Image OEM が SSD を認識しない場合の処理 105

Acronis True Image OEM とは 7

Acronis True Image OEM のアップグレード 12

Acronis True Image OEM のインストールとアンインストール 10

Acronis True Image OEMの有効化 11

Acronis True Image のアドバンス機能 12

Acronis システムレポート 138

Acronis ノンストップバックアップのデータストレージ 34

Acronis の特許取得済みの技術 6

Acronis バックアップの変換 135

Acronis ブータブルメディア の作成 17, 110

Acronis ブータブルメディア 起動パラメータ 111

Acronis メディアビルダー 109

Active Protection 97

B

BIOSまたはUEFI BIOSでの起動順の並べ替え 88

C

Changed Block Tracker (CBT) 29

F

FTP接続 31

H

HDDからSSDへのシステムの移行 105

N

Nonstop Backup - FAQ 35

Nonstop Backupの制限 33

P
PCのすべてのデータのバックアップ 17

S
SSD のサイズ 105

U
UEFIシステムへの復元の例 86

W
Windowsとの統合 36

あ
アクティブ化されている製品の数が多すぎる問題
11
アルゴリズムの選択 129

い
イベント発生時の実行パラメータ 47
イメージのアンマウント 134
イメージのマウント方法 133
イメージ作成モード 56
インターネットに接続できない場合 140
インターネットに接続できる場合 140

う
ウィザード 37

え
エラー処理 59

か
カスタム スキーム 51

カスタム スキームの例 52
カスタムバックアップスキームの管理 52

く
クラッシュダンプの収集方法 140
クラッシュ後のシステムの復元 71
クローン作成からの項目の除外 103

こ
コンピュータのシャットダウン 61
コンピュータのバックアップ中 15
コンピュータのリカバリ 21
コンピュータの再起動 92

さ
サイズ 125
サポートされているインターネット接続タイプ 9
サポートされるオペレーティング システム 8
サポートされるストレージ メディア 9
サポートされるファイル システム 8
サポートセンターのホームページ 14

し
システムの保護 15
システム要件とサポートされるメディア 7

す
スケジュール設定 45

せ
セキュリティ ツールおよびプライバシー ツール
127

そ

ソースの選択 128

その他の要件 8

た

ダイナミック/GPTディスクおよびボリュームの復元について 84

ダイナミックディスクを操作する場合の制限事項 10

ダイナミックボリュームの復元 84

つ

ツール 109

て

ディスクとパーティションのバックアップ 41

ディスクとパーティションのリカバリ 71

ディスクのクローン作成 20

ディスクのクローン作成ウィザード 100

ディスクのクローン作成と移行 99

ディスクのクローン作成ユーティリティ 99

ディスクリカバリモード 91

データのアップロード速度 62

データのバックアップ 41

データの復元 71

と

ドライブ文字 126

トラブルシューティング 32, 138

は

バージョンチェンスキーム 50

パーティション ラベル 126

パーティションとディスクのリカバリ 82

パーティションのプロパティ 83

パーティションの種類（これらの設定は、MBRディスクのみで利用できます） 126

パーティションの設定 125

ハード ディスク ドライブのクローン作成が必要な理由 19, 127

ハード ディスクの消去方法 129

ハードディスクドライブのクローン作成 19

ハードディスクの選択 122

はじめに 7, 15

バックアップ オプション 44

バックアップ スキーム 48

バックアップ、リカバリ、およびクローン作成に関するFAQ 38

バックアップアクティビティと統計 65

バックアップイメージのマウント 133

バックアップとバックアップバージョンのクリーンアップ 68

バックアップとリカバリを使用した SSD への移行 107

バックアップのスナップショット 62

バックアップのベリファイ 67

バックアップのベリファイ オプション 58

バックアップの操作 64

バックアップの内容の検索 90

バックアップの分割 57

バックアップの保存場所の決定 30

バックアップの保存先の分散 67

バックアップの予備コピー 59

バックアップバージョンの自動クリーンアップ

69
バックアップバージョンの手動でのクリーンアップ 69
バックアップファイルの命名 36
バックアップをその場で分割する 68
バックアップ処理のパフォーマンス 61
バックアップ処理の通知 54
バックアップ処理メニュー 64
バックアップ処理前後に実行するコマンド 56
バックアップ設定のインポートとエクスポート 136
バックアップ全体を削除する 69
バックアップ用のファイル レベルのセキュリティ設定 60
バックアップ用の新しいディスクを準備する 31
バックアップ用ユーザーコマンドの編集 57

ひ

ビルトインストア 12

ふ

ファイルシステム 125
ファイルバックアップとディスク/パーティションイメージの違い 25
ファイルとフォルダのリカバリ 89
ファイルのバックアップ 19
ファイルへのアルゴリズムの保存 132
ファイルやフォルダのバックアップ 43
ファイルリカバリオプション 93
ファイル上書きオプション 93
ブータブルメディアからの起動時におけるビデオモードの選択 119

ブータブルメディア配下の新しいディスクへのシステムのリカバリ 76

へ

ベーシックボリュームおよびディスクの復元 85
ベリファイオプション 92

ゆ

ユーザーインターフェイスの言語 15
ユーザー定義アルゴリズムの作成 131

ら

ラップトップ電源の設定 63
ランサムウェア対策保護 97

り

リカバリ オプション 91
リカバリの準備 71
リカバリの前後に実行するコマンド 91
リカバリ完了時 82
リカバリ後のパーティションのスタイル 85
リカバリ処理のパフォーマンス 94
リカバリ処理の通知 94
リカバリ用ユーザーコマンドの編集 92
リスト内でのバックアップの並べ替え 66

漢字

圧縮レベル 61
異常停止の原因を特定する 71
開始する前に 20
完全バックアップ 26
完全バックアップ、増分バックアップ、差分バックアップ 26

基本的な概念 24

既存の.wimイメージへのドライバの追加 113

既存のバックアップをリストに追加する 68

空きディスク領域のしきい値 54, 94

月単位のバックアップのパラメータ 47

検疫内のファイルの管理 98

差分バックアップ 28

最小システム要件 7

使用方法Acronis DriveCleanser 127

手動パーティション操作 101

週単位のバックアップのパラメータ 47

処理の優先順位 62, 94

初期化方法の選択 123

消去アルゴリズムの定義 131

消去後の処理 132

詳細設定 46

上記の推奨策の効果がでない場合の処理 107

新しいパーティションの作成 124

新しいハードディスクの追加 122

制限事項と追加情報 135

選択する移行モード 105

増分バックアップ 27

単一バージョンスキーム 49

著作権情報 6

追加情報 121

電子メールによる通知 55, 95

動作 33

同じディスクへのシステムのリカバリ 72

特に頻繁に発生する問題の解決 138

日単位のバックアップのパラメータ 47

認証設定 32

必要なときにブータブルメディアを確実に使用できるようにする 115

保護 97

保持ルール 34